

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961

GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy

コンタクティ―

contactee

火星の驚異の地下大都市！

**UFO目撃日記(5)●加藤純一
異星人の壮大なスペース・プログラム
東京造形大学でUFO講演
検証「UFO写真」●三島貴博**

宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(6)

WINTER
1998

143



CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness>

〈巻頭言〉人間の転生	1
火星の驚異の地下大都市！	久保田八郎 2
〈写真〉ウルグアイのUFO	12
〈写真〉UFO、カナダに出現	13
〈自動書記絵画〉他の惑星の大母船と小型機の群れ	秋山 眞人 14
UFO目撃日記(5)	加藤 純一 16
異星人の壮大なスペース・プログラム	平田 泰介 18
東京造形大学でUFO講演	久保田八郎 24
GAP短信	26
〈予告〉第6回・久保田先生との質疑応答会	27
科学——SCIENCE	28
テレビでUFO問題とGAPを語る	会田 裕子 30
私が目標とする宇宙への道(3)	渡辺 康英 31
検証「UFO写真」	三島 貴博 32
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ⁽⁶⁾	ジョージ・アダムスキー 38
〈写真〉ブラジルのUFO	45
本誌バックナンバー主要記事目録	46
〈予告〉第7回・秋田支部大会	47
〈投稿欄〉ユーコン広場	48
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究家と交流を保っています。

●東京本部と地方の16支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学について研鑽しており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先駆者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気満ちています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へハガキで案内書をお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

〈表紙写真〉

1952年5月1日、午前7時58分、ジョージ・アダムスキーがバロマー山の台地から8インチ反射望遠鏡で撮影した金星の大母船。全長約600メートル、直径約45メートル。これは同年11月20日にカリフォルニア州デザートセンターに飛来した大母船と同一物体とみられている。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」（久保田八郎訳・中央アート出版社）に出ている。

《巻頭巻》
人間の転生

本号には久しぶりにZ氏の素晴らしい体験談を掲載した。この内容たるや地球上の誰も知らなかった事実が洩らしてある。火星の地下大都市の実態だ。前代未聞といってもアメリカのNASAは知っていたというのだから、ごく少数の地球人は知識を持っていたわけだ。

世の中はこんなものなのだろう。ありそうもない事が意外にも事実であり、もつともらしい事がウソであつたりする。隠されていることで洩らされない物事はないとイエスは言っているので、

どんな隠蔽（いんぺい）事でも早晚表面化するのであることは新聞を賑わす政財界の不祥事でもわかる。

しかしZ氏の話は腐敗した内幕どころか火星に関する驚天動地の凄い実態を伝えている。俄かには信じられないという御仁も多いだろうが、それは人間個々のカルマに左右されるのであるから不信者を咎めるわけにはゆかない。昨年のGAP総会における筆者の講演で話したことであるが、同じ学校で同じ先生方から同じ教育を受けながら卒業してからある人は極右になり、あ

る人は極左になったりする例がよくある。このような差が生じるのは絶対に教育の影響ではない。つまり本人の内部に過去世からの体験の記憶が残留しているからである。前者は過去世において極右的な活動をした人であり、後者は過去世で極左運動に携わった経験の記憶が残っているからなのだ。

同様に、ある人はUFOや超能力の存在を文句なしに信ずる一方、かなりの学識教養や学位等を持ちながら頭から否定して笑い飛ばす人もある。この差はいかなる理由によるものなのかといえ、やはり過去世の体験や知識の記憶によるのであるとアダムスキーは言っている。

何度か死んで灰になった人間がなぜ過去世からの記憶を持ち運ぶのか。これは大変難しい問題だが、肉体は何度死滅しても、絶対に消滅しない。何か人間には付随して続くのであつて、これは永遠に存続するという。科学的には未発見なるも、いつかは重要な問題として探求的になるだろう。

いったいに現在の地球の科学が宇宙の森羅万象を極め尽くすほどのレベルに到達しているかという、残念ながら超高度な発達を上げている我らの太陽系の別な惑星群に比較すれば、まだ幼児の段階だと言われている。この程度の科学力で解明できない物事が存在している場合、「科学的に考えられない」の一言で片付けるのは井蛙（せいゐ）の管

見も甚だしいということになる。

Z氏の場合、地球の科学をはるかに超えた、というよりも全く未知のある能力によつて、スペースビープルからの波動を感じしながら音声と映像とを受信し、交信しているのである。これは不思議な能力ではない。これに類似した能力者はまだ他にもいるからだ。

ただしこれは心霊ではない。筆者の見るところ真実のテレパシーや遠隔透視能力である。つまりスペースビープルと同等のレベルに達していると思われるのである。氏は遠い大昔、ムー大陸にいたことがあり、当時から超能力的な発達を遂げていたらしい。こうした記憶または能力は転生を通じて持ち越されるのであつて、これこそ人間の真の自我である。

そこで今度は転生という問題が浮上してくる。つまり生まれ変わりである。この問題は一部の精神世界探求者によつてかなり研究されてきたが、まだ科学的には全く未解決であり、むしろ五里霧中といえる。それは人間の真の実体を科学的に突き止めない限り解明できないだろう。心霊的な靈魂ではなくて、物理的な実体そのものをである。むかしある新興宗教の会合に出席したとき、あまりにも異様な心霊的雰囲気（きんれいけい）に閉口したことがある。ここでは理性的な思考力は皆無であり、指導者の言動に振り回されているマリオンネットそのものの姿があつた。

UFO問題はかなり一般に浸透したけれども実在を信ずる人はまだ少数である。しかし来世紀になればUFO群の飛来が激化してくると思われるので、一般人の宇宙に対する意識は高まるだろう。そのときは恐怖心を伴わないような状態で飛来が行なわれるだろうから、むしろ地球人の感覚は高揚して宇宙的な意味で少し進化するのである。この宇宙的な意識の高まりこそ真の意味の人間の進化であるとZ氏は言う。この宇宙船の大挙飛来は今世紀末から世紀初頭に実現するかもしれないという。今世紀末といえれば来年のことだ。何かごえらい事が発生するのか？ 良

話が戻すと、火星には凄い大文明が存在するが、人間の大多数は地下に巨大都市を建設して居住している。そして地下には宇宙船を建造する大工場が複数ある。これは他の惑星群の要求に応じて建造されるので、要するに火星は大工業惑星なのであるという。これはアダムスキーの言説と一致する。来世紀中葉までには地球人も反重力宇宙船を建造して他の惑星を訪問するようになるらしい。そうなれば地球人は飛躍的な進歩をとげることになり、そのときこそ地球人は大宇宙との一体感を持つようになるのである。今はまだ駄目だ。とにかく宇宙への進出だ。そうなれば戦争どころではなくて、真の平和思想も生まれるだろう。（久）

Huge, Wondrous Underground Cities On The Planet Mars! by Hachiro Kubota

火星の驚異の地下大都市!

久保田八郎 (日本 GAP 会長)



ロイター・サン

本誌135号と136号に連載した記事「愛と救いの異星人交信」は絶賛を博したが、その主人公Z氏は健在で、依然としてスペースブラザーズ(友好的な異星人)と交信を続けている。今回久々に同氏が筆者に語ってくれたのは、火星の驚くべき地下大都市に関する実話で、これもスペースブラザーズからの交信により伝えられたもの。

ただし以前にも述べたとおり、同氏はフィジカル・コンタクト(肉体のま直面と向かっての対話)ではなくて、従来どおりテレパシーと遠隔透視的な映像受信の方法により詳細な情報を伝えられたのである。これは心霊的な現象ではなくて、高度に進化した異星人たちの日常茶飯的な技術を共有する希有な地球人の一人である。

なお、前記の「愛と救いの異星人交信」はその後に筆者がまとめた単行本「UFO事件と愛と救いの異星人交信」(中央アート出版社刊)の中にも収録してある。前回はZ氏の自宅を訪問して取材したが、今回はある地方都市の中堅ホテルの一室を借りて対談した。以下力ギカッコ中はZ氏の話。

火星探査の結果に疑問をもつ

「今回私が火星の件について久保田先生にお話をしたいということで、こちらから連絡をしました。実はこの件を以前に私からスペースブラザーズに聞

いてみましたら、『日本GAPの久保田には話してもよい』という許可を頂きましたから、もう大丈夫です。

一昨年でしたか、地球から火星に向けて探査機が打ち上げられて、アメリカのマーズパスファインダーが軟着陸しました」

これは一昨年二月にNASA（米航空宇宙局）により発射されて昨年七月に火星に着陸した一号機を意味する。「そのときのデータと言いまじようか、

情報がテレビを通してNASAから一般市民にいろいろと送られたのですが、そのときの火星の情報がすごくありきたりの内容だということに気づいたんです。何回テレビを見ても、一番最初に着陸した土地の映像と解説の話だけで、それしかなかったんです。それで火星についての本当の情報が一般市民に伝えられていないというのが現状です。

それで私はそれを見ていて、見ながら意識の中で宇宙に向けて『本当の事を私は知りたいので、もしよろしければ教えて下さい』と言いながらずーっと唱えていたんです。

そうしたらあるとき、一カ月ぐらいたつてから、いつものフィーリングみたいなものがありまして、これは絶対彼らからの何かの答えがあるのだなと思つてコンタクトに応じたのです。

やはりそのとおりでして、彼らからのメッセージが届きました。

『あなたの思っている事は宇宙空間を通じて私達の所へ届いています』と言うのです。『それに関してお答えできる範囲でお伝えします』ということを彼らから言ってきたんです。

火星探査機の着陸場所が変えられた

それで私は、それなら教えてもらえますかと言つて、二回ぐらいに渡つてコンタクトしました。

彼らが言うには、火星へマーズパスファインダーが到着するまでのあいだも、もちろん彼らの宇宙船が尾行してついでに行っているんです。地球人がある目的地へ着陸させるとした場合、打ち上げる前に彼ら異星人からの意識的な力で着陸の場所を彼らが決めたそうです。

というのは、火星という惑星は私は映像で見たんですけれども、砂漠地帯が多いんです。それと北極と南極がありますが、北極の少し下の方に緑がある地帯があつて、人が住んでいる地帯があるんです。そんな所に盲滅法に探査機を着陸させることは彼らにとつて危険であるわけです。それはレベルの低い惑星から地球の都市部へ探査機を所構わずに着陸させては困りますから地球人も同じ事をやると思うんです。ですから火星でもその着陸場所を誘導したので。今までのバイキングでもそうです。みな火星人のコントロール

によつて着陸させているんです。

火星の大気が薄れたので地下へ大都市を建設した

今回のマーズパスファインダーを打ち上げるについては、異星人の方達が今回地球が新しい世紀を迎えますから、そのためにもつと地球人が宇宙に目を向けるようにするために、彼らの方が地球の科学者とか政府とかいろんな所で仕事をしたということなんです。ということは地球人がまず火星に目を向けるように仕向けたということです。

なぜ火星かと言いますと、火星が最も着陸しやすい場所なんです。というのは金星とか土星などは主に表面的に文明があるんですが、火星は大昔から地下に都市を建設しているということです。

なぜなら火星も地球と同じように自然のいろいろな周期を迎えているからということなのです。大昔はもつと水があつたんですが、それがいろんな周期を終えてから大気が薄くなったというわけです。昔はもつと濃密な大気に包まれた惑星だったそうです。

しかし大気が薄れていつて太陽の有害な放射線が入り込んできたために、彼らはまずそこに住んでいる住民を金星とか土星とか別な惑星に移動させたということ。移動させているあいだに建築その他の技術者を残して、いろんな惑星と共同しながら地下文明を

造つたということです。

その地下文明を彼らが私に映像で送ってくれたので私が見たわけですが、これは彼らが直接自分達で見た光景を記憶のままで私に送ってくれたのです。つまり彼らが思い浮かべた光景が私の所に直接届くのです。

それで私が見たものは、火星の表面のいろいろな個所に地下へ入る入口みたいなものがあるんです。いつか火星の人間岩の写真が公開されましたが、あそこも一つの出入口なのです。

そのほかに緑がある地帯とか、その他のいろんな地帯にも出入口があります。

地下の大工業地帯

そこから私が見た映像は次のとおりです。私のスクリーンの中に大きな球体が見えまして、それがだんだん近づいて来るんです。そうすると、あるハッチみたいなものが開くんです。そこへずーっと入つて行くんです。

入つて行きますと、まず宇宙船が着陸する飛行場みたいなものがあつて、そこへ降り立つて、そこから映像がずーっと変わつて行くんです。ですから工業地帯ですね。そこへ案内されたんです」

それは地下の工業地帯？
「そうです。私が見たものは、宇宙船を建造する場所だったんです。それで

彼らが言うには、火星という惑星は現在、人間は住んでいるんですけれども、おもにいろいろな惑星と共同で宇宙船を造る場所だと言われたんです。

というのは、地下で造りますので、回りに何も邪魔されなくて造ることができるという意味があるらしいんです。それで映像を見せてもらったんです。

さっきの話に戻りますが、なぜ地下に潜ったかというわけは、太陽の有害な放射線などを避けるためです。

それで地下都市というのは、工場は別として、いろいろな文明があるそうです。それは地下の奥底ではなくて、

大体に我々の計算でゆきますと、表面から一〇〇メートルぐらいの所にいろんな都市がありまして、人工の海もあるということ、食べ物なども作っているそうです。

彼らは火星人の一部の人間が地下にいますと言いますが、これは関係する家族を含めての計算だと思います。

NASAは火星の真相を隠している

それで地球のマーズパスファインダーが今どんな調査をやっているか、どんな映像を撮っているかということ、教えてもらったんですけれども、マーズパスファインダーの行動範囲は小さいらしいんですね。だからあの付近では文明の証拠物件を見つけることはできないんです。

しかし彼らが言うには、マーズパスファインダーに見せることのできる物は、彼らがわざと写させるようなことをほのめかしていました。ですから、現在、火星の情報は表面に洩れてはいませんが、かなりのものを撮影していると思うんです。異星人の宇宙船も撮影範囲内に存在していたら写っていると思います」

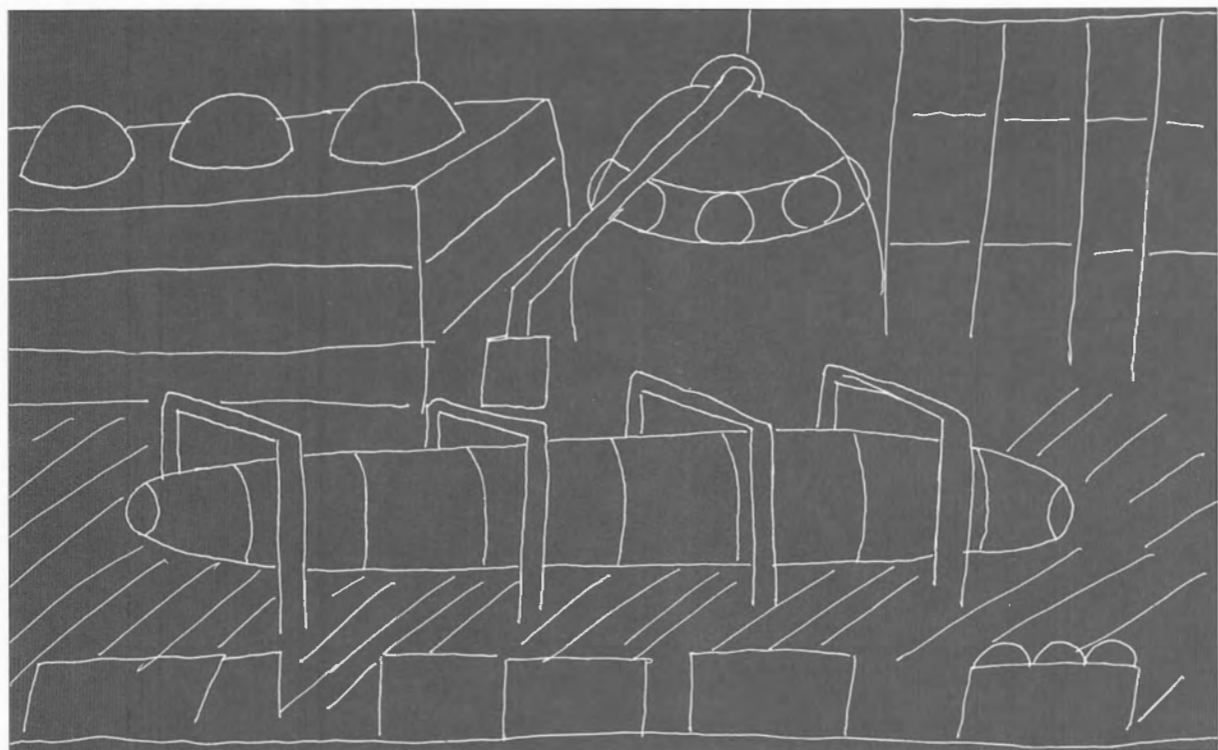
NASAはそれを一般に公開しないわけですね。

地球人のマイナスの意識を阻止する

「そうです。なぜ彼らがそういうふうになしたかといいますが、地球が新しい世紀を迎える前に例のノストラダムスの大予言が地球上で話題になっているでしょう。来年の七月のことですからね。その人間的なマイナスの意識を遠ざけるために、今回我々の意識を火星に向けるように仕向けたというのが彼らの目的なのです。

というのは、地球人のマイナス的なものが地球を覆いかぶされば、地球自体のパロメーターが狂うというのです。そして悪い方へ向かって地球自体のエネルギーが人間の意識によって破壊されるそうなんです。

しかし、これを逆にプラスの方向へ人間が意識を向ければ、マイナス的なものは大きくならないんです。なかにはプラスの意識を持った人がそれをカ



▲乙氏がスペースビーブルから送られる映像を透視して描いた火星の地下都市内部の宇宙船製作工場。細部は省略してある。



▲筆者と乙氏。

バーするということ、そういうことが今回のマーズパスファインダーの彼らの一つのプログラムなんです。こうして地球人が宇宙へ出発する第一歩が今回の火星の探査なんです。

月というのは地球の衛星です。しかし火星というのは惑星です。惑星探査というのは、まず宇宙が存在して、その中に惑星、次に太陽系、銀河系と広がるわけですが、その地球が属する太陽系の中の惑星というのはすごく重要なことです。

ところが地球では『地球以外には人間がない』とか『文明がない』と思っている人は多いですね。それを逆に地球以外にも文明があるというよう

な意識を持つことが人間にとって一番大切だと思います。

なぜ大切かと言いますと、別な惑星の人達は大昔から我々地球人には考えられなかった『別な土地や別の国へ行く』という習慣的なものが存在していて、別な惑星へ行き来しているんです。それはもう本当に友好的で、我々が東京へひよいと行くように、彼らは惑星から惑星へ行ったり来たりしていますので、一つの家族なんです。

その家族の中に地球人をもっと近づけさせて、本来はその家族のなかに入りたいと思っているんです。これはアダムスキーも言っていると思いますが、これが彼らの目的なんです。

そのために一番着陸させやすい、しかも彼らがまだ表面的に住んでいる場所の古代の物を見せるために火星にきたんです」

火星の表面にも人間は住む

火星の表面に全然人間が住んでいないというわけではないの？

「住んでいます！ それは砂漠地帯ではなくて緑の地帯です。そこには住んでいるそうです。そこには金星の建物に似たドーム型とか、ピラミッド型などの建物があるそうです。ただし、さほどスケールは大きくないそうです。あと、表面的に一部に海があるそうです。これはNASAも知っているそうです。探査機は確認しているということです」

昔は火星の表面に運河が望遠鏡で見されたのですが、あれはどうでしょうかね？

「あの運河の件に関しては聞いていないです。しかし私が思うには、あの運河というのは、大昔に自然に出来たものではないと思うんですよ。それは、鉱物を掘り出すとか、いろんな物を掘り出した人工的な跡だと思うんです。火星には宇宙船を造るための材料とかそういう要素が多く存在するんだそうです」

現在、運河は地球からは見えないと言われている。わざとつぶしたのか。

ノストラダムスの予言（の解釈）は当たらない

さっきのノストラダムスの件ですが、来年七の月に天から恐怖の大王がやってくるのかなんとか言っていますね。恐ろしい予言みたいですが、これについては何か聞きましたか。

「これは前回のときにお話ししたと思うんですが、結局、何も起こらないんです。これは彼らが言うには、何も起こらないと言っています。地球自体が生きていますので、自然の入れ替わりと言いますよ、そういうもので、ちょっとした災害というか、それはあるそうなんです。しかし地球が破滅するとか、そんなことはないそうです。」

そして、前にも言ったと思いますが、西暦二〇〇〇年を迎えるにあたって異星人らは大挙して地球へやって来るということです。それは一九九九年から二〇〇〇年にかけてです。これは世界各国でUFOが頻繁に現われる時期で、これは彼らのプログラムに入っているんです。

というのは、彼らは自分達の宇宙船を見せることによって、我々地球人の意識をもっと大きくして、宇宙へ向けるというのが彼らのプログラムなのです」

そうなると火星だけではなくてほかの惑星からも連合して来るわけですか。「もちろん来ます。これは金星、土星、

その他の惑星からも来るそうなんです。この惑星連合にかかわっていないのは地球だけなんです。というのは、地球は宇宙船を持っていないので、別な惑星へ行けないという理由があります。

それと地球人は闘争心がすごく強いものですから、彼らがこちらへ来れば、地球人は興味をもって彼らを捕えたりすることが多かったらしいんです。ですから、彼らは地球人のそういう意識がなくなるまでは、彼らがこちらへ来る場合、訓練された人間を送ったり、宇宙船にしても調査のため以外には来ないんです。このことはコンタクトの最初の頃から何回も聞かされているんです。私はコンタクトの最初の頃に『なぜもつと来ないんですか』と質問したら、そのように答えてくれたんです。そのあとに久保田先生からアダムスキーさんの本を送ってもらって、その本を見たときに、同じことをアダムスキーさんも言っていたので、びっくりしちゃったんです。

私の話というのは、ある部分では秋山眞人先生やアダムスキーさんの話とは違う部分もあるかもしれませんが、それはコンタクトする人が違うからである程度の相違はあると思うんです。地球に住んでいる人間は、もつと天空の方へ意識を向ける方が本来の人間ではないのでしょうか」

全くそのとおりである。これは秋山氏やアダムスキーと共通する原理だ。

時期が来ればNASAは発表する

このさき将来的にも我々は彼らが伝わってきた道を私達も伝わらなくてはいいないんです。それが一つの進化の通り道だと思うんです。火星の件についても、時期が来ればもつとNASAの方からちゃんとした情報が流れるそうです。

今なぜ流さないのかといいますと、月のときもそうだったのですが、火星の件についても今までの教育とか科学とかいろんなものでもって間違った事を我々は埋め込まれているんです。それが急にくつがえされるということになると、私達の意識がすごく破壊されて混乱することを彼らは気にしているんです。混乱が起これば我々の意識が破壊されて人間同士の争いも起こるということを彼らは読んでいます。

マーズパスファインダーの場合は隕石を発見しましたが、これは偶然ではなくて彼らが仕組んだのです。つまりわざと発見させるようにしたのです。それを発見することによって地球人が火星に目を向けるようになるというのが彼らのプログラムに入っているんです。彼らは地球に来て『火星はこうです、こうです』とは絶対に言いません。それは地球人のためにならないからです。地球人の方から何かを発見するよ

人間には知る権利がある

私の今回の情報というのは、地下都市があるということだけでも、皆さんに知ってもらいたかったんです。というのは、表面的なもので今までのバイキングの場合もそうだったんですが、火星を見ると砂漠地帯ばかりなんです。だけど、それについて地球の科学者がちゃんとしたことを言わない。

だから我々はいつまでたっても本来のちゃんとした惑星自体を知らないで、そのままずっと新しい世紀を迎えます。しかし我々が二〇世紀を迎えるということは、宇宙へ出て行く第一歩なんです。だから私は今回久保田先生に、火星には文明があつて、その文明の半分以上は地下にありますよと伝えしたかったんです。これは確実なんですよ。

私が見せてもらったのは宇宙船を造る工業地帯だったんですが、実際は円形都市ですし、地球みたくに建物や並んだ都市もあるんです。いろんな都市が中にあるそうです。

よく造りましたねと私が聞いたんです。すると彼らは簡単に言うんです。『今現在あなた達の星でも、地下というものがありますよね。どこの場所に行っても地下にいろんな設備をそなえて快適に出入りしていますね。それのもつと進化したものですよ』と、ポ

ツと言われたんです。

なるほど、これは我々地球人でも出さると思いましたが。はっきり言いますと、東京でも大阪でも名古屋でもそうなんです、駅の周辺には地下がありますね、あれの巨大なものだと思っていればよいのです」

人面岩の真相

火星の人面岩の件ですが、この前アメリカは否定して、あれは偶然の産物だと言っていました、あれはわざと人間の顔に造つたのですか。

「そうなんです。目的があるそうです。あれは地球だけに対して造つたのではないんです。火星はこの太陽系の各惑星と交流しているけれども、別な太陽系とも交流しているんです。しかしまだまだ遠い他の銀河系があり、彼らの言うところによれば、この宇宙には想像できないほど無数の惑星があるのであつて、地球人が想像もつかないほど知的生命体がいるというんです。それも我々と同じ姿形の人類も多

くいるそうです。

そこで彼らが言うには、別な銀河系などの人達がこちらの太陽系を訪れたときに、ここにも文明がありますよということを知らせるためにああいう物を造つたというのです。

火星の場合は地下に潜っている、ある一部分的な表面の都市しかない



▲火星の面人岩といわれるもの。1975年8月にNASA（米航空宇宙局）が打ち上げた火星探査機パイキング1号が1年後の7月25日、北平原のシドニア地域を周回船が撮影した写真の中に、人間の顔そっくりの巨大な岩が写っていた。これは大問題となり、偶然の産物とされたが、Z氏によれば人工建造物だという。秋山眞人氏も人工物と指摘している。

です。それは緑の中に入っているし、砂漠地帯の方が多いので、その砂漠地帯に人面岩の建造物を造れば、文明があることがわかるというので、その目的で造ったそうです。

想像を絶する巨大母船も造られる

彼らはこの太陽系以外の惑星も訪れているらしいんです。そして銀河系にも探査に出かけているということです。これはかなり宇宙船が発達しているからです。宇宙船でも形がうんと進化しているのがあるらしいです」

別な銀河系へ行ったり来たりしているわけですね。

「母船にしても凄く大きな母船が造られているらしいんです。我々の想像もつかないような数十キロもあるような母船を造っているそうです。そんなに遠くへ行くためには船体の中に機械類やいろんな物が備えつけられますよね。そのために大きくなるんだそうです。そして遠くへ行くほど沢山の人間が必要になりますから、そのために大きくなるのだそうです。」

反重力宇宙船が地球でも出来る

今回もう一つ私が伝えたいのは、二〇〇〇年過ぎに地球から宇宙旅行が始まりますが、その宇宙船が注目すべきものになるんです。今のスペースシャトルは噴射推進式ロケットを応用しますが、今度の宇宙旅行用のスペースシャトルは直接飛び上がって宇宙に出るんです。ロケットに積まないんです。その宇宙船の半分は彼ら異星人の宇宙船の推進原理を応用するそうです。それだけ地球の科学も進歩してNASAあたりが研究しているそうです。

その宇宙船の開発について私は彼らに聞いたんです。『あなた方の援助がありましたか』と。『もちろん』と言いました。『私達はヒントを与えるだけですが、私達の兄弟はあなた方の研究所へ入っています』というわけです。そして宇宙船の開発に協力しているということです。ですから今度の宇宙旅行は確実に達成されるそうです。『そうすれば、あなた方地球人は直接宇宙を見ることができるようです』と言っていました。それはここ一〇年か一五年くらいで実現するらしいのです。その推進方式は、アダムスキーの言う重力場推進方式のことですかね？「そのことじゃないですか。だって表面的には燃料噴射だけだったら小型のものしか出来ませんので、遠い宇宙空

間へは行けないんです。NASAは隠すことが専門ですが、その噴射推進でカモフラージュして、実際に中にあるのは反重力推進装置を応用するということです。彼らはそれを楽しみにしています。下さいと言っていました。」

日本GAPを高く評価する異星人達

この話は去年のことだったんですが、最初はおおやけにしてはいけないということでした。『しかしこれが近い未来に実現するものならば私を信じて下さい。私は関係のない人にまで話すことはしません。特定の人にしか話しませんので、このことを話してよろしいですか』と聞いたんです。そうしたら相手は久保田先生のことです。すぐに分かってくれたんです。それで承諾してくれました。私がコンタクトしているレフターさんとかエルミナさんとか、レナーさん達も、このGAP自体をすごく評価しているんです」

（編注Ⅱ以上の名前はZ氏がコンタクトしている異星人達の仮の名前）

「日本GAPが宇宙船（UFO）ばかりでなく、人間の意識をプラスの方向にもってゆくといましようか、本来の宇宙的人間になろうとして意識を開発している活動を彼らはすごく評価しています」

あなたに情報を伝えてくれる異星人達は、もとの同じグループの人達

ですか。

「ええ、もう全く同じ人達です。それで以前に、いつも私が交信しているグループの人達が、別の銀河系から来た人を紹介してくれたことがあるんですが、その顔が映像で出てきたんですが、その人は今彼らの宇宙船と一緒にいるということ、M31のアンドロメダ星雲の中の、ある太陽系の中のある惑星から来た人なんです。

(編注Ⅱ M31はアンドロメダ座ヌー星の近くに見える銀河系外星雲。肉眼では五等星級の微光体に見える。地球からの距離は二〇〇万光年強。実直径は一〇万光年)

宇宙の人間の形と性質はみな同じ

それは男の人でして、地球人と全然変わりません。髪の毛は黒でもないし茶色でもないような中間の髪の色でした。その惑星でもさまざまな髪の毛の人がいるそうです。

しかし宇宙船もかなり進歩しているそう、やはり友好的な惑星なんです。その人の姿形は我々と同じなんです。このような別の銀河系の中では、我々地球人と同じ肉体を持った人間が住んでいる惑星がかなりあるそうです。

M31を銀河系と言う場合、これは厳密には銀河系外星雲であるけれども、ここでは銀河系と呼んでおくことにす

る。実質的に大差はない。

「しかし銀河系の誕生から発達の過程で人間の身体も進化して、我々とは違う形の宇宙人もいいるそうです。それはひどい怪物みたいなものではないんですが、我々人間とは少し相違のある生物もいる所もあるということでした。しかしそれとも知的生命体ということ、文明もちゃんと持っていて、乗り物もあるということです」

人間とはちよつと違うというわけですね。それがいわゆるグレイといわれるものではありませんか。

「私はそこまでは聞いておりません。たぶん地球でもグレイタイプみたいな宇宙人も来ていると思うんです。それは別な銀河系から偶然に来たというのが多いんじゃないですか」

グレイは地球上に存在するよう。日本の川の水面から二人のグレイが頭だけを出している写真を筆者はグレイ研究家からもらったことがある。

「彼らは言っていましたよ。どんな知的生命体でも本来の目的というのは、いろいろな事を知ること、人間が目的なのだそうです。というのは、今まで見えていない物を見る、探す、そういう欲望を人間は本来持っているんです。ですから、どんな星の人間でも、やはり冒険をするといひますか、よそへ出かけていろいろな物を見ようというのが、ほかの銀河系の人達の風習といいましようか、そういうものを持つ

ているそうです。

だから偶然によその銀河系から宇宙へ出て飛んでいるときに、この太陽系にふと入り込んで来る場合もあるそうなんです。

まず自分達の太陽系を理解すべし

だけど彼らが言うには、今地球人にとって一番大事なものは、別な銀河系とか太陽系よりも、まずあなた方の星があるこの太陽系をまず理解しなければ次の第二步には進めないと、言っています。いつも彼らは私に言うのです。あまり大きく考えないようにとも言われました。あまり大きく考えると、私の頭が混乱しちゃいますからね。

ですから私が今までコンタクトしてきて痛感しますのは、地球以外には人間がないと言う人がいること、自分が逆に不思議でしようがないんです。それらはもう、私が今住んでいるA市や近隣のB市またはC市に友達がいるという感覚で、あの火星、近くの金星というふうなフィーリングになっちゃっているんです。

私のテレパシー交信というのは、今一時的な休止期といひましようか、そんな状態なんです、しかし彼らの宇宙船を目撃することはずっと続いているんです。私は旅行が好きでして、去年の一二月には韓国へ行きましたし今年の一二月にもまた韓国へ行くんです。

旅行に出かけるたびに雲の上を飛行機が飛んでいますと、必ずUFOが並行して飛ぶか、または停止している場合もあります。昨年韓国へ行く途中、私がそれに気づいて心の中で「有難うございませう」と言つて確認すると消えるんです。かなり大きく見えますよ。そして合図をしてくれるんです。その場合は光をこちらへ向けてくれるんです。ピカッと。そして瞬間的に雲の中へ入って行きました。

私はなぜかむしろ韓国へ行ったんです。韓国は今経済問題や何やらで大変な時期にさしかかっているんですが、そういう関係で私の明るい波動をまき散らしてこいという意味なのかなとも思っていますがね。

それから写真の場合ですが、私がシャッターを切るとUFOが写っているんですが、彼女が私を撮ると写っていないんです(編注Ⅱこの女性はフィアンセ)。それらの写真はいづれお送りしましょう。

日本GAP会員の皆様へのお願ひ

これは私から日本GAPの皆様へのメッセージみたいなものですが、これから宇宙問題でいろいろ間違つた情報が出ると思うんです。しかしその情報に惑わされずに、信念をもってやっていって下さい。真実は絶対に洩れるんです。その真実を信じて研究を続けて

下さいというのが私の願いなのです。皆さん方は手を取り合って、もともと宇宙を、もともと惑星を大きい目で見て頂きたいのです。火星を大きな目で見たいのです。金星とか木星とか土星よりも今は地球から探査機を送っているのは火星ですからね。(日本からも火星探査機を発射した!) 表面的にも緑の地帯があるし、ちよつとした海もあります。それと地下都市は確実にあるということを皆さんに理解してほしいんです。その地下都市ではいろんな惑星用の宇宙船をそこで建造しているということです。

なぜ地下に潜ったかという理由は、自然の諸条件の変化やその他の事で、人体をまづ守るために地下へ潜ったというのが最初です。地下には人工的に空気を作って満たしているということです。火星の表面でも空気はあるんです。しかし我々地球人がボンと行って宇宙船から降りてボンと出て空気を吸って生きれるような空気ではないんです。やはりどんな惑星でも大きさによって、引力とか重力などの条件が変わるんです。惑星にはそれに対しての空気、成層圏、磁場とかのいろんなものがありますが、それに対する空気ですから、そこで順応する体を持てば行けると思うんです。

だけど地下へ入れば調整ができますので、直接我々も入れるそうです。し

かしある程度は体を慣らすことが必要だそうですが、それは宇宙船の中でやるということです。

以上が大体に先生にお伝えしたかった内容です。今回はこれだけを彼らから聞いていますので、素直にお話し致しました」

約一時間Z氏は語り続けて休憩にはいった。酒はやらないが、タバコを吸う氏はここでゆつくりと紫煙をくゆらす。また氏は食事の前には必ず合掌して敬虔な感謝の祈りを捧げる。

Z氏はふだんUFO問題をあらゆる人には話さないけれども、信じていない人も氏の話を熱心に聴くと、そのあと聴いた本人は必ずUFOを目撃するという。もちろんZ氏もひんぱんにUFOを目撃している。

最強力なのは人間の 想念波動

以前に富士山の爆発の件について聞いたことがある。これについて異星人達は「常にプラスの想念を発するようにはしていない。そうすれば大自然はそれに反応するでしょう」と言ったという。爆発の危険が差し迫っているというものではないらしい。しかし変化を強めるも弱くするの我々人間自身なのだと力説する。

「人間の想念波動がこの世の中で最も強い力を発揮すると彼らは(スペース

ビーブルは)言っていました」

このような哲学はアダムスキーや秋山眞人氏の宇宙的な哲学と完全に一致するものである。

宇宙船の形態

Z氏を援助している異星人のグループは地球の調査が専門なのではなく、常に宇宙空間を航行して宇宙そのものを研究しているのだという。地球へ来ればZ氏の援助を行なうらしい。つまりある特定の地球人を援助する異星人のグループは決まっているのであつて、無差別に地球人とコンタクトするわけではないらしい。レフターのグループはかなり大型の宇宙船に乗っているという。大きいものになると長さが二キロあるという。一種の宇宙都市だ。

それに積み込んである小型のスカウトシップ(俗に円盤と呼ばれている)は、我々が写真や実物で見慣れているアダムスキータイプのものとはかなり形が異なっているという。つまりそれほどに進歩したのである。

宇宙船でV字型とか翼のあるものは絶対に存在しないという。すべて突起物をなくしたツルツとした流線型のものばかりだという。これは宇宙の力は地球人の想像をはるかに超えているからで、船体に均等に力が加わるように設計されているのである。その点、地球の飛行機のように翼が突き出ている

形態は非常に危険である。母船は巨大な円形か球体であるが、我々の太陽系の金星や土星その他の惑星で使用されている母船はほとんど円筒型つまり葉巻型であるという。

Z氏はアダムスキーが一九五二年にアメリカのカリフォルニア州南部のデザートセンターで金星人と会った件についてスペースビーブルに尋ねたら、あれは金星人の別なグループの一人が着陸したのだと言ったという。そのときのスカウトシップ(小型円盤)は今でも使用されているのかとZ氏が聞いたら、内部の機械類は進歩したものに換えられているけれども、まだ使われているということである。現在は遠隔操作で飛ばす宇宙船が地球上空に多数来ているということだ。

また、デザートセンターの砂漠地帯はすぐく波動の良い土地なので、それでアダムスキーと金星人のコンタクトが行なわれたのだと、彼の援助グループの金星人が教えてくれたという。

アダムスキーは大超能力者であつて、イエスのように水をワインに変えることの出来る人であつたとは、昔筆者がアメリカのビスタでアリス・ウェルズ女史から聞いたことである。その他、テレパシー、遠隔透視、過去世透視力なども拔群であつた。彼が最初に出した体験記『Flying Saucers Have Landed』(邦訳『新アダムスキー全集 第一巻「第二惑星からの地球訪問者」

は昔ベストセラーになったが、日本語版もよく読まれている。

NASAの真相隠蔽は賢明

昔からアメリカのNASAは金星の探査をたびたび行なって、やれ金星は摂氏五〇〇度の灼熱地獄で生物は全然存在しないとかなんとか言明しているけれども、Z氏に言わせれば、あれはすべて欺瞞工作であって、NASAは金星に大文明があることを熟知しているという。月にも異星人の基地があることをNASAは知っているのだが、知らないのは一般大衆だけだという。

しかし現状ではNASAの隠蔽工作は賢明な処置であるというのが筆者の持論である。いま真相を発表しようものなら世界はハチの巣をつついたような大騒ぎになって収拾のつかない混乱が発生するだろう。

「これからは地球人も宇宙へ進出すれば、考え方も変わりますし、チャクラが改善されるでしょう。宇宙へ出るということはそれだけ神に近づくことですから、宇宙のパワーといましようか、それを人間が受ければ、人間の考え方は一八〇度変わるでしょう。」

宇宙飛行士達も宇宙空間でかなりの物を見ていると思うんです。そしてスペースシャトル達も宇宙飛行士が宇宙空間を飛んでいる間は、必ず付きまといて見守っているんですよ」

Z氏の過去世

あなたは昔にムー大陸にいたと言っていましたね。

「そうです。私が過去世の記憶を思い出そうとしたときに彼らが援助してくれました。そのときに、目をつむつたら、大昔の白い建物があって、一種の衣を着た人達がいつばいいるんです。そのうちに水がパツツとかかかってきて、覆いかぶさるような光景が見えて、私と一緒に逃げるのですが、私自身の体は見えないんです。それで海に吞まれる瞬間の記憶を私は保っているんです。そのときに画面の中に稲妻みたいなものがガンと出てくるんです。そのときに彼らが『あなたの過去世はまず最初にムーの時代に生きていました』と教えてくれたんです。それからいろいろな国へ転生して、いまは日本にいるというわけです。アメリカでも生まれたいことがあります。中国にもいました」

今生を終えたら今度は金星に転生するんじゃないの？

「さあ、それはどうでしょうか。それは今生の私の生き方次第です。そのために私はこうして一生懸命に宇宙問題を研究しているんですよ。彼らも私の生き方を見ていると思います。ですから、私もことごと、この問題にとりついて、地球を良くするために私なりに

頑張っているわけです。私が一生懸命にやれば、彼らも私を援助してくれると思います。」

たとえばこうして久保田先生に私の体験をお話しするのも、日本GAPさんに対する奉仕だと思っています。そして情報交換を続けながらやってゆくの私の使命だと思いますね。

以前、私が足を怪我するまでは全く宇宙からかけ離れた人間でした。それが怪我をしてから一八〇度人間が変わったのが自分自身でも怖いんです」

怪我をして回天の覚醒を得る

それじゃ怪我をしたために宇宙的な方向へ行つたということですね。

「そうです。怪我をしたために本来の自分に返つたという意味らしいんです。以前の若かった頃の私は少しキレた面もありましたが、今は人間の大切さとか、いろんな物の大切さを学んできました。ですから、もし事故にあわなかったら、今の私はあり得なかったでしょう。結局、事故のお蔭でこうして久保田先生ともお会いするようになったのですから。そして本当の異星人さん方の姿を知ることができるようになりました。ですから今は良かったなあと思っています」

なんとも特異な素晴らしい人物がいたものである。筆者には不可解や疑惑などはない。真実のコンタクトティーの

本質を良く理解しているからだ。

金星の音楽

Z氏は筆者との対談中、テープレコーダーでシンセサイザーによるある種の音楽をかすかに流している。これは氏が最も愛好する曲で、これを聴くと波動調整に非常に役立つという。たしかに音楽は人間の喜怒哀楽の感情を左右するので、静かな美しい曲を流せば、それなりに自分の精神波動も高次元化するのだと語る。今流れている曲は以前に氏の自宅へ参上したときにも聴いたから、このテープを常用しているのだろう。最後に氏からこのテープが私に進呈された。

彼はあるとき金星の音楽を聴かされたという。それは非常にテンポのゆるやかな静かな美しい曲で、まるで天国にいるかのような愉悅感に浸されたという。これも一種のテレパシーによる波動受信であって、メロディーが頭の中に響くのだという。音楽のことなので言葉による説明は難しいらしいが、大体的見当はつく。

筆者自身は先般数千曲の音楽ソフトを処分したが、少数の美しい曲は手元に保存しており、分裂感情が起ころうになればそれらを聴くことがある。

しかし何よりも大宇宙思念法を行なうのが最高の波動調整法である。

大宇宙の創造主の象徴的な姿を見せられる

氏の話によれば、あるときスペース・ピープルから宇宙の創造主の姿を象徴的に描いた絵を見せられたという。

それはまず宇宙が円形であらわしてあり、白い衣のような物を着た一人の人間がその円を優しく抱きしめている光景を描いたもので、「こんなふうにして創造主は宇宙全体を、やさしく抱いているんですよ」と氏は強調する。

その絵を描いて送るようにと筆者が頼んだら、いやこれだけは絶対に描けませんと苦笑いしていた。

筆者はこれで一つのアイデアが浮かんだ。宇宙全体を創造主が抱きしめているのなら、我々人間は創造主の子であるのだから、我々も万物を抱きしめるような感覚を起こすべきではないかと。これには「優しさ」が究極のポイントになるのだろう。難しいことだが一つの、しかも最後の目標とするべきことではないかと、この頃しきりに考えている次第である。

六方星の原理

Z氏は前述の六方星の図を持ち出して説明した。太古のムー大陸ではこの六方星が一つのシンボルになっていたという。青線を中心にまず信念があり、それにもとづいて実行することによつ

て結果が生じるという。赤線の中心は愛であって、これは具体的には親切な行爲となり、それは優しさをあらわすという。

これは人間が幸せになるための最高のバイオリズム（人体の機能が持つ一定のリズム）を保ち、意識を活性化させる方法だという。氏が作成した図を下に掲げるので照覧されたい。

勝利は科学にある

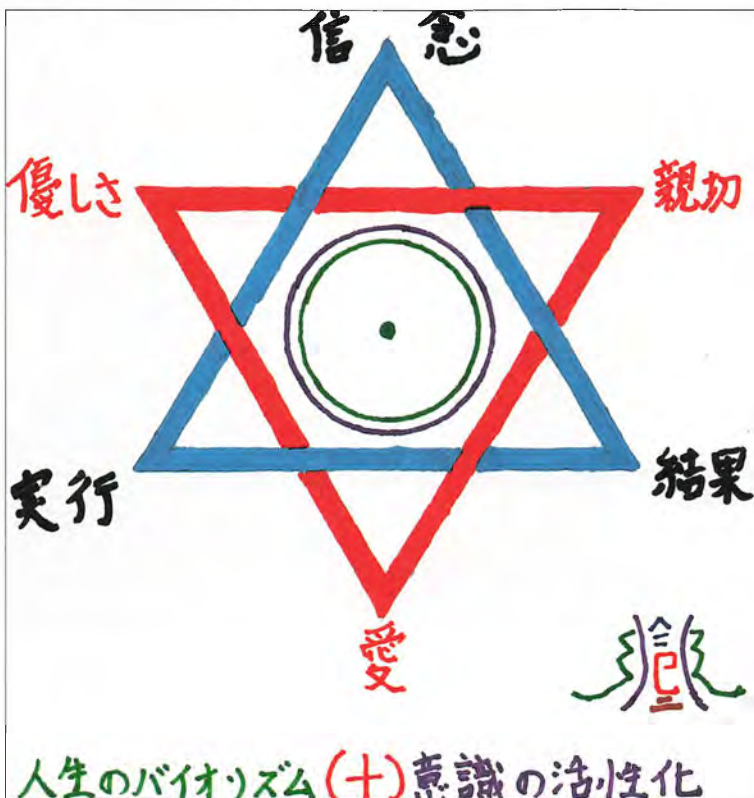
アダムスキー、秋山眞人氏、Z氏等のコンタクトティーに共通するものは一種の道徳律である。一般人は「なんだ、新種の宗教ではないか」と等閑視するかもしれない。しかし彼らが伝えた宇宙的な哲学がいわゆる宗教と一線を画するのは、偶像崇拜ではなくて宇宙全体を包含する「意識体」というものを想定している点にある。これはスピノザのような汎神論とは少し異なるが、強いて言えばイエスの説いた「天の父」思想そのものだと言えるだろう。だが後年イエスは宗教の教祖に祭りあげられて偶像の頂点に立ってしまった。ちなみにカントの『純粋理性批判』の中に「アプリアリの直感力」という言葉が頻出する。これはあらゆる人間に潜在するテレパシー能力を意味すると思われるが、カントがそれに気づいていたとすれば凄まじいけれども、理論に終始しているのは惜しい。

現在の地球の哲学や宗教では人類全体の救済はほど遠いだろう。だが地球人の宇宙開発が進んで他の惑星との交流が可能になれば、地球人は驚天動地のショックを受けて価値観の大転換を経験するだろう。したがって望ましいのは宇宙開発科学の発展である。科学！これこそ人類の救いの神となるだろう。

真実是最後に勝つ

Z氏との対話は二時間ばかりであったが、宇宙的な迫力が狭い室内に充満して、天空の彼方から一大交響曲が響くかのようであった。この記事では述べられない情報がまだ多くあるけれども、事の性質上やむを得ない。

▲Z氏が作成した六方星の原理図。





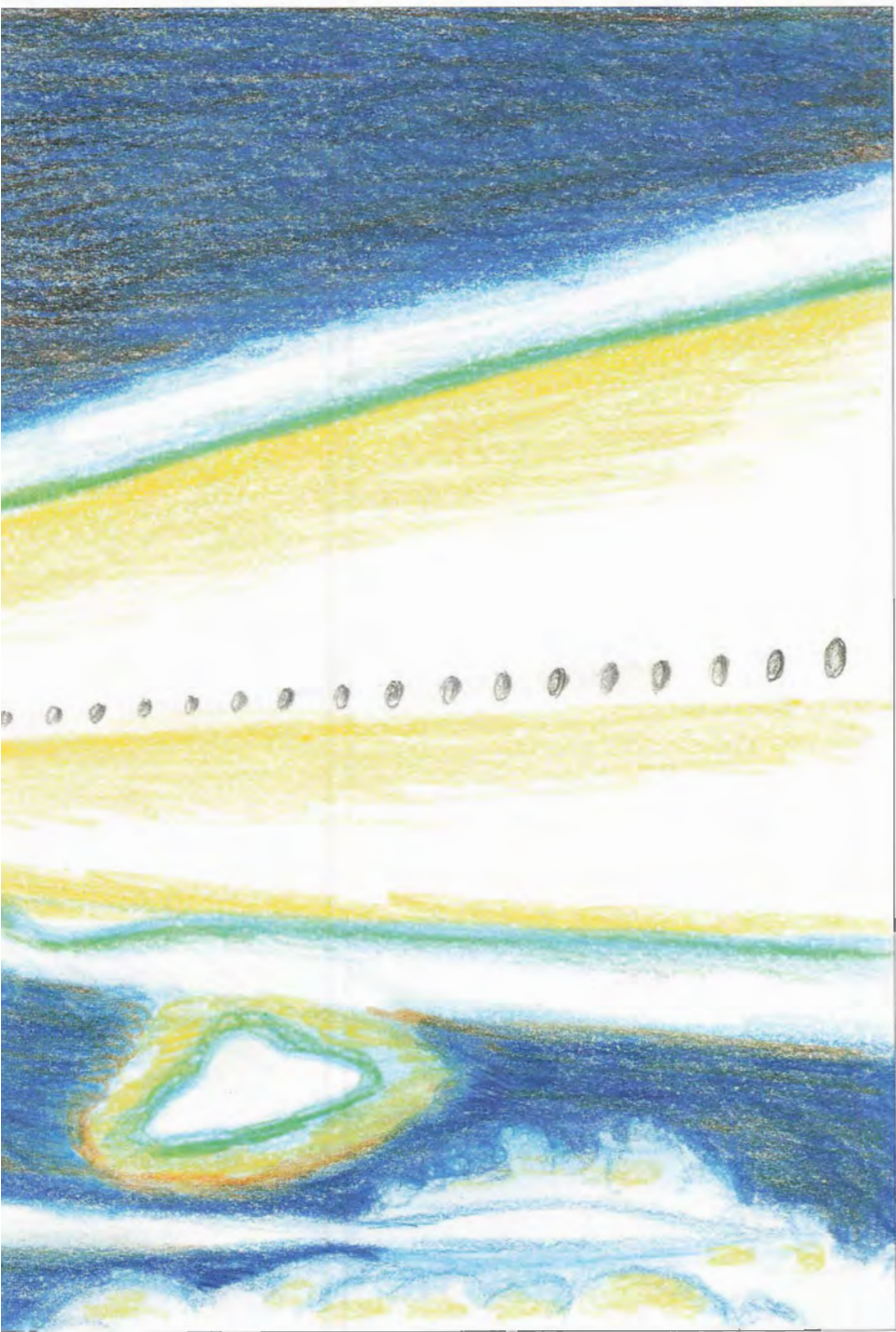
▲1977年7月11日、午後3時30分、ウルグアイのフロリダードでエクトール・フィーノ・デルガード氏が撮影した7枚の写真の2枚目。銀色の金属製の円盤型物体は彼の家の上空を飛んでからグリーンハウスの上空へ移動した。目撃時間は長く続いたが、やがて飛び去った。

©日本GAP

●UFO、カナダに出現

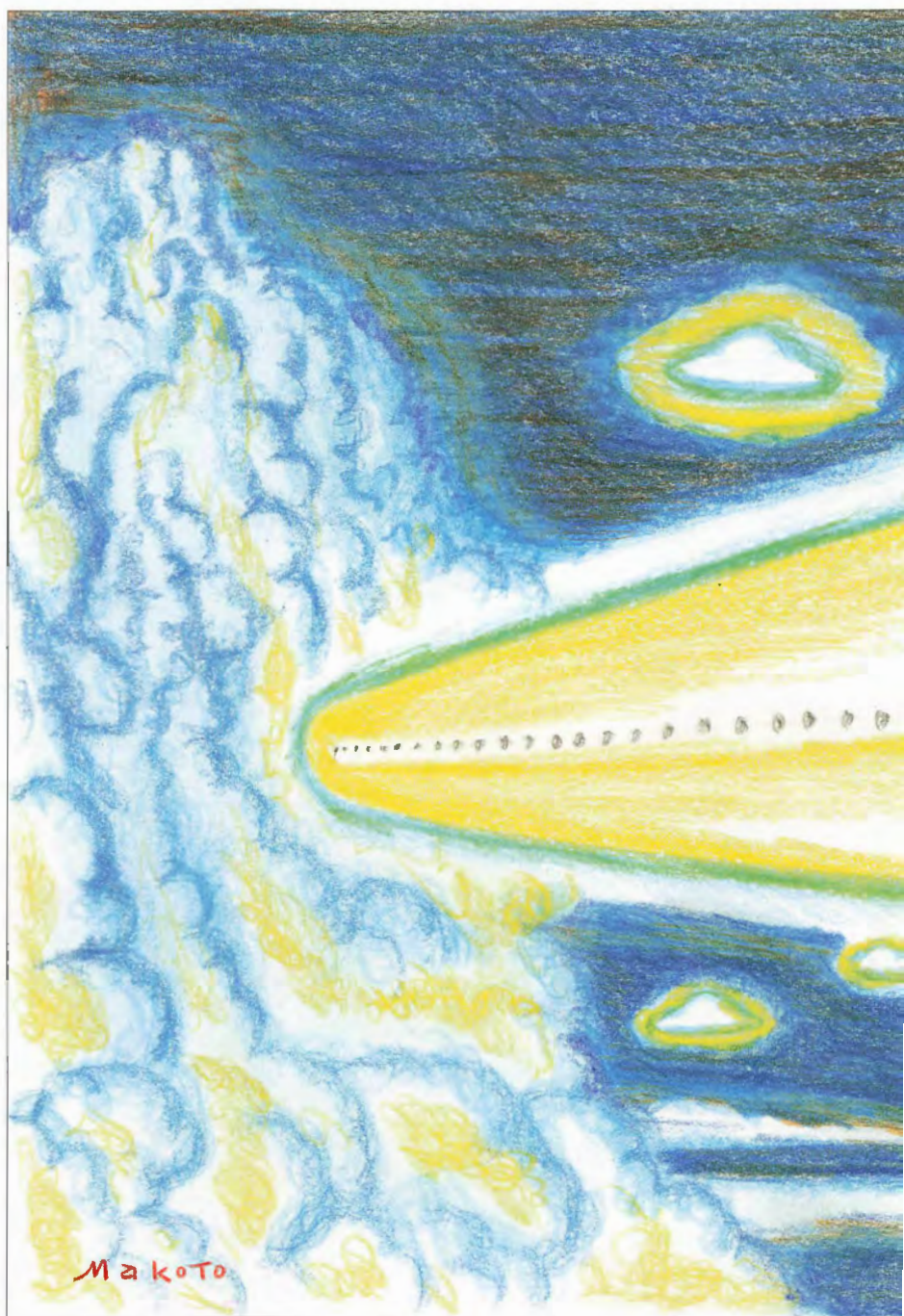


▲1973年のある日の真昼に、カナダ・オンタリオの田舎家の裏庭にいた写真家と友人が、無音で飛来した円盤を目撃して連続撮影した1枚。 ©日本GAP



●他の惑星の大母船と小型機の群れ

コンタクティーで超能力者として名高い秋山眞人氏が、あるとき宇宙からの波動を受けて、自動書記現象的に手が動いて描いたという。他にも数枚の宇宙画を制作。



UFO目撃日記⑥

加藤純一

日本GAP
東京本部役員幹事



相変わらず私「UFO男」は毎月のようにブラザーズの乗り物であるUFOを目撃している。それはまるで彼らのメンタルテレパシーに導かれるようにして一人で目撃したり、時には久保田先生と共に。そんな中で最近強く感じるこの一つに「UFOの目撃」異星人とのコンタクトは自由意志を持つ我々が明確な目標を持って望むことから始まるということだ。

筆者

一九九八年六月

●七日（日）東京本部月例セミナー当日。時間はハッキリ覚えていないが先生による「生命の科学」解説講義中に客席から見て右手の天井近くにフラッシュを焚いたような小さな光が三連続ほど出現した。それはまるで何度か自宅の室内に入ってきた超小型のスクヤ

ニングデイスクのようなのだ。後日、このセミナーに参加された一会員の方から久保田先生宛に自分も目撃したという手紙による報告があったということとを聞かされた。

六月のセミナーは久保田先生が退院された直後だったのでスペースブラザーズが応援のために小型UFOを会場に送ったのだろうかと思いを巡らせた。●一三、一四日は黎明会を含む関西有志一同が五年ぶりに久保田先生を関西にお招きしての「質疑応答会」を開催した。現地メンバーの徹底した準備によつて観光、大会、夕食会と充分に楽しむことができた。特にチームワークのよさは抜群だった。私にとつても黎明会のメンバーにとつても大いに勉強になった素晴らしい会合であった。

七月

●三日（金）まだ青く晴れた夕方五時半頃、都内秋葉原で仕事を終えて「UFO出ないかなあ」と思いながらT交差点へ向かって歩いてっていると、心地良いフリーリングで心が満たされたと、同時に私の目はフットボールのような、米粒のような楕円形の真っ黒いUFOを捉えた。おもしろいことにその物体は私の進行方向と同じく、道路を挟んで反対側の上空をゆっくりと飛んでいた。そして久保田先生宅にPHSで連絡をして実況中継をしていると、ちようど交差点のあたりの上空で銀色

▼1997年11月2日午後12頃、またも自宅近くの上空に現われたアダムスキータイプのUFOを撮影。これは連続5枚のうちの3枚目の写真。前日には都内明治神宮でUFOの編隊を目撃し、翌々日の3日も自宅近くで金色に輝くUFOを目撃しており3日連続の目撃となった。（フジコンパクトカメラ35~80mmズームの80mmで撮影）



に輝きはじめた。

実は三年前にも何度かこの交差点付近でUFOを目撃している。以前から仕事の関係でこの辺りをよく通るのだが、同じ地区での久々の目撃となった。今回を含めてこの地区での目撃は四回目だ。

●一八日(土) 九月から発足する関西支部のセミナーについての打ち合わせと会場下見のために大阪を訪れた。会場下見の後、私の提案で奈良県にある室生山に連れて行っていただいた。室生山は役の小角(やくかく)の(役の行者)が開いたという由緒ある昔からのパワースポットで、小原代表をはじめとする関西支部のメンバー七名とともに車二台で出発した。そして室生山へ向かって走り出してまでもなくUFOは出現した。

以下は共に目撃をした関西支部代表の小原明氏による本部宛の報告の抜粋。「二時五〇分頃、自宅から三分ぐらいの大和高田市で加藤氏が東の空にヘリコプターとその上空を飛行する白い丸い物体を発見、車を停車しました。物体はヘリコプターの後方下へ移動し、ヘリコプターと共に南方へ移動(ここで私も発見)、急に方向を変え、東の雲の中に消えていきました。すぐさま再度出現し、今度は北方向に移動し、双眼鏡で見ようとしたが、見失いました。

私が見た時は黒い物体で、突起物はなく、また、その動きから飛行機やヘ

リコプターではないと思います。残念ながら、目撃者は加藤幹事と私だけでした。室生山では大自然を満喫し、みんなで大宇宙思念法を実践致しました。」

●二六日(日) 今年五月から発足した埼玉支部の月例セミナーで本連載の「UFO目撃日記 特別版」の講演を行った。埼玉支部は活動が盛んで写真展やUFO観測会など地元に着着した活動を展開している。そこで応援の意味で今まで話したことのない目撃談等を紹介させていただいた。

この日のセミナー参加者は一五名もあり、盛況であった。また、ビデオプロジェクトで大画面に映し出される久保田先生の姿は臨場感があり、一會員として「生命の科学」の解説講義を拝聴していると先生の偉大さが直に伝わってくるようだった。

●二八日(火) 埼玉支部での講演の余韻が残っているのか、この日は朝から上空とつながっているような感覚がある。しかし、六月七日の月例セミナー以来UFOを目撃していないために、かなり寂しさの感情が蓄積されていた。毎年のことだが六月は天候不順が多く、UFO男にとっては「UFO目撃受難の月」として要注意のスランブ月なのだ。実際毎月必ずといっていいほどUFOを目撃している私だが、経験上、自分の精神状態が悪いとUFO、スペースブラザーズは決して近づいてこな

いように思う。したがって私はUFOを定期的に目撃できない場合は

①「自分の精神状態、心のバランスをチェックする」ように心掛けています。要するにスペースブラザーズと「同質」を持たなければ目撃はおろか直接のコンタクトは難しいのだと思う。これは久保田先生が度々引用される宇宙の法則の一つである「同質結集」という観点から考えてみても厳然たる事実なのだということを痛感している。

②「コンタクトを望んで明確な理由付けのもとにテレパシーによる呼びかけを行なう」。毎月の目撃によって目撃回数を競うわけではないが目撃できる時の精神状態とそうでない時とはやはり雲泥の差がある。そして何よりもUFOが近くにやってくる時にはスペースブラザーズの高波動のシャワーを浴びているのかのように良き影響を精神面でも吸収することができるのだ。

さて、この日の夕方、所用のために久保田先生宅を訪れた私は帰りがけにマンションから見える美しい青空に向かって急に呼びかけたくなって、「やつぱり僕は、あなた方と直接コンタクトしたいのです!」という想いをテレパシーに乗せて数分間、祈るように空を見続けた。その後、駅へ向かって歩いていると突然、強烈な印象を上空から感じて空を見上げると、その視線の先に白く輝く物体がいた! 早速久保

田先生へ連絡し、目撃の様子を伝えた。電話を切った後、すぐに消えると思っていたその物体はかすかにオレンジ色に変化して少し高度を下げてきたようだった。これによってUFOだという確信を持った私は、再度先生に連絡して至急にご足労願うことにした。また、なぜなのかはわからないが、今回の出現は特別な意味があるように感じた。

これは個人的な推測だが長時間滞空していた(私の目撃時間は約二五分、先生は一分)ことを考えれば久保田先生にその姿を見せるという明確な意図があったように思うのだ。帰りがけに先生が「快気祝いが出たのかな?」と嬉しそうに言っていたように久保田先生にとつて退院後初めての目撃となつたからだ。「我々スペースブラザーズは上空からいつも見えていますよ。」という無限の愛情を受け取ったように思う。

そして時を同じくして私の願いもかなえられて今、改めて思う。

コンタクトは、まず望むことから始まるのだ! ただの好奇心だけでは絶対にだめなのだ。強烈な信念と実行あるのみ。なるべく大空に目を向けよう。そしてブラザーズに呼びかけよう。お迎えにまいりました、と。

こうして私達はスペースブラザーズとの一体感を保つとともに、ひいては大宇宙との一体感を起こすのである。これが日本GAPなのだ。

異星人の 壮大なスペース・プログラム⁽²⁾

★ 平田 泰 介

アダムスキー、土星会議に 出発

一九六二年三月二七日から三〇日まで、土星においてスペース・プログラム、すなわちこの太陽系の一二個の惑星に住む住民の代表者会議が開催されたのである。このように述べると、あたかもSF小説でも読んで空想の世界に遊んでいると思われ、馬鹿馬鹿しいと感じる人が大部分であろう。世界を調べても、その事実アダムスキーが書いたレポート以外には書かれていないけれども、これはれっきとした事実なのである。

そして会議の報告はるか土星からアダムスキーが放つテレビパシーによって各国GAP（宇宙の真実を知らせる運動）のリーダー宛に送られてきた。

すべてのリーダーがそれを、各リーダーによって正確さの違い、すなわち感受する内容のパーセンテージの違いはあったとしても、ほとんどのリーダーがその内容を知ったのであった。この会議は他の惑星からの要請とケネディ大統領の同意のもとにアダムスキーが代表として派遣されたものであったから、当然、彼ら世界勢力の中枢部の苦々しい顔が浮かぶのである。

（編注）一九六二年三月、アダムスキーは土星会議への出発に先立って各国GAPリーダーに書簡を送り、自分は近いうちに別な惑星へ行くが、それは

どこであるか、何の目的で行くのかの二点についてテレバシーで感知した上、解答を送れという内容であった。編者「久保田」は土星であろうと推察したが宇宙旅行の目的は不明であった。したがって五〇点である。一〇〇点は当時のベルギーGAPリーダー、故レイ・ダクイラ女史のみであったとアダムスキーが後に報告した。

会議の始まる前々日の二四日には、ワシントン郊外のラングレー空軍基地上空に巨大な土星の葉巻型大母船が滞空して、アダムスキーの先導でケネディ大統領が母船に乗り込み、異星人と会談したことが各国のGAPリーダー宛に送られたリポートに記録されている。この後にアダムスキーはケネディ大統領の命令によって土星の大母船に乗って地球を出発したのである。

太陽系は崩壊期にあるのか

問題はその会議の論点であった。最初に出た話題は太陽系と地球に関する件で、太陽の磁極の逆転と、それが各惑星にどのような影響を与えるかといった事柄であった。

すなわちこの太陽系は崩壊期にあるのか、もしそうであればどのように対処すべきなのかといった問題である。その時期などは確定されないが、彼らの科学装置による測定がなされ、発生しつつある変化によっていざれ分かる

であろう。地球以外の惑星はみな輸送用の大宇宙船を持っているので、居住に適した太陽系を探して住民を移動させることができる。すでにその新しく発見された太陽系には各惑星から連れて行かれた約百万の人が住んでいて、その中には地球人もいる（この地球人とは恐らく原因不明の失踪をとげた人たちであろう）。

もしこの太陽系が近いうちに崩壊するとしたら、地球人は自分たちの宇宙船を建造しない限り、苦難に遭遇し絶滅することになる。もし他の惑星に余裕があればできる限り援助するだろうが、この太陽系の全人口は地球（当時四〇億）を含めて一四四〇億に達するので、地球人を救える余裕があるかどうか疑問だという。この輸送は財産や貴重な設備品などは含まれない計算なので、それらも含めるとすればなおさらのことである。その時期はいつ来るのかはだれにも分からないのである。

聖書の「神」はJFOだった

もしこのことが事実となつて到来した場合、陰の世界勢力の最高法院の聖者たちは、自分たちの野望がいかに空しいものであったかを思い知ることであろう。そのときになって、自分たちが聖書によって「神」として崇拜していたものは一体何だったのか、その言葉だけを信じて予言に沿わないもの

をすべて排除してきたことがすべて無に帰したことを知れば、それこそ「外衣を引き裂き、頭から灰をかぶって」悔しがるだろう。

一説によれば、ロシア革命も第一次大戦、第二次大戦も、すべて闇の世界勢力〇〇〇〇〇〇〇〇の裏工作により起こされたものであって、それらの歴史はほとんど彼らの謀略により作られたものであったという。それは聖書の啓示の書に述べられた予言に従ってプログラムされたものと言えるのだ。その終結はまだ来ないけれども、彼らはケネディを暗殺するなどの非常手段を実行しながら着実に予言を成就させつつあったのではないだろうか。

しかしこのようにして、ことさらに作られた権威などというものは、真実の前ではひとたまりもないのである。彼らが聖書によって「神」と思つて崇拜してきたものは、実は古代から地球に来訪して来たUFOすなわち他の惑星の宇宙船だったのである。なぜなら聖書に記録されているとおり、古代から他の惑星（火星と木星）からの訪問者たちが地球人の邪悪さを利用し、彼らの中で比較的従順な人間を探し出し、「天からの導きに従い、『神』を崇拜せよ」といって彼らの想像力を煽り立て、異星人を神として崇拜するように仕向けていたので、イエスなどの救世主がそのような誤った崇拜の仕方を改めさせようとして地球に転生してやつ

てきたということを、アダムスキーは土星の会議で学んだのであった。

他の惑星人が地球に関心をもつ理由

このことは、地球が始まって以来のすべての歴史を知り尽くしている他の惑星の人たちが与えた知識から、本来の地球の歴史を知ることによって釈然とするのである。そして難解な聖書の真の意味が次第に解明されてくるのだ。地球と同様に火星もその惑星上に多くの文明を破壊したことがあり、実は地球にやってきて戦争というゲームを地球人に教えたのは火星人であった。現在は火星人は地球人よりもはるかに進化して戦争という点を克服しているが、他の惑星に比べてさほど進化していない面もあって、事あれば防衛体制に立ち返るかもしれないという。

約一万年前に多数の進化した金星人が地球へやって来て、当時地球で行なわれていた火星人の習慣をいくらか変えさせることに成功したけれども、戦争を否定した人たち（金星人）は、そうでない人によって殺されてしまい、このようにしてさまざまな主義が混ざり合い、地球上に混乱が広がり、それ以来多種類の神々が崇拜され、現代でも偶像崇拜の風習が満ち溢れているので、他の惑星の人間が地球人の間にまいた悪を正すために彼らが現在地球に関心を注いでいる一つの理由となつて

いるのである。

聖者といわれる邪悪な一団の陰謀

こうしてみると、聖書の予言書だけを絶対的なものとして、それに従った予言の成就を何がなんでも達成させねばならないとする世界勢力中枢部の統治する宗教団体の教理にも、その実体を知るならば大きな矛盾が存在することが分かる。古代で聖書の「神」とみなされた他の惑星人は現代では金星人と土星人が中心となり、すでに古代の考え方は全く消滅し、進歩的で深い愛を持つ彼らが地球を訪れているからである。

ヘブライ語聖書に見るとおり、古代の神は非常に厳しく、モーセが率いて連れ出したイスラエルの民が荒野でマナという天から降ってきた食物ばかりで四〇年も飼育されたとき、「こんなことならエジプトにいたほうがよかった。ああ、肉が食べたい」と言ったら

天からウズラが舞い降りたので、それを捕らえてその肉がまだ齒の間にあるうちに、多くの利己的な民が「神」から殺されてしまったという記録があるように、情け容赦もなく民を虐殺する非情な「神」だったのである。神は愛なのだから、そのような神がいるはずはないのだが、古代人は彼らを神と信じて疑わなかったために、迷妄な民を利用して支配しようとした古代の火星

人の思うままになり、不幸な歴史を辿ったのかもしれない。

現代でさえも、その野望を受け継いだと思われる聖者の一団が強引に聖書の予言を成就させようとして宇宙の真実を覆い隠し、こともあろうにケネディ大統領を暗殺するという大罪を犯してまでも、神秘主義的な終末思想にとりつかれているのを見れば、彼らこそが本当の悪魔サタンであると言えないだろうか。

聖書には悪魔サタンの記述はあるが、異星人によればもともと悪魔は存在しないのである。古代の支配者たちが羊たちの恐怖心を煽り、忠節を誓わせるためにでつちあげたものであろう。

権威をかさに着る邪悪な王たちに命じて隠蔽工作を押し進め、暗殺などの謀略手段を用いて野望を遂げようとする最高法院の聖者の一団こそが、神秘主義のペールのもとで羊のように従順な信者を食い物にする悪魔サタンであるに違いない。

太陽系の一二惑星会議における決定は、太陽系崩壊に際して地球の人類をいかに救うかという自己犠牲的な奉仕または警告であったのだが、太陽系そのものが消滅してしまつては地球上の楽園に羊たちを復活させ永遠の命を与えることと約束しても空しいことである。人類を最終的に救える者は実に彼らが敵とみなしているUFO以外にはなく、高度に進化した宇宙の友だけが地球を

救えるのである。一人でも多くの人がこのことに早く目覚めて、一二惑星会議の崇高な愛に溢れた宇宙の壮大な計画に応じることが出来ることを切に願う次第である。

聖書とUFO・宇宙の超知性体

ここで聖書に関して述べたい。ヘブライ語聖書は西暦前の歴史書であるから、もし地球以外の惑星にも人が住んでいて、彼らの宇宙船が（地球ではUFO＝未確認飛行物体と呼ばれる）古代から地球を訪れているというのであれば、聖書にもそのような記述があったしかるべきではないかという疑問を持つ人々がいる。

聖書を注意深く研究するならば、宇宙からの地球訪問者に関する非常に多くの報告が明るみに出てくる。実際ある教会の牧師によると、彼はそのような記事が聖書中に三五〇カ所以上も発見したという。それでもなお聖書にはそのような記録がないではないかという人たちに對しては、実際には聖書に書かれている、「神」が敬虔で忠実な人たちや預言者たちに臨んだ場合の描写は現代のUFO目撃報告と酷似している、その現象を見て神が古代人たちに現われたのだと思ひ込んだらしい記録が聖書の中には非常に多く出てくる。たとえば出エジプト記三章四〜五節では、イバラの茂みが燃えつきずにい

る現象があり、不思議に思ったモーセが近づいて調べようとしたところ、主のみ使いがその炎の中にあつてモーセに声をかけ、「ここに近づいてはいけない」と言ったことが記録されている。この燃えるイバラは現代のUFOすなわち円盤の火のような色光である。また出エジプト記一三章二一〜二二節には、昼は「雲の柱」、夜は「火の柱」という描写があり、イスラエルの民の進む道を導き、昼も夜も民の前から離れなかったことが述べられている。これは明らかに葉巻型宇宙母船が昼はフォースフィールドによる雲を発生してそれに包まれ、夜は空氣のイオン化現象で火の柱のように見えることを示している。

三三章九節では、その雲の柱が神との会見の天幕の入口に降りて来て、神がモーセと話される・・・と書かれていて、「会見の天幕」とあるとおり、そこは実際にモーセが「エホバ神」と会見して話をした場所なのである。柱の形をした雲が天幕を覆うように降りて来るので、古代人にとってはこのよう不思議な現象は神にしか出来ないことだと思つたに違いない。これと似た表現が聖書中には他にも数多く記録されている。

エホバとは異星人を意味した

他の惑星の人たちが地球よりも一万



▲燃えるイバラに近づくモーセ（右）。このイバラはUFOだった？ ロイ・スキャン／久保田八郎訳「宇宙よりの来訪者」（学研）より。

年以上も進んだ科学文明を持つて古代から地球に訪れているなどとは夢にも思わなかった人たちが聖書を書き記した場合、不思議な色光を放つ飛翔体を神とする神秘主義におちいらざるを得なかったことは不思議ではない。まして旧約聖書の原本ヘブライ語は難解なために完璧な翻訳となつてはいないのかもしれない、中でも最も重要な神の表現は、ユダヤ人が恐れ多いとして口に出して発音しなかったという事実により、神の名が現代でもまちまちで、神主、またはエロヒム、ヤハウエなどと、これが唯一正確な神の名であるという記録がない現状である。

ヘブライ語での神の発音「エロヒム」または「ヤハウエ」を表わす四文字を全能の神である創造主を指すと判断し、これを英語に訳して「 Jehovah」となり、この英語の発音を日本語読みでエホバと言っているが、この四文字は「天空から来る者」という意味であつて、真の神である創造主ではなく、天空は宇宙であるから、これは異星人もしくはUFOを指している。当時は鳥以外は飛ぶことは不可能であつたから、空を飛ぶ光体はすべて神と思えなかったのだらう。

ただ「み使い」と表現されているものは地球人と同じような体型と顔形なので、どこからか不意に現われたりして偉大な能力を発揮するので明らかに地球人ではなく、恐らく神からつかわ

された使節すなわち天使と思つたに違いない。

間違つた学校教育の弊害

我々はずっと昔から、宇宙ではこの地球だけが生命を生み出す美しい環境を持つ天体であると教えられてきた。現代の低学年教育でさえも、そのことを殊更に強調するようなものが目立っている。

たとえば教育テレビでは年老いた天文学者が子供を相手に精巧な模型によつて太陽系の形成や各惑星の環境や気象状態を説明し、水星や金星は太陽に近すぎて熱いので水蒸気が放散して全く水がない状態だとか、地球だけが太陽からちょうどよい距離にあるので、最初は大量の水蒸気が発生して蒸し風呂の状態であつたが、四八億年前に地球が急に冷え始めて水蒸気が雨となつて落ち、大洪水が起こつて地表に落ちた水が現在の海を形成し、空の雲が切れて青空が現われ、太陽の光が豊かに地上を照らし、すべての生物の生命を育んでいるのだと教えている。

ところが聖書では創世記七章六節に述べられているとおり、西暦前二三七〇年頃、ノアが六〇〇歳のときに大洪水が起こり、それ以後青空が見え始めて、ノアの寿命は九五〇歳で終わったけれども、彼の子孫は代を経るごとに次第に寿命が短くなり、アブラハムが

一七五歳、その曾孫のヨセフは一一〇歳、モーセが一二〇歳、現代では平均年齢が六五歳となっている。

地球の人類の寿命が大洪水以後に急速に短くなり始めたのは、雲のフィルターがなくなり、宇宙線が直撃するようになったためであることが異星人によっても確認されているので、聖書の記録のとおり地球の青空はノアの日の大洪水以前には見えなかったのである。たとえ大洪水の証拠となる角の磨耗した岩が四八億年前のものであったとしても、それを雲が切れて青空が見え始めた時期とするのは単なる推測にすぎない。このように現代地球物理学または天文学などの科学による推測は、聖書の記録とは矛盾し、明らかに誤りであることがわかる。

聖書は真実の天文学書

ヘブル人への手紙一章二節に「この終わりの時には、御子によって私たちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また御子によってもろもろの世界を作られた」となっている、これは宇宙における沢山の惑星に関する明確な引用である。

「神が御子によってすべての惑星を人類が幸福に豊かな生活を営めるように作られた」と解釈すべきであるけれども、太陽の放射線は大気圏外では熱と光を生じ得ないのであり、その放射線

は冷たい光であるから、太陽に近い惑星も熱い惑星にはなり得ないことに学者たちは気づいていない。

アメリカの探査機が水星と金星に氷の極冠を発見したというのに、当初から伝えられたような摂氏五〇〇度もの温度が正確だとするならば、氷の存在はあり得ない。天体形成の法則に従えば、他の惑星についても地球と同じ事が起こると考えられるので、地球だけが特別である理由はない。

新世界訳でもその後半で、「また彼を通して事物の諸体制を作られました」と翻訳されているが、「もろもろの世界」と「事物の諸体制」では意味が異なり、後者の場合はこの地球だけに限って特別である理由はない。

新世界訳の後半で、「また彼を通して事物の諸体制を作られました」と翻訳されているが、「事物の諸体制」とは地球だけに限定されたものであるから、この宇宙の中で地球だけが人類が住む唯一の惑星であるという考え方を前提に聖書を翻訳したために、このような誤訳になったのである。

イエスの言葉の真実の意味

聖書のイエスの言葉は一見不可解と思われるものが多いが、それは実はヨハネの生まれ変わりというジョージ・アダムスキーが書いた「生命の科学」講座にその真髓が表わされている。従

って従来のすべての宗教指導者たちはイエスの言葉の真の意味を理解できないのである。

ヨハネ一四章二節で「私の父の家（大宇宙）には館（惑星）が沢山ある。もしなかったならば、私はあなた方にそう言っておいたであろう。私はあなた方のために場所を用意しに行くのだ（後に処刑されて後、蘇生してから金星へ行った）」とあり、父の家とは父が作られた宇宙のすべてを表わし、多くの館とは宇宙では地球のような生命を維持できる惑星群であると考えることが出来る。

イエスは生身のまま天空へ運び去られたと聖書は述べているが、これは大気圏外のどこかに生命を維持できる惑星があることを意味する。

（編注II アダムスキーの著書と側近から洩れた情報によれば次のとおりである。イエスは地球世界を救うために元は金星から地球へ転生してきた人であった。当時のユダヤ人の墮落を批判したためにゴルゴタの丘で磔刑に処せられたけれども、仮死状態になったのを死と誤認されて体は十字架から降ろされ埋葬された。その夜、スペースビルが墓へ来て特殊な機械で放射線を当てて息を吹き返させ、スカウトシップに乗せて母船に収容し、健康を回復してから地上へ降ろさせた。そこで弟子たちは死者の復活だと騒いで神様扱いにした。イエスは結局元の出身惑星

の金星に帰ったという。

一九五二年一月二〇日、米カリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯に着陸した一機の円盤型小型宇宙船から降り立った金星人こそかつてのイエスだった人で、対面したアダムスキーは二千年前にゴルゴタの丘で最後まで師を救出しようとした弟子のヨハネであったという。この砂漠でのコンタクト事件は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」の第一部に詳述されている。編者はこのコンタクト地点を発見して以来何度も訪れて調査を行ってきた。なお右のコンタクトの光景を、飛来した米空軍の偵察機が超低空で撮影した写真が秘匿されていると言われている。

多すぎる聖書の誤訳と誤解釈

またヨハネ八章二三節に「あなた方は下の領域（地球）からの者ですが、私は上の領域（大気圏外）の者です。あなた方はこの世（地球）からの者ですが、私はこの世からの者ではありません」と言っている。新世界訳ではこの意味を「世」という言葉の方に重点をおいて、それを世俗的な世という意味に解釈しており、上と下という表現については、霊の世界と人間界という圏外に生命を維持できる惑星はあり得ないことを念頭に解釈しているためで

もある。しかし聖書をありのままに素直に解釈するならば、「上」は宇宙であり「下」は地球である。

また聖書原本には句読点が全くなく、わかりやすくするために現代の聖書は句読点を付け加えてある。それぞれの翻訳聖書はすべて後世の翻訳者や校訂者によって、意味を明瞭にするために加筆されたものである。したがって句読点の付け方によりその文章の本来の意味からかけ離れ、場合によっては重大な誤訳とされる可能性がある。ルカ二三章四三節の新世界訳では次のように訳されている。

「するとイエスは彼に言われた。『今日あなたに真実に言いますが、あなたは私と共にパラダイスにいるでしょう』」
 となつてゐるが、ギリシヤ語で「今日」という語は文の構成上「真実に言いますが」という語句の直後に来るので、ここで「今日」という語の後に句読点を付けた場合と前に付けた場合では全く意味が違ってくる。後に付けた場合はなるほど前述のとおりの意味になるけれども、「今日…言いますが」という言い方は不自然であり、イエスは一度もそのような言い方をしたことはない。

それに対して句読点を「今日」という語の前に付けた場合、「今日あなたは私と共にパラダイスにいるでしょう」となり、これは明らかに死んですぐパラダイス（楽園）に生まれ変わる

ことを意味している。またパラダイスが地球以外の天体であるという意味をも含めて述べたものであり、新世界訳が注解するように、地上に神の支配するパラダイス（楽園）が作られて、そこで永遠の命を享受するなど解釈するのは重大極まる誤解である。

それは生まれ変わりを否定しているために、句読点を意図的に「今日」の後に付けたものであり、こうして聖書の真の意味が大きく変えられて聖書研究者たちの間で大論争が起こることは必至であり、さらに信仰の違いによって宗教戦争が絶えなかったであろう。

イエスは転生を示唆した

マタイ一六章二八節で、イエスは弟子たちに次のように告げている。

「あなた方に真実に言いますが、ここに立っている者の中には、人の子が自分の王国を持つてやってくるのをまづ見るまでは決して死を味わわない者がいます」

またヨハネ二一章二二、二三節で、ペテロが「ヨハネは何をしますか」とイエスに尋ねたとき、イエスは次のように答えた。

「私が来るまで彼の留まることが私の意思であるにしても、それがあなたにどんな関係があるのでしょうか。あなたは引き続き私の後に従いなさい」

その結果、その弟子は死なないと言う話が弟子たちの間に伝わった。しかし彼は死なないと言われたのではなく、前述のマタイの聖句のとおり、イエスが再び訪れる時までヨハネはこの地球に留まるようにと言ったのである。

これらの二つの聖句は明らかに「人は死んでも生まれ変わる」ことを明示しており、その弟子ヨハネはイエスが金星から再び地球を訪れるまでは、ずっとこの地球上で生まれ変わりを繰り返しながら留まっているようにというイエスの意思を述べたものである。したがってイエスの言葉は「転生（生まれ変わり）」を当然のこととして述べられたものである。これらはイエスの予言でもあるが、それはまさに現代において成就している。

◀イエスが誕生したとき東方の三博士が祝福に訪れたが、そのとき上空に出現した光体はUFO（別な惑星から来た宇宙船）だったという説があるが、アダムスキーは否定している。

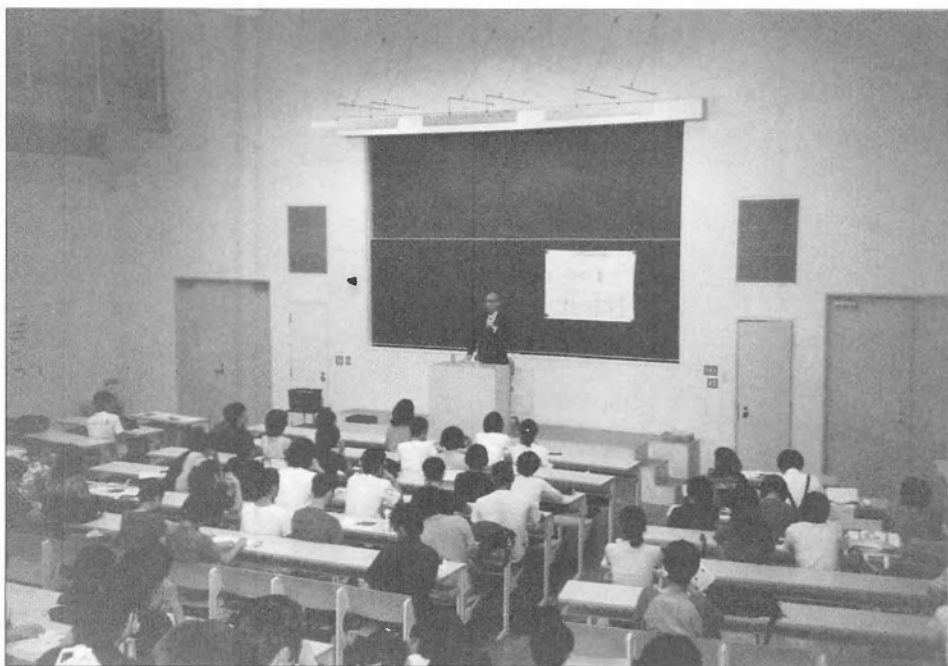


一九五二年一月二〇日、カリフォルニア州デザートセンター砂漠に、円盤から降り立った金星人はイエスの生まれ変わった姿であり、それを迎えたアダムスキーはヨハネの生まれ変わりであった。（以下次号）

★参考文献「旧・新約聖書、新アダムスキー全集（中央アート出版社）」

東京造形大学でUFO講演

●久保田八郎 日本GAP会長



▲東京造形大学でUFO問題を講演中の久保田会長。撮影／大根田匡史



今年七月一日、またも筆者は都内八王子市の東京造形大学でアダムスキー中心のUFOに関する講演を行なった。これは同校の体育教授・佐藤彰先生が熱意ある日本GAP会員であり、先生からのご招待によって実現するもので、これで同校での講演は七回目となる。

今回は約三〇〇名の学生を対象に話したが、かつてないほどに静粛に熱心に聴いて下さったので、きわめて心地よい九〇分をすごすことができた。

最初に約三〇分ほど概要を話し、続いてスライドによるUFO写真映写と解説を約五〇点分行ない、最後に質疑応答を行なったが、うがった内容の質問が多いところを見ると、学生さん方はUFO問題についてかなりの知識を持っているらしい。UFO問題もずいぶん浸透してきたと思われる一コマであった。

東京造形大学はファッションデザイナーとして有名であった故桑沢洋子女士の桑沢デザイン研究所が母体になったもので、現在はデザイン関係のすべての科目を網羅する充実した学校に発展している。小高い山中のモダンな校舎はデイビッド・ニーゲルの「森の中の寺院」のメロデーを思わせるストイックな感じのする素晴らしい環境の中にある。佐藤先生に深謝したい。当日は助手として本部役員の大根田匡史が同行した。以下は当日の学生から出

た感想の一部である。

■僕はアダムスキーの葉巻型UFOを知っていましたが、果たしてどこへ行けば見ることが出来るのでしょうか。

先生はY氏をどう思いますか。僕は今でも某テレビの「Y氏のUFO特集」を見ると恐ろしくなって眠りにつけなくなります。

この授業の単位認定に私の人生がかかっています。よろしく願いします。

■高校生の頃、音楽の授業中に窓の空をボーッと見ていたら、茶色の物体が一直線に飛んでいるのを見たことがあります。これもUFOなのでしょう。

■久保田先生のUFOの話聞くのはこれで三回目になりますが、何回聞いても興味深い内容でした。面白かったです。

■私はUFOや宇宙人について否定的な考えを持っていないので、毎回の授業は楽しかった。今回の特別講義は特別におもしろかった。

■(異星人は)私達と同じ容姿だということですが、体の機能、生活の中の行動も全くなじまないのでしょうか。食事はどういうものをとっているのでしょうか。なぜ久保田先生は異星人を見分けられるのですか。

■非常に興味深いお話で、時間が過ぎるのが早く感じられました。さまざまな見方があるという事を改めて認識さ

せられました。

■また聴きたいです。GAPの講演会に行けたら行くかと思っています。

■地球より頭の悪い(文明の遅れた)星はないですか？金星も美感覚(人の好みとか)は同じですか。首長族は首が長いほどキレイなのに、金星人の「キレイ」な顔は？

■異星人が地球にいることをみんなに知らせると問題になるからNASAは隠しているのに、造形大生に話してしまつてよいものだろうか。

■異星人を見たことはないですが、いるのではないかと思っています。久保田先生にこれからも頑張つてほしいです。

■久保田先生は異星人ではないでしょうか。

■たとえば、その夢がどんな夢であれ、公共の福祉に反しないかぎり、夢をもつことは素晴らしいことです。夢は人に希望的観測を与え、希望は人に生きる目標を与えてくれます。願わくば、彼の生きていく間に変な異星人が来ませんように。

■たくさんUFO写真が見れておもしろかったです。どうして異星人は私達一般の人間に会いに来てくれないのでしょうか。

■あまり真剣に考えられていないUFO問題に本当に深く取り組んでいる人達がいるという事を聞いて驚いた。宇宙時代が本当に来るのなら楽しみです。

■今日は有難うございました。あらゆるUFOの証拠があるのに、多くの人はなぜ信じようとしないのだろうと思いました。

■信じる信じないは関係なく魅力的な話だった。

■サポテンはUFOを呼ぶというのは本当ですか。うちにはサポテンが沢山いるのです。

■宇宙人は食物を食べたりするのですか。人間のようにオスとメスに分かれているのですか。久保田八郎さんは、こんなにUFOについて話しているのに、拉致されないのは不思議です。宇宙人だからではないでしょうか。

■信じがたいけれど、おもしろい話でした。異星人が存在すること自体何も知りませんでした。今後の研究を頑張つて下さい。造形大の学生で異星人は存在しますか。

■スライドはなかなか興味深かったです。あと、異星人の写真も衝撃的でした。UFOはほんとにいるかわからなけれども、いてほしい、というか、いたら世界が広がつておもしろい。

■あいかわらず良かった。今の政権をぶち壊すのはこれしかない。

■UFOの金星人の男の特殊な使命というのは、地球人の理解をこえるものですか。美意識は地球人とのように異なるのですか。地球人のことをどう感じているのでしょうか。血の色は何色ですか。金星人の服は昔の人のよう

な格好をしていたが、みんなネグリジェみたいなのですか。また地球にない芸術の種類はありますか。宇宙的な感覚とはどういうことですか。UFOはどのくらいの高さで飛んでいるのですか。私たちに見えないだけで、すぐ近くを飛んでいたりするのですか。UFOを見る方法とは？

■UFOは神秘的ですね。

■私が七〇歳になったときの様子が想像できました。

■東京造形大学って、すごいんだと思った。

■(久保田は)見た目ではなんだかとても弱そうなおじさんだったのに、話し方がすごくエネルギッシュなので、びっくりした。

■一二番目のZ星は未確認の星であるのに、なんで存在すると断言できるのですか。超小型のスキヤニングディスクは、どのくらいの大きさなんですか。■SF映画がもとと好きなので興味があった。とても面白かった。NASAはUFOを作れそうですか。

■古代の時代にもUFOは現われていたのですか。

■地球以外の星同士では交流があるのか。

■久保田氏の五〇点に及ぶスライドを見たり、その解説によつて、UFO、宇宙人というものが意外と我々に身近なものなのだなと感じた。

■非常におもしろかった。この話が真

実かどうかはわからないけれど、その発想力と想像力には驚かされました。そして何よりも、この話の根底にある考え方が平和に満ちているのが素晴らしいです。創造することはすごいことだと、あらためて感じました。

■宇宙人がそんなに地球に来てくれないなら、SEETIとかは無意味なのか。それともカモフラージュなのか。秋の講演のときには知り合いの金星人とかは呼んでもらえないか。

■幽霊は信じませんが、UFO及び宇宙人は存在を信じています。久保田先生の講演は一年生の時も聴きましたが、今回で三回出席しました。面白いですが、この授業を落とすと留年してしまいます。どうかよろしくお願いします。

■宇宙の神秘に触れた感じがした。

■UFOについてここまで知っている人はすごいと思った。話を聞いているとUFOが本当にいる気がしてきた。おもしろかったです。

■宇宙人の文明には戦争の概念がなく、精神的で平和な世界なのなら、早く地球も交流をもつべきだと思った。

(以下略)

今回の感想は総体的にUFO問題に対する好奇心と理解力を示していた。これらの感想や質問をまとめて質疑応答集を作成すれば啓蒙的なガイドブックが出来るだろうが、その余裕がないのは残念である。今秋もまた同大学で講演を行なう予定である。(久保田)

★本年度海外研修旅行は中止

本年八月に実施予定であった日本GAP海外研修旅行「メキシコ・マヤ遺跡の旅」は参加希望者が僅少のために中止した。今年は実施しない。来年度の研修旅行は「アダムスキーの大地を訪ねてーアメリカ西部の旅」と銘打って行なう予定。まずロサンゼルス市内観光を皮切りにカリフォルニア州南部のデザートセンターにおけるアダムスキーのコンタクト地点視察、パロマー山のア氏の住居跡、パロマー天文台等を見学したあとサンディエゴへ移動して世界最大の野外動物園その他を周遊。デザートセンターではコンタクト地点発見者の久保田会長が説明する。

時期は航空運賃の安い一〇月一九日から二四日までの四泊六日。費用は最少催行人員四五名として二三〇四万円程度。本誌一四五号に詳細予告を掲載の予定。多数の参加者が期待される。

★関西支部第一回例会セミナー盛況

既報のとおり関西支部は第一回例会セミナーを九月二七日に堺市で開催。久保田会長の記念講演を多数の出席者が聴講して盛況であった。

★今年度総会も大盛況

一〇月一〇日は東京本部の総会が港区芝公園の機械振興会館地下大ホールで開催され、アメリカより来日したダニエル・ロス氏が火星に関する大講演をスライド映写と共に行なって感銘を深めた。夜のパーティーも全国から参

集した会員の交歓で盛大であった。詳細は本誌次号に掲載の予定。

★秋田支部大会、迫る

恒例の秋田支部大会はきたる十一月二日（二連休の初日）に秋田市の秋田パークホテルで開催される。同支部は一年おきに支部大会を開催する熱意ある集団で今回で七回目となる。詳細予告は本号四七頁に掲載。東北・北海道方面の多数の会員による盛況が期待される。

★またも久保田会長との質疑応答会

本年十二月二〇日（日）には本年度最後の行事として黎明会主催の質疑応答会が神奈川県川崎市市の「かながわサイエンスパーク（KSP）」で午後一時より五時まで開催される。終了後は忘年会をかねて盛大な夕食会を行なうので多数の方々のご出席を同会は願っている。最寄り駅はJR南部線「武蔵溝ノ口」駅下車。無料の直通シャトルバスが出ている。東急田園都市線は「溝の口」駅下車。シャトルバスがある。詳細予告は本号二七頁に掲載。

★休載のお知らせ

本号は都合により連載記事「ホワイトサンズUFO搭乗事件」と「謎の男ウィリアムソン」を休載した。次号より再連載の予定。

★埼玉支部代表、テレビに出演

埼玉支部の会田裕子代表は去る八月二日、埼玉テレビに出演し、衆議院議員の土屋品子女史と対談形式でアダム

スキーを中心とするUFO問題や日本GAPの活動状況を語って土屋女史を驚かせた。この番組ビデオは同日東京月例セミナーで映写され、多大の感銘を与えた。アダムスキー問題が次第にテレビ等で流布されて一般に浸透する情勢の嚆矢となった次第。

★日本GAP主催UFO写真展

日本GAPは各地でUFO写真展を開催して絶賛を博しているが、去る九月一二日より二六日まで埼玉県春日部の春日部郵便局内「ふれあいの広場」で開催して大成功を収めた。

★来年度は福山支部大会を開催の予定

来年度は福山支部が五月下旬に第二回目の支部大会を盛大に開催する。会場は一応同市緑町の「サンピア」を予定している。ここは九七年に第一回支部大会を開催した場所、大会会場、夕食会場、宿泊等がセットで利用できる便利な建物。詳細は来年一月発行予定の本誌144号に掲載。

★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、GAPの運営と発展に寄与するための援助活動で絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が個人で毎月始めに発行している「意識の声」と題するエッセイが維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的能力開発法、会長の珍し

い体験、GAPの行事速報、その他の有益な記事が満載されている。

今年七月発行の第96号には久保田会長の少年時代からの苦闘に満ちた珍しい人生体験記が掲載されて維持会員諸氏を感動させた。まさに怒涛の一代であったことを改めて認識したという声が多い。

このエッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎっしり印刷された記事が四頁分あり、折りたためば八頁となる。美麗オフセット印刷。維持会員加入希望の方はハガキに「維持会の案内書送れ」と書いて日本GAP本部宛に出せば直送される。

★本誌原稿を募集

会員より本誌掲載用の原稿を募集している。内容はUFO目撃体験とUFO写真、能力開発実践体験、科学記事、ユークン広場宛その他。原稿は任意の用紙に手書きで可。ワープロ打ちの原稿にはなるべくフロッピーを付けると有難い。その場合は機種名、ソフト名をフロッピーに明記すること。掲載分には薄謝を進呈。原稿は返送しないのでコピーをとっておきたい。

★会長より

「平素は多数の会員の方より激励のご書簡を頂いております。私は超多忙のために御礼のご返事を差し上げかねる場合が多いのですが、ご厚意には衷心より感謝致しております。今後とも宜しくご支援のほどをお願い致します」

第6回 久保田先生との 質疑応答会

●日本 GAP 傘下の強力な支持グループ黎明会は、過去に 5 回、久保田先生を囲む質疑応答会（略称＝Q&A＜キューアンドエイ＞）を開催して多大の成果をあげてまいりましたが、多数の方々のご要望にこたえて今回も下記の要領で実施致します。年末何かとご多忙でしようがご参加のほどをお待ち致しております。終了後は夕食会をかねて忘年会を別会場で開催します。

黎明会代表 大根田匡史



▲久保田先生近影 撮影／加藤純一

＜質疑応答会＞

- ★日 時 平成10年12月20日（日） 午後1:00～5:00
★会 場 KSP（かながわサイエンスパーク）7階会議室708号
神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1 ☎044-819-8484
★交 通 ①JR南武線武蔵「溝ノ口駅」／②東急田園都市線「溝の口駅」下車。
溝の口駅バスターミナル⑨番乗り場から無料シャトルバスで5分。
（日曜午後12時台は12:10/12:30/12:50発）
★会 費 ￥3,500（当日受付で納入）
全員記念写真代は送料共￥1,000（希望者のみ）

プログラム

1:00	開 会	司 会	岡田 茂
		換 拶	大根田匡史
1:05	質疑応答		久保田先生
3:00	休 憩		
3:15	質疑応答		〃
4:15	大宇宙思念法の解説と実践指導		
4:45	全員記念撮影		
5:00	閉 会		



▲会場のKSP（かながわサイエンスパーク）

＜忘年会＞

- ★時 間 質疑応答会終了後、午後6:00～8:00
★会 場 南欧食堂「アマートアマート」 神奈川県川崎市高津区溝口1-4-1
ノクティブラザ2/1階（立食形式）
★会 費 ￥5,500
★二次会 溝の口駅前「魚民」を予定（会費未定）

＜予約申込み＞

- ★方 法 ハガキに「質疑応答会」「忘年会」の両方または一方を記入し、12月1日（火）までに下記へ必着でお送り下さい。
★申込先 〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野3-26-26 岡田 茂
★問合せ 清野尚史 ☎03-3825-4889（ただし夜間 8 時以降）

＜宿 泊＞

- ★下記のホテルを予定しております。個人で直接お申込み下さい。
★「川崎第一ホテル 溝ノ口」 神奈川県川崎市高津区溝口2-3-12
★☎044-877-3333（シングルA＝¥6,900 シングルB＝¥7,200）



宇宙

■日本初の火星探査機打ち上げ成功

日本初の火星探査機を載せたM5-3号機が七月初四日午前三時二二分、鹿児島県内之浦町の鹿児島宇宙空間観測所から打ち上げられた。二分後、探査機は高度四四一キロで切り離され、地球の周囲から月の軌道までを回る高度三四〇キロ、五八万キロの橢円軌道に投入されて、打ち上げは成功した。文部省宇宙科学研究所は探査機を「のぞみ」と命名した。今後、来年一〇月の火星到着を目指す。

火星探査機の打ち上げはロシア（一九六〇年から一八機）に次いで世界で三カ国目。米露の探査では、火星の地殻活動による地場の発生や大気と太陽風の影響は未解決のまま。日本の探査は、これら火星の惑星環境を解明するため一四種類の観測機で磁場、プラズマ、イオンなどを測定する。また、地下の水やリングの有無も調べる。

計画では、九月と二月に月の重力などを使って加速（スイングバイ）後、二月二〇日に地球を回る軌道を離れ、火星に向かう。秒速約三〇キロで約七億キロの宇宙空間を飛行し、約一〇カ月後の来年一〇月一日、火星を回る軌道に入り、約二年間の探査活動を開始する。

また、機体には「あなたの名前を火星へ」に申し込んだ国内ほか欧米、アジアの合計二七万六九四八人の名前を、フィルム撮影で圧縮印刷した三×四センチのアルミ製ミニプレート二〇枚を載せている。M5-3号機は、宇宙研が来世紀の衛星打ち上げの主力機として開発した固体燃料ロケット。全長三〇・七メートル、

直径一・五メートル、総重量約一四〇トン。費用は、探査機約一四億円。ロケット打ち上げ約七億円の計約一八六億円。（7・4毎、読、朝）

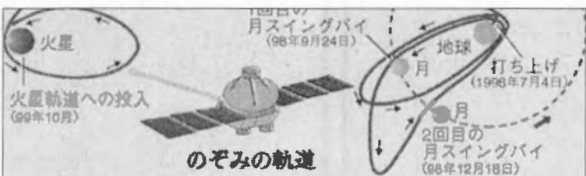
■衛星イオは「ピザ」

―太陽系最高温マグマ噴出

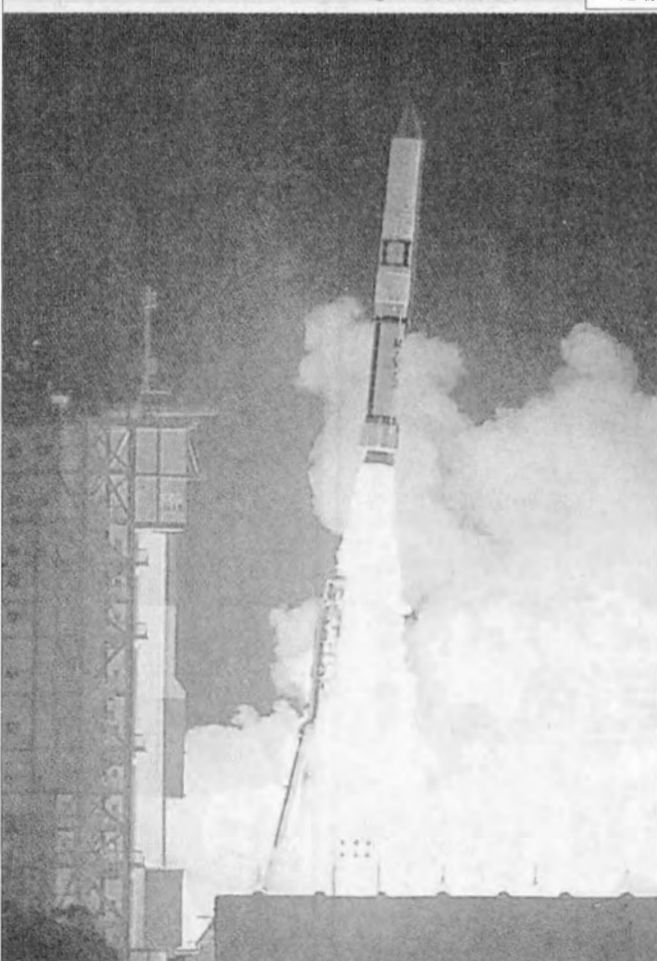
米アリゾナ大・月惑星研究所などのグループは二日、今も火山活動を続ける木星の衛星「イオ」の火山から、推定温度でセ氏一五五〇度という非常に高温のマグマが噴出するのを観測したと発表した。太陽から約二〇億キロと遠く離れているにもかかわらず、太陽系内の惑星や衛星の表面温度としては最高温度になる。三日発売の米科学誌「サイエンス」に掲載される。

研究グループは、米航空宇宙局（NASA）

「日本初の火星探査機「のぞみ」を搭載したM5-3号機。



のぞみの軌道



「のぞみ」を搭載し打ち上げられたM5-3号機―鹿児島宇宙空間観測所で4日午前3時12分、川田雅浩写す

SA)の木星探査機「ガリレオ」によるイオの赤外線観測データを分析した。一

二カ所の火山のマグマ温度が、地球の火山で観測されるマグマ温度（セ氏約一〇〇〇度）を上回っていた。

一ニカ所の推定温度は同一二〇〇〜一五五〇度で、太陽に最も近い木星の表面温度より三倍ほど熱い。ただし、イオ自体は太陽から離れており、一ニカ所のホットスポット以外は氷点下一五〇度前後の凍てついた世界が広がっている。

イオの内部でなぜ高温のマグマが生成されるのかについて、研究グループは、いびつな楕円計をしたイオの木星周回軌道が原因ではないかと推測している。

イオの表面には赤や黒、緑など多彩な色がちりばめられており、研究者は「ま

るで「ピザみたいだ」と表現している。（7・3毎、読、朝）

■「のぞみ」は小さくても賢いぞ

「のぞみ」の打ち上げ時の総重量は約五四〇キロ。約半分は燃料で、本体は約二六〇キロしかない。

文部省宇宙科学研究所の中谷一郎教授は「のぞみ」の特長を説明する。

「姿勢安定システムを簡素化するためにスピンドル型を採用した。直径一・六メートルの高利得アンテナは炭素繊維強化樹脂（CFRP）の三軸織りで、できるだけ薄くした。燃料タンクは極薄のチタン合金とCFRPの二重構造でできている」

「水素吸蔵合金を用いた蓄電池は従来のものより約二割軽く、太陽電池も高効率セルを使った。特殊な樹脂基盤を使った

観測装置は一四種類合わせても三三キロしかない。

いちいち地上から命令しなくても、コンピュータの判断で姿勢や軌道を変えられる機能も充実している。火星まで電波が往復するのに四〇分もかかる場合があり、地球からの指令では間に合わないことや、太陽の裏に隠れる数週間通信不能になるからだ。

火星探査は米国とロシア（旧ソ連を含む）が二〇数回試みたが、三分の二が失敗に終わっている。打ち上げ失敗以外の原因では、軌道変更時に姿勢制御がうまくゆかず、通信不能に陥った例が多い。「のぞみ」は九月二四日と二月一八日の二回、月の引力を利用したスイングバイと呼ばれる手段で加速する。二月二〇日に地球スイングバイで加速して地球周囲軌道を離脱。来年一〇月に火星上空に到着。火星に対して秒速約六キロから約四・五キロに減速して周囲軌道に入る。「このときは約一時間半、地球との通信はできない。「のぞみ」が自分で判断して姿勢を傾けた後、再び地球にアンテナを向けることができるか、最も緊張する場面だ」と中谷教授。

宇宙研の西田厚弘所長は「難所はたくさん残っているが、山頂は見えてきた。気を引き締めて進みたい」と話す。（7・15朝）

■大型望遠鏡「すばる」心臓部完成

文部省国立天文台がハワイ・マウナケア山頂に建設中の大型光学望遠鏡「すばる」の口径八・二メートルの主鏡が完成し、米ピッツバーグ郊外の研磨工場で二八日公開された。すばるは来年一月に完成し、単一鏡では世界最大の望遠鏡となる。

る。

主鏡は厚さ二〇センチの凹面鏡で、重さ二・八トン、米コントラベスBS社が丹念に磨き上げた。表面の研磨平均誤差は二ナノメートル（ナノは一〇億分の一）。主鏡をハワイ島の大きさに拡大しても、紙一枚程度の誤差しかないことになる。

既存の最大の望遠鏡は米国のケック望遠鏡（口径一〇メートル）だが、これは小さな鏡を組み合わせた分割方式で、実際の分解能は単一鏡のすばるの方が高いとみられている。

家正則・国立天文台教授は「世界で最も精密な鏡が出来た。ハッブル宇宙望遠鏡に匹敵する解像度が期待される」と話している。（8・30毎）



▶鏡を支える二六一個のアクチュエーター（能動支持機構）に載った「すばる」の主鏡。



▲木星探査機「ガリレオ」が撮影した木星の衛星イオの黒っぽい部分が火口で、周囲に赤い溶岩片が見える。

テレビでUFO問題とGAPを語る

日本GAP埼玉支部代表

会田裕子

▲左は土屋品子衆議院議員。
右は会田裕子埼玉支部代表。



「本部直結型の活動する支部」として本年度五月から久保田先生ご承認のもとに日本GAP埼玉支部が誕生して早くも半年近くが経過致しました。

お蔭様を持ちまして設立以来、埼玉支部では会員が一丸となって精力的にGAP活動を展開して参りました。特にUFO写真展は県下で二回にわたって企画、開催し、いずれも地元の皆様を中心に大好評を博しております。中でも、六月二日～二八日までの浦和市役所内の市民ギャラリーで行なわれた写真展では、県庁の近くとあって多くの方が来場され未知なる世界に多大な関心と驚嘆の声が多数聞かれました。また今回の写真展ではマスメディアからの注目度が高く、まず最初に地元埼玉新聞社の記者が取材に訪れ、翌二五日の紙面にUFO写真展の様子が写真入りで紹介されました。

その翌日にはテレビ埼玉の製作者の方が来訪され場内のUFO写真パネルや異星人問題に多大な関心を示され、早速、写真展の責任者にテレビ出演し

て欲しいとの要請を頂きました。これに応えて今回、久保田先生のご了解のもとに埼玉支部代表の会田裕子が対談番組に出演致しました。

この番組名は「さわやか品子の談話室」。これは埼玉県出身の土屋品子先生（衆議院議員）がパーソナリティーを務めている一五分番組で、毎回埼玉県在住のさまざまな分野で活躍している著名人を招いて対談を行なうという格調高い番組です。制作スタッフの方々ははじめ番組自体がUFOや異星人問題に対して非常に好意的で、七月上旬に浦和市内のスタジオで行なわれた収録もスムーズに進行しました。また、「四人に一人はUFOの目撃体験を持っている」という独自のアンケート集計データが話題になりましたが、実はスタッフの一人もUFOの目撃体験があることが判明し、リハール中からスタジオ内は大いに盛り上がりました。

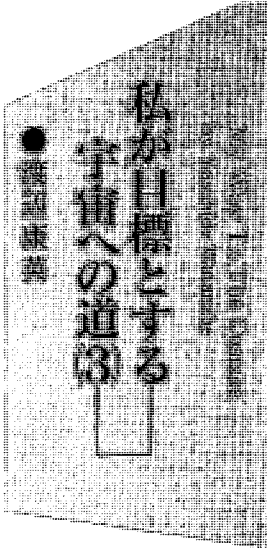
番組では、まず日本GAPの概略や活動目的を説明し、その後アダムスキーを始め、金星・土星の円盤と母船の写真が画面いっぱいに映し出されそれぞれ会田が解説を行ないました。パーソナリティーの土屋先生はUFOの存在については半信半疑ながらも宇宙の広大さや神秘性に触れ「非常に夢のあるお話だ」と関心をよせておられました。最後に会田がUFO目撃談を話し「皆さんも上空にもっと関心を持てば

UFOを目撃できるのではないでしょうか？」と締めくくり和やかな雰囲気のもと対談収録は無事終了しました。

この模様は八月二日（日）午前九時から埼玉県を中心に一五分間放映され、翌月曜日の午後にも再放送されました。また八月の東京本部月例セミナーでもビデオ映写され好評を博しました。続く九月には第二回埼玉支部主催UFO写真展が埼玉県春日部市春日部郵便局内の「ふれあいの広場」で二週間開催され、こちらも大盛況となりました。

このように回を重ねる度に注目を集めているUFO写真展は真実のUFO情報を知らせるための有効手段として注目されています。またこのように豊富な写真パネル類を用意できるのは日本GAPだけであるという誇りを益々強めている次第です。今回のテレビ出演についても、迫力あるUFO写真展のクオリティーの高さと埼玉支部の活動内容が注目・評価されたという事実はGAP活動を推進する我々にとって非常に喜びです。

埼玉支部ではその他に、UFO観測会の実施や来年度には第三回目のUFO写真展の開催も決定しています。今後「久保田先生を絶対支持する支部」という大前提にそって「本部直結型の活動する支部」の名に恥じないよう、皆様と共に成長して行く支部を目指し精進して参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。



私が目標とする 宇宙への道

● 著者 渡辺 真

本当に苦しくなると、出張先にも『生命の科学』を持って行きまして、本当に苦しい瞬間の切羽詰まった状態におちいつて、そこから逃れたいという気持ちで読んでおりましたので、本来のきちんとした精神状態で読むとはかなり違っていたとは思いますが、でも、とにかく追い詰められた状態で宇宙哲学を部分的に実践しております。

ミラクルワードで苦境を切り抜ける

これが昭和四八年に出版されました『生命の科学』です（といって本を見せる）。もうボロボロになっていてけれども、苦しいときにこの頁を開いて精神安定剤のような形で使わせて頂いたのを記憶しております。

当時は困ったときだけのミラクルワードの実践で、本当にいつときだけの凌ぐための応用でしたけれども、それでも実践してみますと、これは相当な効果がありました。

（編注）ミラクルワードというのは、奇跡を起こす言葉という意味で、自分

が実現させようとする物事を思い浮かべながら「〇〇は実現した」と何度も反復して唱える方法を意味する。

実際に間に合わないような仕事でも、それが間に合ったり、あるいはお客様に満足して頂いて、その打合せや報告会などを辛うじて切り抜けることが出来るということもございました。

ミラクルワードで良い職場に転職が実現

ところが、それをずっと続けていればよかったのですが、結局、その苦しい時が過ぎますとミラクルワードはやめてしまつて、『生命の科学』ももう読まないということが続きまして、本当に三日坊主的な宇宙哲学との関わり方をしていたわけでございます。ストレスがたまる職場でしたので、なんとかして転職しようと思ひまして、そのときにもミラクルワードを応用させて頂きました。「自分の運命は本当に良くなるんだ」ということを通道途中などに繰り返して唱えておりました。

実際にはすぐに良い職場に転職できたわけではないんですけども、最終的には現在のかなり良い職場に転職することができました。私自身は経済音痴で美術系の人間なんですけれども、現在は金融関係の研究所に勤務するところ、そのときに突然その大きなプロ

ジェクトが入って、人が足りなくなつたということで、その場凌ぎ的な形で私を採用してくれたということをとから聞きまして、これもミラクルワードのお蔭で、限られたタイミングで応募出来たというふうに考えております。

イスラエル旅行で大感動

そうしているうちに三〇代の後半になつてまいりまして、そろそろ人生の前半部分を終了して後半部分を迎えるということになりました。自分自身の後半をどういうような形で目標を掲げて生きてゆけば、自分自身で満足できるような充実した人生を送れるのか、というふうに考えまして、それでいろいろと考えたあげく、再度自分の人生の目標を明確にした次第です。このときには秋山眞人先生の本などいろいろと読みまして参考にさせて頂きました。

それで一昨年あたりにその目標を設定し直した次第です。話が前後しますが、けれども、そういった目標を設定してこれから進んで行こうと思つていたところに、昨年、日本GAPの研修旅行としては最後になるかもしれないというイスラエル旅行の企画を知りまして、（編注）イスラエルへ行くのはこれが最後になるかもしれないという意味）ぜひとも参加させて頂きたいと思ひました。一一月という時期は私にとってか

なり忙しい時期だったのですが、あえて参加致しました。

私自身はイスラエルという国に対しては何の印象もなくて、縁もゆかりもないところだというふうに考えておりました、多少マイナスのイメージを持っておりました。といいますのは、これまで何回となくイスラエル旅行を日本GAPで企画されておりましたが、その参加された方々の感想文を見ますと、かつて過去世でイスラエルの土地で生活したような記憶がよみがえつてきて感激されたというような、そんな感想文が沢山出ていたわけです。

自分としては全く縁がないのに、私が熱心な方々の中に入つて、一人場違いな人間が入つてしまふという状況を覚悟して行つたわけです。実際に行つてみますと、イスラエルという国自体は治安も非常に良かったですし、またイエス関連の遺跡を見学しますと、予想もしないような感動が起こつてきたわけです。

私自身はどちらかというと、親が死んでも涙が出ないような冷静な人間といえますが、どつちかというところと冷徹に近いような人間です。感情の起伏がなく、感情面の発育が遅れているようなグレイミたいな人間なのです。しかしイエスの遺跡に触れまして、理屈では言えないような、こみ上げてくるような感動がありまして、本当に自分でもびっくりしました。（以下次号）

検証・UFO写真

●万能の検証法はない

理學博士 三島孝博

1. 前書き

いそがしい現代社会。たまには心身共にリフレッシュするためにも、外へ出でのんびりと過ごしてみるのもいいものである。筆者も「のんびり」は大有り得意科目で、暇さえあれば（無くても作って）せつせと大空（宇宙）の観察に出かけている。そして世の果ての様な、何もない広野で気づくのは、「大空はなんて広大なのか」ということである。そこは視界の約半分が大地（地球）で、残りの半分が大空（夜は星空）である。「ああ宇宙とは、なんて雄大なんだらう」「我々地球人も、こんなに広い宇宙の様な心をもって生きて行かなければいけないんだな」「熱い情熱と忍耐力、そして人並みの観察力があれば、不思議な現象なんて案外簡単なものかも知れない」少しキザな言い方かもしれないが、そう思い筆をとった。

前書きの前書きが長くなってしまったが、これより1997年1月1日、筆者が参加したアメリカ、カリフォルニア州のデザートセンター調査行（注1）において、自ら撮影した写真を解析したところ、UFO（未確認飛行物体）らしき物体に関する、面白そうな

結果が出たので報告させていただきます。なお今回の分析は初歩的なものであり、その結果は、「写真に写った物体は何か？」という問いに回答を与えるものではないが、まず読者の皆様、自ら画像を注意深く観察していただきたいと思う。そしてその問いの答えを見つけて欲しいと思う。また、今後、読者の方々にも研究に参加していただけたらという希望から、技術的な点も一通り解説したつもりなので、参考にしていただけたら幸いである。

2. UFO写真の分析法

UFO写真の分析に関しては、過去にいくつかの解説（注2）があるが、筆者は最近の技術革新の成果ともいえるデジタル画像解析法（注3）を用いている。読者の中には、デジタル画像解析という大変な物と感じる方が多いのでは？と思うが、昨今のパーソナルコンピュータの進歩のお陰で、我々アマチュアにも、プロの写真家並の写真が、デジタル画像処理によって容易に得られる時代になってきた。近頃では一般的になった装置（パソコンとカラープリンター、写真加工用ソフトウェアの組み合わせ）により必要十分な解析を行なうことが可能である。

なお念のため言うておくが「コンピュータによる解析は万能で、結果は絶対に正しい」といった様な見方は誤りである。その理由は「現在の地球上には、人間の様に柔軟に仮説を立てて、推理検証し問題を解決できるコンピュータはない」からである。結局「コンピュータは便利な道具」であり「便利な道具を使つて整理、解析した結果を人間が判断する」のが正しい研究態度であるといえる。

それでは、今回筆者が用いたデジタル画像解析法の概要を、3段階に分けて説明させていただく。

（図1（Fig. 1と明記。以下同様）参照）

①写真のデジタル化

解析を行なおうとする物体を撮影した写真のネガ（またはスライド）の画像をコンピュータが認識可能な数値データに変換する。この作業は、一般にはフィルムスキャナー等の機器（注4）を用いて行なうが、今回は装置の導入の必要がなく、高精度かつ安価であるという理由からPhotoCD（注5）を用いた。PhotoCDでは、1コマの写真は最大3072個×2048個の画素（色を持つ点の集合）に分解され、各画素毎に色の数値化が行なわれる（カラー画像の場合、3原色各々に256段階で量子化される）。これは、普通の写真が持つ画像情報が、殆ど損失なくデジタル数値化される、

非常に高度な分解能である。

②コンピュータでの画像の加工

前段階で作成したPhotoCDをパソコンのCD-ROMドライブに入れ、画像加工用ソフトウェア（注6）によりパソコンに取り込む。これにより画像の加工（色、輝度、コントラスト等の調整や、尖鋭化等の特殊処理など）を、パソコンのディスプレイ（表示器）上にて簡単に行なうことが可能である。また、デジタル画像処理には、結果が気に入らなければ、何度でもやり直しが出来るという利点もある。各種の処理により、必要な画像を得たならば、ひとまず画像データを外部記憶装置（注7）に記録し次の段階に移る。なお、ここでの作業の記録、各処理の順番と処理のパラメーターは必ずメモしておくこと。こうしておけば後日再び処理を行なう際に大いに役立つ。これらの記録があれば、いつでもデジタル画像処理の威力（高い再現性、保存性）が充分に発揮できる。

③画像の出力

コンピュータからの画像の出力には、いわゆる「写真画質プリンター」を用いて紙に印刷する。筆者はここだけはゼイタクして、熱昇華型というプリンターを用いたが、最近では安価になったバブルジェット型のプリンターでも、専用紙に印刷すると、一見本当の写真と見間違ふ程、高品位な出力を得ることが出来る。また、印刷専門の業

者（注8）にて写真並の高品質なプリントを作成することも可能である。以上を総括して、技術の進歩とは素晴らしい、現在の我々は、暗室内での薬品の臭いを嗅ぎながらの煩雑な作業からは、完全に脱却できつつある。

3・結果と分析

写真（Photoと明記）1、2、3、4は筆者が撮影したもので、問題の物体が写っている。これらは番号順に4枚連続して、約5秒間隔で撮影したものである。撮影時の状況等については同行した目撃者から既に報告済み（注1）であるので、ここでは詳しく述べないが、撮影時の天候はおおむね晴れ、撮影時刻は午後4時20分頃であった。目視では（筆者は物体を目視出来なかったが）物体は北西の方向に突然出現し、30秒程度ですぐに見えなくなった。（これは目撃者6名の意見が一致している）物体の撮影は35mm一眼レフカメラ（注9）で行なった。さて問題の物体は、写真1の中央右側（雲の下側）および、写真2、3、4の中央付近に白い点として写っている。写真1は広角レンズで撮影したものなので撮影場所のデザートセンターの夕暮れの雰囲気もわかる。図2および図3（図3では、左より3-12、3-13、3-14と明記した画像は、それぞれ写真2、3、4に対応している。以下同様。）は、写真の問題の部分のみをPhotoCDの写真データより抽出し

拡大したものである。図2と図3は一切の加工をしていない原画像である。図2では元の写真1が低倍率の広角レンズで撮影したものであるために、拡大しても中央部の物体は小さな星状にしか見えない。しかし物体の色は、明らかに白色であることがわかる。図3では元の写真2、3、4が200mmの望遠レンズで撮影したものであるために、中央部の物体は鮮明に拡大されている。物体の形状は円形で、白い色が撮影順に徐々に薄くなってゆくのがわかる。それでは次に画像に加工を加え、解析を進めた結果を述べる。

まず始めに物体の形状をはっきりと観察するために、画像に尖鋭化処理（コントラストを強調する処理）を行なってみた。図4、5、6、7はそれぞれ図3の画像を原画像として、コントラストを段階的に強調したものである（コントラストの増大の程度は各々の図番の下に記した）。これを見ると、コントラストを増大させることで、図3の原画では不明瞭であった物体の形状が、浮き上がる様に鮮明になってゆくのがわかる。また、図5などの画像を注意深く観察すると、物体の中央付近に丸状または三角状の構造も観察できるのが興味深い。

次に、物体の色が徐々に薄くなっていく様子を観察するために、図3の原画像より中央部の被写体の輝度情報（明るさの程度に関する情報）のみを抽出して変化を観察したのが図8である。（白黒画像で、元画像の中央部の物体の輝度を、25段階に分けた。本画像は色が黒い程、被写体が明るいことを示す）。図8を観察すると、写真2、3、4の順で物体の輝度が小さくなっていることがはっきりした。また、やはり画像の中央部に何らかの構造（丸状または三角状）があることもわかる。それと、物体の左上（ほぼ11時の方向）が最も明るくなっているのがわかる。

更に図8の輝度情報を詳しく調べるために、輝度の等高線マップ（同じ明るさを持つ点と点をつないで絵にしたもので、画像の輪郭線に関する情報を得ることができる）を作成してみた。図9、10、11、12は、それぞれ、輝度値15、175、185、195で輪郭線を検出したものである。これより、物体は約5秒間隔という短時間で、その明るさが大きく減少してゆくのがわかる。また、図9（9-12、9-13、9-14）をみると低輝度側の輪郭線の形状はあまり変化していないことから、物体の見かけの大きさは殆ど変化していない様子がわかる。これらの画像からも物体の中央付近に何らかの構造がある事がわかる。

最後に物体の大きさを推察するために、写真上で物体の大きさを測定した。筆者の手元にある写真では、対角線の長さが約150mmで、中央部の白い物体の直径は約1mmである。200mmのレンズを使用した場合、写真の画角（対角線方向の視野角）は約12・5度なので物体の見かけの視野角は0・08度である。これより、簡単な三角関数を用いて、物体までの距離L（m）を仮定して物体の直径D（m）を推察した。この結果は、

L ≡ 5000mの場合 D ≡ 0・7m
L ≡ 10000mの場合 D ≡ 1・4m
L ≡ 50000mの場合 D ≡ 7・0m
という結果になった。

以上の分析結果を要約すると、

①観察された物体は白色で、円状の物体である。（写真2、3、4）

②物体はその一部分が特に明るく見え、その位置は物体上の11時の向きにある。（図8から図12）

③物体の色は時間が変化するに従って（写真2、3、4は約5秒間隔で撮影した）薄く見える様に変化した。

④物体の明るさが変化しても、物体の大きさは大きな変化が認められない（図9）。また、連続写真上（写真2、3、4）でもその位置はほとんど変わっていない。

⑤物体の中央部には丸状または三角状の構造がみえる（図5、図8等）。

⑥物体の大きさ（直径）は、物体までの距離を10000mであったと仮定すると、約1・4mである。

これらの結果をふまえて、「問題の物体は何か？」を考えてみる。空中に

見える可能性のある物体というところ、鳥などの生物、月などの天体、雲などの自然現象、風船や飛行機などの人工物、等々結構沢山ある。しかし、写真の画像の色や形状から判断すると、この中では、風船くらいしか当てはまらない様である。しかし、日中、砂漠の真ん中に風船が浮いているのも不自然であるし、急に見えなくなったりなどするであろうか？ また、分析結果の②の、物体上の11時の向きの点が最も明るくなっていることは、物体の形が球状であったとすると、冬の午後4時すぎ（夕暮れ前）の太陽光線の反射とすると、少々不自然な向きである。写真1から判断すると、少なくとも9時の方向が最大輝度を持つていてもよさそうだと考えられる。これは、物体が円盤状であったと考えると、（その向きによつては）反射光の様子に説明がつけられるのではなかろうか？ するとやはり、「未確認飛行物体」であったという可能性が強くなる。しかし情報は限られていることもあり、ここでは結論を急ぐことはやめておこうと思う。読者の方々はどうか考えるであろうか？

4. まとめ

簡単に結論をいえば、「その物体は突然出現し、消えていった。そしてそれは、写真でも確認できた」ということになるが、今回得られた写真、解析データのみでは、「我々が目撃した物

はいったい何なのか？」という問いに答えを出すのは難しい。「それは気象観測用の気球で、太陽光線の当たり具合によつて色が変わっただけだろう」と考える人もいるだろうし、「それはUFO（未確認飛行物体）に違いない。消えてゆく様に見えるのは、物体が透明化したのだ」と考える人もいるだろう。これに結論づけを行なうためには、今後、より多くの観測、正確な状況の把握、定量的な分析とデータの蓄積が必要である。

最後に、一つだけはっきりしているのは、「そこには確かに『何か』が存在していた」のである。こういった未知の現象を説明するためには、既存の概念にとらわれない、自由で創造的な研究態度が最重要だと思う。なお、本稿では触れなかったが、撮影した物体の画像には他にも異常な点（物体の周囲の微妙な色の違い等）が認められるので、今後更に詳しく分析を行なう予定である。また、コンピュータ法（複数枚の画像を合成することで、より高品位の画像を得る方法）等の画像解析技術についても、機会があれば紹介しゆきたい。

なお、読者の方々に、未確認飛行物体に関する研究用の写真およびデータを提供して下さる方がいれば、日本GAP経由にて筆者まで連絡されたい。この分野の研究の進展のために、読者の皆様に、ご協力をお願い致したい。

また、本稿に対するご意見、ご感想等もお寄せいただければ幸いである。

5. 謝辞

本報告をするにあたって、デザートセンターでの貴重な調査旅行に参加させて下さった日本GAPの久保田八郎会長と関係各位に感謝いたしたい。また、解析にあたり有益なご助言を下された方々に感謝いたしたい。

6. 脚注

（注1）「UFO Contacte」137号（1997年・日本GAP）には目撃者の証言が掲載されている。

また、「月刊ムー」1997年6月号・学習研究社」にも加藤純一氏の解説記事がある。なお、「UFO Contacte」137号の12ページに掲載された写真（本稿の写真2に相当）は筆者の手違いで上下が逆になっている。（これは本稿の写真1より明らかである。）この場を借りてお詫びいたしたい。

（注2）「世界UFO写真完全記録」、1980年・朝日新聞出版（絶版）の巻末に富川正弘氏、有江富夫氏の解説記事がある。

（注3）デジタル写真技術一般の解説書としては、「実践デジタル写真術」、笠井亨、他著、1997年・朝日デパート等を参照されたい。

（注4）フィルムスキャナーとは、写真のフィルム（またはスライド）の画像をコンピュータが認識可能な数値

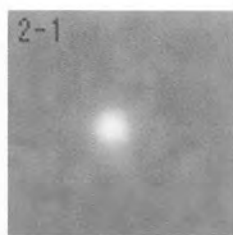
データに変換する装置である。また、フラッドヘッドスキャナーと称して、写真や印刷物から画像を取り込むことが可能な装置もある。

（注5）PhotoCDとは、イーストマン・コダック社が開発したデジタル写真記録媒体のこと。パソコンのCD-ROM等にて読み出しが可能。カメラ店にて依頼すれば簡単に作成可能であり1枚で約100コマの写真の保存が可能。また、原理的には画像の経時変化がない。

（注6）代表的な物に、Adobe社のPhotoshopというソフトウェアがある。本稿で筆者はPhotoShop LEIJというソフトウェア（機能限定版）のみを使用した。操作法、機能についての解説は多数あるが、添付の「ユーザガイド」や「フォトショップ4.0Jビギナーズブック」、1997年・朝日新聞社、等を参照されたい。

（注7）外部記憶装置とはコンピュータで用いる大量のデータを記録または再生する装置のこと。FD（フロッピーディスク）、ハードディスク等があるが、画像処理を行なう場合は、大容量の画像データ用に、FDの数100倍のデータを記録再生できるMO（磁気光ディスク）を用いるのが一般的になっている。

（注8）一般的には「出力センター」といわれているところで、多少の消費

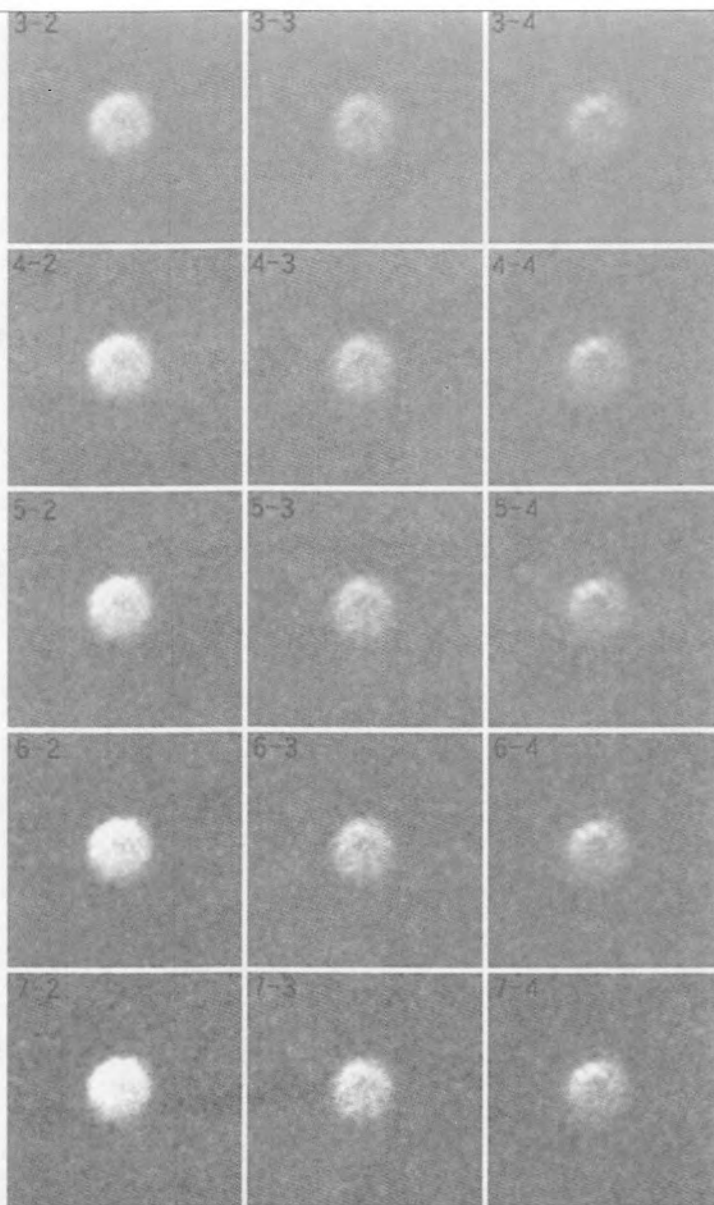


●オリジナル写真

Fig. 2
(Original)

は必要であるが、出版業界御用達の高品質な印刷が可能である。専門誌に広告が沢山出ている。ここへは通常、MOディスクで画像データを持ち込む。(注9)

写真撮影に使用した機材は、カメラニコン、ニューFM2、レンズニタムロン、28mm、200mmズームレンズ(F4.5、F5.6)、フィルムニコダックゴールド400である。なお、焦点距離28mmの場合の画角(写真上での視野の広さ)は約75度、焦点距離200mmの場合の画角は約12・5度である。

Fig. 3
(Original)Fig. 4
(Contrast+20)Fig. 5
(Contrast+40)Fig. 6
(Contrast+60)Fig. 7
(Contrast+80)

◀図1ニデジタル画像処理の流れの説明図。図2ニ写真1の中央右側にある物体を拡大。写真Cの画像データより抽出。未加工のオリジナル画像。図3ニ左よりそれぞれ写真2、写真3、写真4の中央部の白い物体を拡大。写真Cの画像データより抽出。未加工のオリジナル画像。以下の画像も左より写真2、3、4に対応。図4ニ図3の画像にコントラスト強調処理を施した。物体の輪郭が鮮明。コントラスト値は+20。図5ニ同上。コントラスト値は+40。図6ニ同上。コントラスト値は+60。図7ニ同上。コントラスト値は+80。図8ニ図3の画像の中央部の物体の輝度情報を示す。本画像は黒い点ほど物体が明るいことを示す。図9ニ図8の画像の明るさに関する等高線マップ。物体の輪郭がわかる。しきい値は100。図10ニ同上と図8の画像の明るさに関する等高線マップ。画像の中央部に何らかの構造がある。しきい値は100。図11ニ同上。しきい値は100。図12ニ同上。しきい値は100。

Fig.8
(Light Intensity)

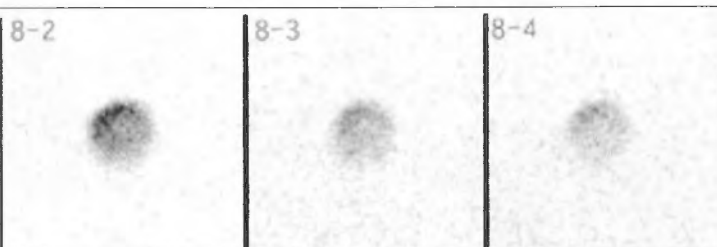


Fig.9
(Intensity=165)

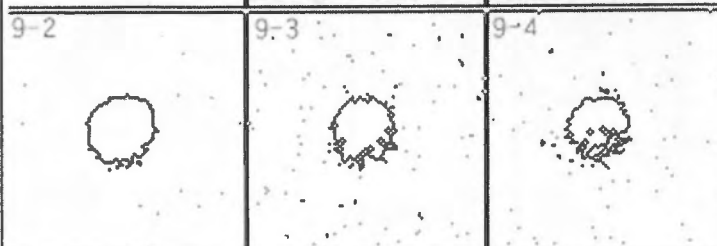


Fig.10
(Intensity=175)

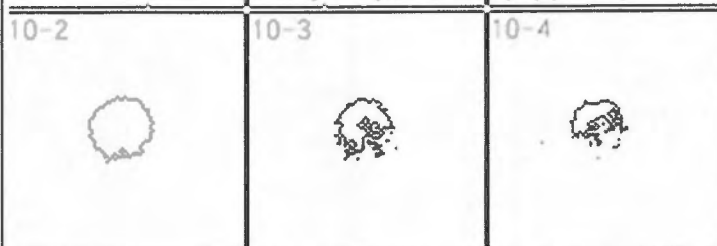


Fig.11
(Intensity=185)

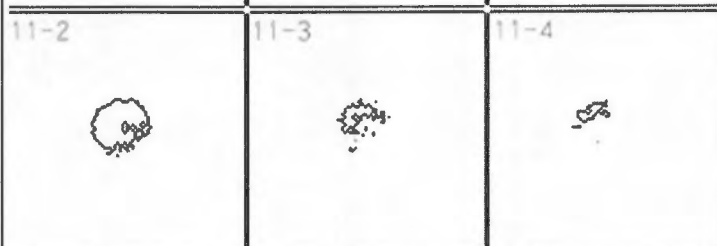


Fig.12
(Intensity=195)

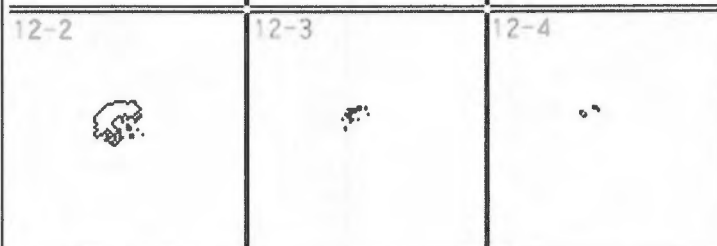
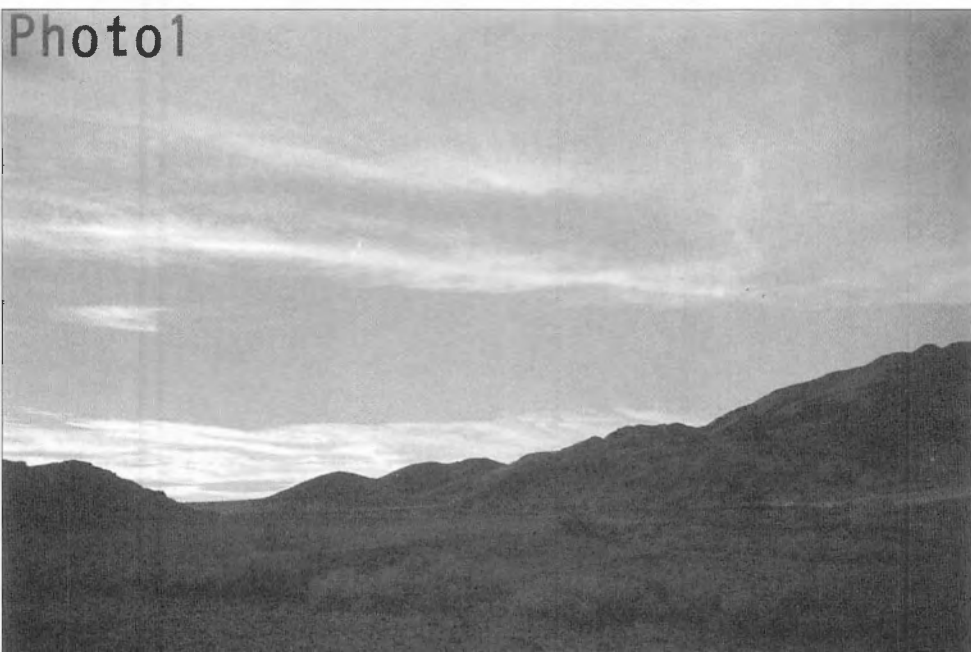


Photo1



▶オリジナル写真。一九九七年一月一日、アメリカ・カリフォルニア州デ
ザートセンターで撮影。ニコンニューFM2・28ミリレンズ。中央左側に白
い光点(問題の物体)が見える。筆者撮影。以下同様。

Photo2



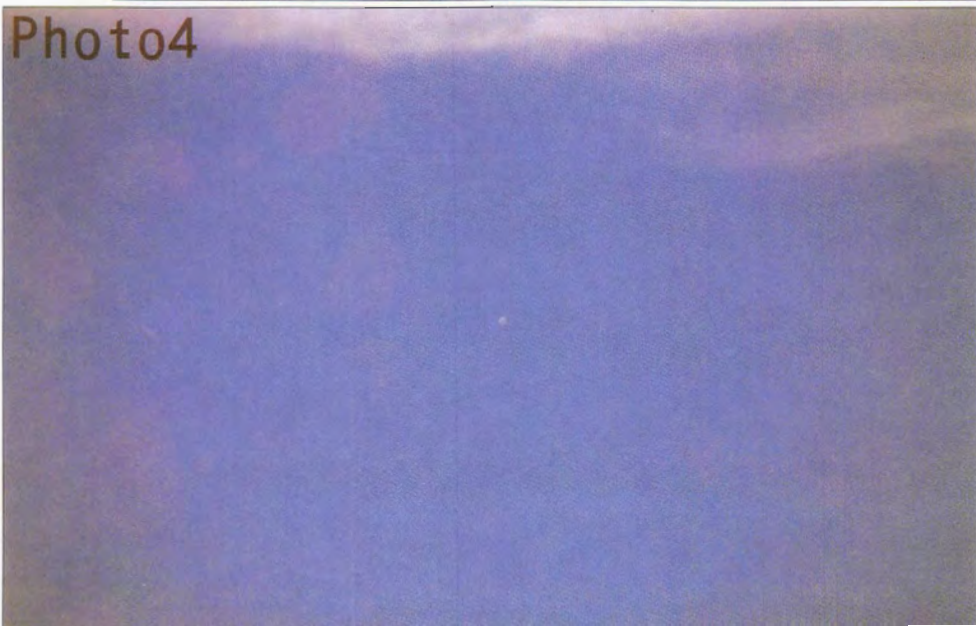
▲オリジナル写真の連続ニコマ目。20ミリレンズ使用。
中央に写真と同じ白い物体が見える。

Photo3



▲連続ニコマ目。

Photo4



▲連続ニコマ目。物体の像が薄くなっている。

Space People Living With Universal Laws
by George Adamski/Translated by Hachiro Kubota
© From Alice Pomeroy's "For An Example"

宇宙の法則のもとに生きるスペースブニザーズ(6)

ジヨージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載23〉

(前号のあらまし)

ボストン市における講演においてアダムスキーは多くの重要な事柄を話したが、想念によって病気を治す方法についても語り、手術によって一女性の内臓がほとんど切り取られたにもかかわらず、女性がアダムスキーの指導を受けて心の持ち方を変えたところ、その内臓が自然に生えてきて完全な健康体になったという驚異的な実例をあげた。

また花に向かって想念を送りながら花を動かす方法についても語り、神の本質とイエスの最期の実態を説明し、これに関する知識はアダムスキー自身の過去世の記憶を呼び出すことによって得たと言う。

人間にはみな過去世の記憶があるにもかかわらず自分では気づかない。初めてある場所へ来たのに懐かしく感じたり、初対面の人なのに昔から知っているような気がするの、すべて過去世で知っていたからであると説く。以下「ア」とあるのはアダムスキーを意味する。この講演が行なわれたのはア

ダムスキーが他界する前年の一九六四年であつたと思われる。

ア そうですね、人間はこのような体験を過去世で持たない限り、それと同じような事に気づくことはできないのです！ 人間は体験によって生きています。さきほどの例は(過去世からの)体験からくるのです。『記憶のドア』は絶えずノックされているのですが、人間はそれを無視していると言えるでしょう。それはちょうど何かのヒラメキのようなものです。それは予感ともいえます。

しかし人間の内部の『宇宙の意識』は、こうしたささい、ああしなさいと教えようとしているのです。しかし人間はそれを無視するものですから、そのためにあとになって自分が間違っていたことを知るので。あのととき予感に従っていたら、うまくいったのにと後悔します。そうでしょう？

『宇宙の意識』は人間を導こうとしているのですが、人間の心はそれに気づかないのです。心は他のあらゆる物の

はるか上位に自分を高めていますから、いまや心は神や悪魔にまで自分の考えを押しつけています。その結果、概して悪魔に大きなパワーを与えています。

人間の「心」が悪魔になった

ところでその悪魔でさえもまだ自分の地獄を破壊しようとはしていませんし、少なくともその地獄に住むと思われる住民を破壊しようとはしていません。そんなことを聞いたことはありませんね。ところが、心はすでに世界を制覇してしまつたんです。

問 『大悪魔』という漫画をご覧になったことがありますか。彼は小悪魔をこの世界に送り込んで自分のかわりに仕事をさせようとしているのですか。

ア そうですね、私ができることは、悪魔というのは悪い奴ではないんです。あまり責めないようにして下さい。

問 その大悪魔は小悪魔にこんなアドバイスをしているんです。

「いいか、忘れるなよ、聖書をひんぱんに引用するんだ」(笑い)

ア それは実に面白いですね(爆笑)。しかし結局、悪魔はこれまでになんぞ嫌われてきましたからね。

ところで、皆さんの多くはここへ自動車でやってきました。さらに我々はタバコを吸います。いろいろな器械を持っていますし、なんでも持っています。しかも神がこれらの物を人間に与えているのではなくて、悪魔が与えているとされているのです(笑い)。

新しい自動車やダイヤモンドの指輪、さらにさまざまな楽しみやその他の文明の利器を喜んで受け取らない人が、この中にいるのでしょうか。それなのに、それらのすべてを我々に与えているのは悪魔だとされているのです。

問 なぜですか。それがどうして悪いのですか。

ア 我々は間違つたふうに教えられてきたのです。つまらぬ話です。というのは我々はある政党を支持しているが別な政党から賄賂をもらつたりするからです(笑い)。

アダムスキーの人体細胞学講座

問 アダムスキーさん、あなたの活動について、もう少しお話しただけませんか。一部の人はあなたの講座で学んでいます、それについてはまだ何も知らない人がたくさんいます。ア そうですね、スペースブラザーズ（異星人）がその知識を私に与えてくれました。もともと私もある程度のこととは知っていたのですが、人々がもっと多くの事を知りたがるものですから、知識を与えて下さいとブラザーズにお願いしたわけです。彼らは現在の高度なレベルに到達させた彼らの哲学を教えてくださいました。

我々は幸運です。というのは今ここに彼らの哲学を教える講座が存在しているからです。その講座はたんに学ぶことを目的としたものではありません。それはおもに人間が自分自身を、真の自我を知るためのものです。なぜなら人間は自分の『宇宙の意識』の部分を無視してきたからです。

この講座は人々に、人間自身がどのように機能しているのか、外来細胞群が人間にどのようにしてメッセージを送ってくるのか、人間の肉体内の主体細胞群が人間の心にどのようにしてメッセージを送ってくるのか、といったことを教えています。

もし皆さんがそのようなことを理解

していなかったとしたら、皆さんはこの種の個体や多くの生涯を経たマスターが人間に語りかけているのだと言うかもしれません。しかし実際には人間の主体細胞群が本人の肉体内細胞群に語りかけてメッセージを伝えているにすぎません。つまり、いわゆる個人的な細胞群が心にメッセージを伝えているのです。

その講座はまた別な細胞がどのようにして語りかけてくるかについても教えています。なぜなら細胞は独立した存在物のようなものであるからです。それらは人間に語りかけて別なタイプのメッセージを伝えたりします。

そこでこの講座は、人間が進歩をとげるためにどのタイプのメッセージに耳を傾けたらよいのか、あるいはどのメッセージを無視したらよいのかも教えています。後者のメッセージは蓄積された習慣によってもたらされるからです。さらにその講座はそれらの細胞内のどこに記憶が存在しているのかも教えてくれます。科学者たちも今この分野を真剣に研究しているのです。

（訳注Ⅱこの講座というのはアダムスキー著『生命の科学』を意味する。これは中央アート出版社刊の新アダムスキー全集第三巻に収録されており、一九八八年度日本GAP東京月例セミナーのテキストとして用いられている。詳細は巻末のセミナー案内を参照）

結局、この講座は人間の真の自己を

理解させるためのもので、人間の心を用いて生きる方法を教えています。それによって心を元の正しい状態にもどすためのものなのです。

真実のテレパシー能力

イエスが語ったように、人間は小さな子供のようにする必要があります。人間は自分の心を命令するような状態ではなくて、奉仕する状態に保たねばなりません。続いて、心にとっては両親である『宇宙の意識』に心をまかせて、何をしたらよいかを『意識』に語らせるのです。皆さんがこの段階に達したならば、他人に教えることができるようになります。

（訳注Ⅱ人間の心は社会の現実を正しく見抜く力をもたないので間違った判断をしやすい。その場合は、万事を知っている内部の『宇宙の意識』と心を一体化させて耳を傾けるならば、『意識』から印象の形で真実が洩らされるという意味。これが真実のテレパシー能力であるという）

これがスペースビープル（異星人）が我々に望んでいることなのです。彼らは多くの地球人がこのことを理解するように願っています。我々が地球上により良い世界を築きあげるためには、このことを理解する人々が多数必要になってきます。先に理解した人々がグループをなして他人を教えるのです。

ですから現在私の講座で学んでいる学習者たちは、他人を援助するための教師となるようにトレーニングを行なっているわけです。

その時はいつかということになりますと、それほど長い先のことでありません。その時期は思ったよりも早いのです。私はそれを自分の講演中で感じる事ができます。

ローマカトリックのバチカン宮殿は別の惑星と連絡している

私はカバンの中に一通の手紙を入れてあります。今回の旅に出かける一週間前に届いたものです。

私はブラザー・ヨハネに会いました。私はローマ法王をブラザー・ヨハネと呼んでいます。

（訳注Ⅱこれはヨハネ二三世を意味する。法王はアダムスキーの異星人とのコンタクトをよく理解して、一九六三年三月に他界する前にアダムスキーをバチカン宮殿の病床に呼んで金メダルを与えた。このメダルは昔訳者がカリフォルニア州ビスタでアリス・ウェルズ女史に会ったときに見せてくれた。詳細は新アダムスキー全集第八巻『UFO・人間・宇宙』に出ている）

ある晩、私はベッドに横たわっていた法王を訪ねて、ついそのように呼んでしまいました。私はそれについて謝りました。というのは法王に対しては

「聖下」または「教皇聖下」と呼ぶことになっていたからです。私は何も言えませんでした。ブラザー・ヨハネと呼ぶのが当然のことのようでした。

すると彼は「私をブラザー・ヨハネと呼びなさい。私たちはみな兄弟なのですから」と言うのです。その意味で彼は実に大人物でした。

それで、以下述べることはもつと後になってから発表されるだろうと思っていたのですが、私の予想よりも早く洩らされたのです。

その手紙（ローマ法王からの手紙）には、ローマカトリック教会が、すでにある場所で（他の惑星に送り込む）、伝道者たちの訓練を始めていること、そして別な惑星をめざして出発する最初の宇宙船をアメリカが建造すること、カトリック教会の伝道者たちがそれに搭乗すること、それは別な惑星にカトリックの教義を伝えるためであること、などが書いてあるのです（笑いが起こる）。

本当のことです！ このことはバチカンから直接に送られてきたものであるとともに、彼らの公式文書に明確に記載されていることなのです。

実際には我々地球人が別な惑星の人々を必要としているのに、別な惑星の人々が地球人の指導を必要としているとか、彼らを教育してやるとか考えるのは手前勝手のように聞こえますが、まあいいでしょう。しかしバチカンが

そんな声明を出したという事実そのものは、別な惑星群に人類が住んでいるということを遠回しに承認したようなものです。

長老たちはカトリックの文書の中に書いてあるその件を読むでしょうし、司祭に尋ねるでしょう。「これはどういうことなんだい？」と。

すると司祭はスペースビープルに関して何かを相手に話す必要にせまられます。そこでそれが突破口となって、まもなく司祭たちは説教壇から他の惑星にも人間が住んでいるという話を話すようになるでしょう。そうなれば皆さんは私から話を聞く必要はなくなります（笑い）。

そうなたらすぐにあちこちの司祭たちが同じことを話すようになるでしょう。というのは英国国教会をはじめとして、あらゆるカトリック教会がバチカンの行動をまねる傾向にあるからです。

宇宙船はバチカンに着陸していた

問 そうすると彼らは他の惑星に人間が住んでいることを、すでに知っているのですか。

ア よく聞いて下さい。実はヨハネが法王になる前に、他の惑星の宇宙船がすでに三度もバチカンに着陸しているのです。ヨハネの時代になってからも一度着陸しています。ですから彼らは

かなりの事を知っているのです。私がバチカンで枢機卿たちや法王と話したときにも、彼らは私が知っている事を知っていたいました。彼らは異星人問題に関してはかなりの事を知っており、私から知識を求めたがっており、その知識をまとめようとしていました。

理由によって（異星人問題を）否定しているのです。まずは職業のためです。彼らは仕事を失いたくないのです。彼らは非難されながら対抗する力を持っています。多くの事情があるのです。ペテロはイエスを信じていました。パウロもそうです。その他の弟子たちもみなそうです。しかし危機が迫ったとき、彼らはイエスを独りにして逃げてしまいました。イエスは自分だけで闘う必要にせまられたのです。

問 それはブラザーズ（異星人）がすでにバチカンを訪れていたという意味ですか。

問 国際的な銀行家たちはこれに関係があるとお考えですか。

ア そうです。私が法王に話をしに行ったのは、イタリア政府とブラザーズの仲介があったからです。法王は私に小さな黄金のメダルをくれました。一ハカラットのものです。おかげで私はもうお金に困ることはありません。それを売ればいいのですから（笑い）。

ア 国際的な銀行家という意味のなら、イエスです。

問 しかもそれはアメリカの金ではなくてイタリアの金ですから、アメリカ政府はそれにたいして口を出す権利はまったくありません。

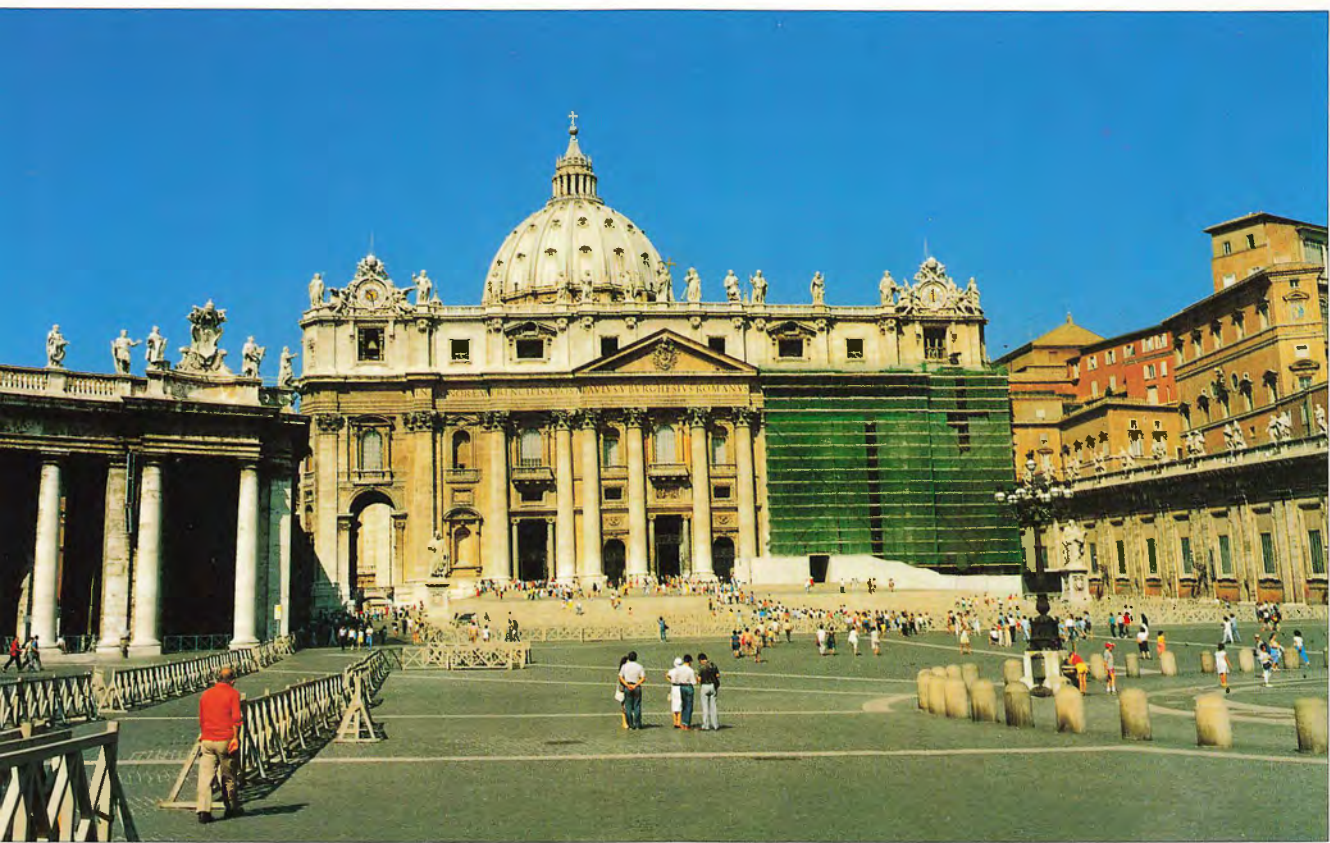
問 国際的な銀行家は世界に対して通貨をコントロールしているようですが（別な質問）ウォールストリートはどうですか。（訳注Ⅱウォールストリートはニューヨークの世界的な金融業の中心地）

問 バチカンは他の惑星に行つて、その人々に何を教えようと思っているのですか。

ア そうですね、ウォールストリートはあまり問題はありません。ただしそこには沢山のお金があります。そこでは商品の取引をやっているからです。株というものは人々が日常用いる商品によって上下します。しかしスイスの通貨取引は一般のお金に影響を与えません。少し前に我々は米ドルをカナダドルよりも下げませんでした、ウォールストリートは米国民のために米ドルを下げたのです。

ア カトリックの教義です！（ここでアダムスキーはメダルを取り出して表と裏を見せながら説明する）問 このことをすべて知っていないが、しかもこんなふうにそれらを否定している人たちのなかに大統領も加わっているのですか。

ア そうですね、多くの人は事実を知っているのですが、各自のいろいろな



▲バチカンのサンピエトロ大聖堂（中央の建物。右方は修理中）。この大広場に円盤型宇宙船が着陸した?!

撮影/久保田八郎（1986年8月）

問 フリーエネルギーの知識はアメリカの商品の株に大きな影響を与えるでしょうか。

ア それは商品に影響を与えます。通貨にも影響を与えます。国家というものはときとしてある日に裕福になったり翌日は落ち込んだりしますが、それは通貨が動揺するためです。

問 一般人はウォールストリートの大きな乱高下からひどく苦しむことがあるでしょうか。

ア あります。どこかの国がそれ自体のレベルから落ち込むときには、全世界がそれを感じ始めるでしょう。

問 そうすると、それはゆつくりと一般人に浸透させてパニックを防ぐための良い理由になるのでしょうか。

ア そうです。しかしパニックというのは必ずしも難儀な時代を意味するものではありません。私たちはむかしそれをパニックと呼んでいました。それは一九〇七年のことです。一九一一年にもありました。そして一四年にもありました。この最後の年に大不況が発生したので、経済問題を活性化させるために私たちは朝鮮へ行きました。今起こっているすべての事さえも経済の刺激になるのです。というのは世界の経済は実際には危ない基礎の上にあるからです。

宇宙への進出が地球の破滅を救う

だからこそスペースプログラムが非常に重要なのです。というのは、私たちがこの経済の分野で活動が続けなければ、我々は必然的に戦争の発生を招くようになるからです。戦争は破壊と再建です。そんなふうにして我々は生きてきたのです。人間が人々を殺し、友人たちを犠牲にして我々は生きていくのです。

（訳注Ⅱスペースプログラムというのは、スペースシップが地球を援助するためにひそかに展開している宇宙的な活動で、ごく少数の地球人もそれに参加している。日本GAPもその一翼をになつてゐる）

我々には必要以上に機械類を生産しています。そのために生産過剰が生じています。そしてまもなく誰も働けなくなるでしょう。この戦争の恐慌は続くはずで、というのは恐慌が存在する一方、人々は働いているからです。

一方、恐慌が存在しないとしましう。そして航空機や兵器などを造る会社で働いているすべての人を一時解雇したとします。そうなると、その人たちをどこで働かせればよいですか。どんな種類の機構が雇ってくれますか。その人たちはこの社会でひどい状態におかれるでしょう。

（訳注Ⅲ地球の経済は戦争をやっても

やらなくてもだめになるの意)

さて、スペースプログラムは宇宙のために活動をしながらその不振状態を取り上げています。ここの二、三年もすれば地球人は八〇パーセント宇宙へ進出します。我々の労働力は宇宙関係の仕事に向けられるでしょう。我々は宇宙空間に全経済を移行させます。しかも宇宙空間は無限です。

もし我々が探検用の宇宙船を建造し、それが後に商業用や輸送用、その他に用いられるとしても、長年月を要するでしょう。あらゆる物をこの地球社会で造る必要がありますが、そのときでさえも我々が宇宙へ進出すれば、一インチ刻みで進歩することになります。そうなる和我々は機械類をその都度改良しなければならぬことに気づきます。宇宙船も次々と改良が必要になります。それも地球社会で行なう必要があります。そうなる和我々の経済は初めて安定した状態になるでしょう。もはや生産過剰にはなりません。堅実な生産を維持して労働力過剰にもならず、万人が雇用されます。そしてかつてないほどの最上の繁栄が訪れます。

画期的な生活が実現する

問 高度な出生率については？

ア 出生率はいたいしたことではありませんし、何かを妨げたり人口過剰になることはありません。というのは、あ

なたが世界中を飛行機で飛んでみれば陸地が見えますが、それは美しい陸地で不変の楽園です。人類がまだ足を踏み入れたことのない土地です。我々は各種の戦争で莫大なお金を消費して世界中の人々に悲惨な状態をもたらしましたが、そのお金をこの未開地の開拓に使えばよいのです。そこには水もあり、土もあり、その他の必要な物は何でもあります。

この新たな土地で三〇億ないし六〇億の人間をトラブルなしに生活させることができるのです。しかし生活必需品などの配給は誰かが困らないようにうまくやる必要があります。彼ら(スペースピープル)が今立案している貧困をなくすこの計画はそれを実行する方向に動いています。我々はそれに時間を与える必要がありますが、問題はそれだけです。傾向はその方向に動いています。言い換えれば、誰かが間違ったボタンを押さないかぎり、我々は最高に素晴らしい未来を持っているのです。

さもなければ、我々がこれまで進んできたとおりに前進を続ければ、一九八〇年代までには我々はその証拠を見始めます。二〇〇〇年までには我々が夢にも見なかったような宇宙的な社会が実現するでしょう。物の分配はもっと平等に行なわれます。人間はさほど長く働く必要はなくなるでしょうし、学ぶための時間が増えます。沢山のあ

らゆる物を持つようになります。奥さん方はボロやゴミを捨てに出かける必要はなくなります。特殊な機械装置が開発されて、家屋内で飛び回っているゴミはその機械に吸収されるのです。家屋内の隅にコンテナナーが設置されて、あらゆるゴミはそこへ吸収されてしまいます。すると係員がやってきて、別な惑星でやっているように、それを集めて溶解機の中に入れて、それを溶解し、ゴミの中に含まれている金、銀その他の金属を取り出しますから、無駄になるものはありません。奥さんの体力の消耗はなくなります。これは最も素晴らしい生活法です。

(訳注)地球は未来において右に述べであるような理想的な社会に発達するのであるが、西暦二〇〇〇年までに実現するというのは、どうやらはずれだ) **地球の物理的变化について**

問 あなたが書かれた本の中で述べてありますが、地球の自然の変化についてはどうですか。

ア そうですね、それは起こるでしょうね。我々の地球だけではなくて太陽系全体が変化を経験しようとしているのです。太陽系全体ですよ。だからこそスペースピープルは観察しているのです。彼らは地球だけを観察しているわけではありません。あなた方が宇宙空

間へ出てみれば、太陽系全体が活動しているのを見ることが出来ます。地球上にいれば、ほとんど活動は見えませんが、今感じる以上のことは感じられません。地球の活動は時速一一〇〇マイルの動きです。

あなた方は地球上に立っています、地球から離れば地球の動きを見ることが出来ます。地球は今少し動きが遅くなっているのです。スペースピープルはそれを観測しています。もしこれが続くなれば太陽系が崩壊するような可能性があることを意味しています。そうならば地球だけではなくて太陽系の全惑星群が崩壊することになります。これについて次のようにお話ししましょうか。

イエスでさえもそのことを言っています。しかし人々はそれを無視しました。彼は言っています。「天」と。天というのは宇宙です。「天と地は過ぎ行くだろう。だが私の言葉は永久に残るだろう」と。これは天よりももっと偉大なものがあることを意味しています。そこでイエスは言っています。

「新しい天と新しい地がそれに代わるだろう」と。彼は各時代で「天」が第一だと言っているのです。

天というのは見えない力です。我々はそれを宇宙と言っています。この地上には一平方インチに一五ポンドの気圧がかかっていますが、我々はそれを感じません。我々は正當にその中に生

かされています。

そこで、もしこの見えない空間の、我々には見えない気圧がなくなつたとしたら、そして我々の体の中の圧力が一インチ平方あたり一五ポンドあるとすれば、我々の体は気球のようにふくらんで破裂するでしょう。

太陽系の惑星群も同じようなものです。それはその時点で圧力を受けており、大きな圧力は調和して軌道を保っています。そして惑星群は磁気の吸引と斥力によって互いに引き離されています。もしその圧力が消えたとしたら、地球のような惑星は内部の圧力から影響を受けて木端微塵になり、気球のようにふくらむでしょう。それは形態としての終わりです。これが発生してから新しい太陽系が出来るのです。

これは次の事と同じです。海の中のあらゆる魚や生物が死滅するには、その前にまず海水が消えてしまう必要があります。そうすると魚たちは死んでしまいます。ところが、魚や生物が海へ帰って来るには、まず海水が先に帰ってくる必要があります。そうですね？ スペースプールはこのことを観測しています。そして太陽系の終末が来るかもしれないと考えているのです。いつ来るのか？ それは彼らにも分からないと言っています。彼らは機械装置を用いて観測しています。彼らはそのような観測機を持っていますので、地球人は持っていません。

近隣に新しい太陽系がある

彼らはすでに新しい太陽系を発見しています。我々の太陽系からさほど遠くはありません。そこにはすでに数百万の人間がいますし、元の惑星から移住したりボランティアーで行ったりしています。なかには高度に発達した器具類を持って行く人もありますので、原始的な状態から出発する必要はありません。地球人でさえもそこへ行っている人たちがいます。ですからスペースプログラムを支持して出来るだけ強力に推進するべきだという別な理由もあるのです。もし地球に破局がおとずれても、私たちはそこへ人間を運ぶ宇宙船を持っています。

我々の太陽系の各惑星には充分な宇宙船があります。ですから太陽系内の崩壊が発生することを探知したならば、彼らは同胞である人類を移動させることができますし、宇宙船とともに彼らの最上の装置類を新しい惑星で使用する事ができます。これは一つの状態から別な状態に移行するようなものですし、または一つの国から別な国へ移動するようなものです。彼らはそれをやるでしょう。当然のことながら、彼らは自分たちの同胞を真っ先に運ぶでしょう。

その場合、もし彼らに時間があれば地球にも来て我々を助けてくれるでし

よう。しかし時間がなければ我々は死滅するようになるでしょう。そのとき、地球人が宇宙船を持っていれば、彼らは知らせてくれるでしょう。もし太陽系が崩壊するのならば知らせてくれるでしょうから、結局は時間の問題です。そうなれば地球から脱出する余裕はあります。ただし地球人が宇宙船を持っていなければの話です。

(ボストンにおける講演は以上で終了。以下はカナダのアルゴンキンにおける講演)

UFOをただ見るだけでは無意味

最初にお話し致したいのは、別な惑星から来る宇宙船は過去数年間よりもますます多く来るようになるだろうということです。政府がそれを世界に対して真実であると認める必要から、宇宙船はますます政府関係者に印象づけるようになっています。

しかし、それらを(UFOを)見るだけでは意味はありません。それはちょうど学校へ行きながら、教師が話す事柄について何もしないのと同じです。一度宇宙船を見る。また何度も見ると。しかし何度見ても同じことです。二度も三度も見たという以外は、何も学んだことにはなりません。

しかし見たということは、宇宙船が我々に「メッセージ」をもたらしただけです。そこでひとたび我々が自分のた

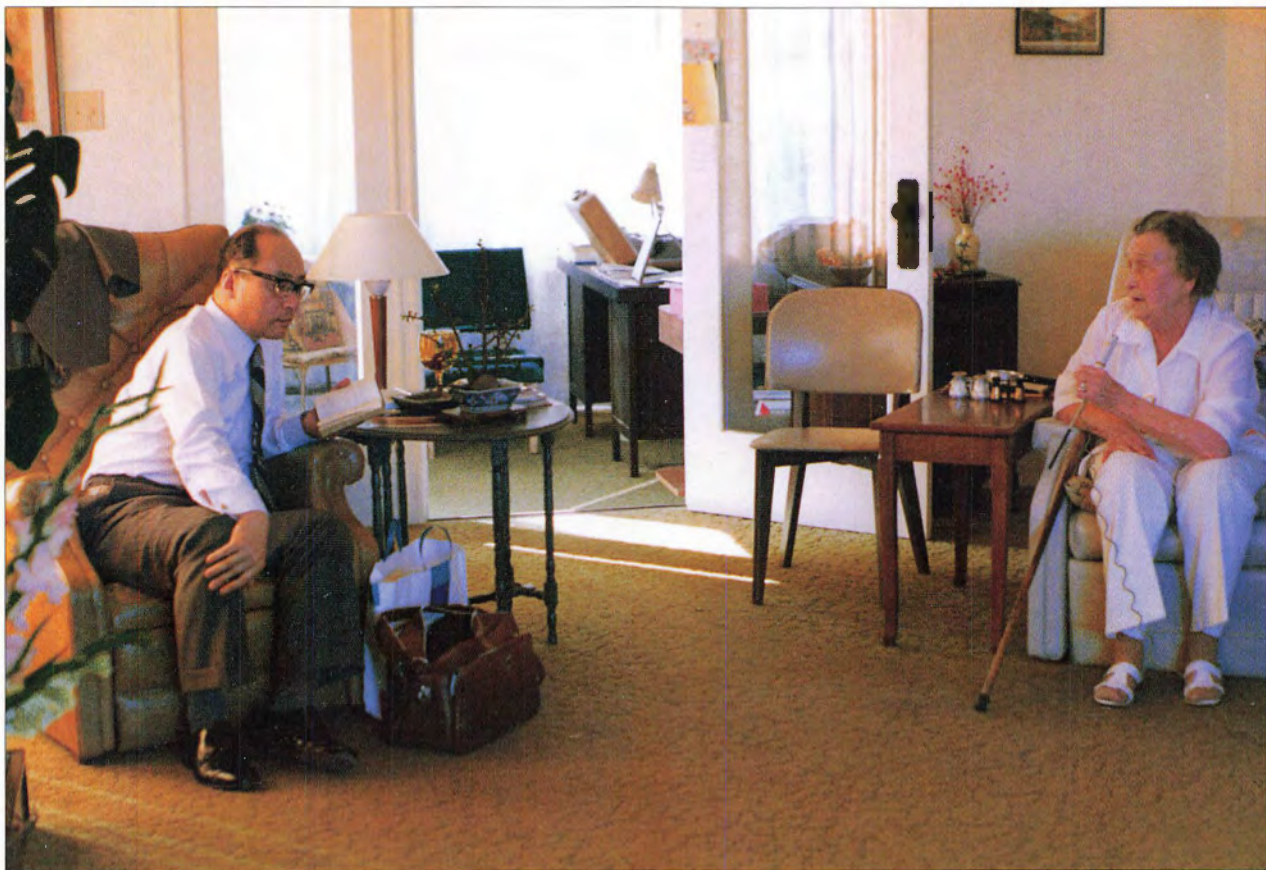
めにそのメッセージを応用するならば、それが援助を受けることになるのです。誰でも他人が食事をするためのテーブルをセッティングすることはできます。しかし、客人がそれによって楽しもうとするのならば「食べる」必要があります。これが重要なのです！ この場合は。

まず美しい心を持つこと

私の教えについて、それはアダムスキーの教えではないと言われてきました。私は世界に対する知識を教えに盛り込みました。人間の世界が発達してきた様子について――。

しかし私の教えはもっと宇宙的です。ある人たちはそう言っています。その教えは皮膚の色、人種、信仰などにかかわらず、各個人のためになるのです。みな人間であるからです。世界自体には悪いものは何もありません。人間が狂気になって地球に傷跡を残した戦時でさえも、数年後にはすべての傷は修復されています。そこで、どこで戦争があつたんだと、人はいぶかるでしょう。地球は大丈夫です。ですから地球自体を守ることは可能です。このことは何度も起こっています。

しかし美しい庭を持つためには、人は庭の手入れをしなければなりません。それで、その美しい庭を持つためには人は自分の想念を美しくする必要があります。ある人たちは大きな家屋敷に



▲1975年11月、米カリフォルニア州ピスタのアダムスキーの家取材で訪れた訳者・久保田八郎。右は故アリス・ウェルズ女史。3日間にわたって女史はアダムスキー問題を徹底的に話してくれた。中央奥の事務机はアダムスキーが使用していたもの。

住んでいるかもしれませんが、心の中には美しいものを何も持っていない。その場所はこちらに小さな花やその他の物で美化されているでしょうが、それは無視されていて、それだけのことで。住人は環境に何の注意も払わないのです。

人類についても同じです。我々がときどき傷をつけても世界は美しいのです。創造主が次々とその傷痕を癒してくれますし、補給しますし、磨き直してくれます。そして再び世界を美しくします。

個人についても同じことがなされるのです。世界は美しく残り、そんなふうが続くでしょう。それは自然の法則によって手直しされ支配されているからです。これは言い換えれば創造主の法則です。その創造主にどんな名前をつけようと。そこで我々が地球と同じように美しくなるには、我々は同じようにその法則に従う必要があります。

結局は人間の努力次第

どんなに多くのメッセンジャー（使者）が地球へ来ようとも、人々はスペースビープルを今は予言者と呼んではいますが、これは良い呼び名です。私が言うのは、ある宗教的な人々はキリスト教会と呼ぶ組織を好んでいます。彼らはスペースビープルを予言者たちと呼んでいます。

いかに多くの予言者が来ようとも、イエスが残した教え以上にすぐれた教えがあるとは思いません。私たちがそれを応用するならば、社会としての我々ははるかに良き人間になっていたでしょうし、こんなにちのように危険にさらされることは少なかったでしょう。しかし我々はそれを応用しませんでした。それを応用するには、それを生かす必要があります。次のように言う人があります。

「人間はイエスが教えたような生活をすることはできないんだ。なぜなら我々は別な種類の世界にいるからだ」

そうですね、人はそのように努力しない限りは、それを生かすことはできませんね。我々がこれまでに通り抜けてきたような厳しい生活を生きることができるといふのに、別な生き方がなぜできないのでしょうか？ 別なふう（それを（イエスの教えを）応用すればよいのです。しかしこの頃の時代にそれに従って生きるのは、たしかに容易なことではありません。

私が言いましたように、この地球がどんなに美しくても、人間が努力をしないかぎり意味はないのです。地球と調和してもっと美しくすることです。ですから、人々が関心を持っている宇宙船（UFO）は、この世界の改善のための解答にはなりません。特にこの文明を救うための解答にはならないのです。

（以下次号）

●ブラジルのUFO



▲1978年11月15日の午後4時頃、ブラジル、ゴイアス州イバマリでロベルト・エディルソン・ベレス氏が牧場上空を飛ぶアダムスキー型UFOを目撃、4枚の写真を撮影した。これは最後の4枚目。

©日本GAP

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★バックナンバーは101(中間欠)105(中間欠)107以降各号の在庫あります。バックナンバーのみ1冊¥700、送料不要、代金後払い可。ハガキに号数、住所(7ケタ郵便番号共)氏名、電話番号を明記して日本GAP宛ご注文下さい。101号から130号までの主要記事目録入用の方はハガキでお申込み下さい。お送り致します。

No.142 1998年(平成10年)7月25日発行 ¥700

金星アイエスの実像と出現の意義——久保田八郎
ホワイトサンズUFO搭乗事件(4)——ダニエル・フライ
実用化された遠隔透視能力——坂本貢一
異星人の壮大なスペース・プログラム——平田泰介
謎の男ウィリアムソン——ミッシェル・ジルガー
UFO目撃日記(4)——加藤純一
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ—G・アダムスキー

No.141 1998年(平成10年)4月25日発行 ¥700

バプアニューギニアのUFO出現騒動——久保田八郎
ホワイトサンズUFO搭乗事件(3)——ダニエル・フライ
地球人を救う異星人たち——パトリシア・フィンチ
太陽は熱い天体ではない!——平田泰介
宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類(2)——小山洋一
「生命の科学」万回読破で超能力が発現——池上正則
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ—G・アダムスキー

No.140 1997年(平成10年)1月25日発行 ¥700

火星には大都市があるか!——秋山真人
NASAによる火星探査報告の欺瞞性——杉山敏樹
ホワイトサンズUFO搭乗事件(2)——ダニエル・フライ
宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類(1)——小山洋一
UFO目撃日記(2)——加藤純一
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(3)—G・アダムスキー

No.139 1997年(平成9年)10月25日発行 ¥700

重大極まりないUFO問題——久保田八郎
ホワイトサンズUFO搭乗事件(1)——ダニエル・フライ
UFO目撃日記(1)——加藤純一
宗教とUFO問題のはざま——平田泰介
偉大なアダムスキー哲学——高梨十光
UFO目撃のメッカ、ニューメキシコ州——久保田八郎
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(2)—G・アダムスキー

No.138 1997年(平成9年)7月25日発行 ¥700

火星人に会った男——久保田八郎
コニストン円盤事件の現地を訪ねて——高橋 徹
異星人女性との不思議な出会い——ミッシェル・ジルジェ
UFOの磁気モーターの謎を解明——遠藤昭則
宇宙の使者——加藤純一
宇宙哲学で良き運命をつくる方法——久保田八郎
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(1)—ジョージ・アダムスキー

No.137 1997年(平成9年)4月25日発行 ¥700

UFO頻出のデザートセンタ——久保田八郎
私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た——中里信彦
空中に不思議なサインが出現——加藤純一
宇宙の真実を語るアダムスキー——肥後哲也
ケネディー大統領はドイツに転生?——久保田八郎
大宇宙の無限の力による長寿健康法——塩谷信男
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)——G・アダムスキー

No.136 1997年(平成9年)1月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<2>——久保田八郎
大宇宙の無限の力による長寿健康法——塩谷信男
反復思念とイメージ法で奇跡を起こす!——会田晋一郎
誤った宇宙論とアダムスキーの正当性——小山洋一
江戸川区のUFO——大根田匡史・岡田茂
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)——G・アダムスキー

No.135 1996年(平成8年)10月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<1>——久保田八郎
イエス出生の謎を探る——遠藤昭則
アダムスキー哲学を实践して奇跡的に病気が全快——西坂安信
オレンジ色の光体を目撃——堀下一郎
東京上空の細長い物体——藤原敏子
素晴らしい宇宙哲学講義——佐藤 彰
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(3)—G・アダムスキー

No.134 1996年(平成8年)7月25日発行 ¥700

米政府が隠すUFO問題の驚異的真相——久保田八郎
真実であったアダムスキーの体験——G・クレイトン
秋田で巨大円盤を目撃!——加藤純一
東京タワー上空の大母船——遠藤昭則
ロズウェル事件の真相はこれだ
コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問——遠藤昭則
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法—G・アダムスキー

No.133 1996年(平成8年)4月25日発行 ¥700

月は異星人の基地だった——久保田八郎
私の宇宙哲学実践とUFO目撃——加藤純一
懐疑論者から支持者に転向——J・ローリーノ
アダムスキー哲学と波動感知法——林 国宜
創造のための宇宙哲学——佐藤 彰
宇宙の夢とUFO目撃——吉川美香
カルナの意味——林寺正俊
東京大地震は近未来に発生しない——秋山真人
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法—G・アダムスキー

No.132 1996年(平成8年)1月25日発行 ¥700

別な惑星の文明と創造性——秋山真人
イエスの時代を透視する——遠藤昭則
奇跡を起こすイメージ療法——原 永倉
宇宙船の形態に関する一考察——遠藤昭則
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学—アリス・ボマロイ
好評、名古屋市の講演
東京造形大学で講演

No.131 1995年(平成7年)10月25日発行 ¥700

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんばんに出現!——加藤純一
私もワシントン市でUFOを見た!——清水 正
カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか——植木淳一
アダムスキー大会を思う——岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳
熱烈な呼びかけに応えたUFO——石井一裕
私のUFO目撃と宇宙的な生き方——忍田裕昭
宇宙時代の夜明け——村上博一
人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

第7回日本GAP秋田支部大会



全国の日本GAP会員の皆様こんにちは。秋田支部は17年間、隔年で支部大会を実施してまいりましたが、今年も第7回の支部大会を下記の要領で開催致すことになりました。継続は力なりと言いますが、まさに秋田支部は全員が丸となってあらゆる困難を克服しながら支部大会の実現と成功に向けて邁進してまいりました。久保田先生をお招きするこの大会は私達地方会員にとってこの上ない喜びであり、また大きな支えでもあります。宇宙的で実践的な内容のご講演を一同今から胸を躍らせながら期待しております。

今回は季節柄、翌日の観光を実施致しませんので、大会に向けて全力投球を致しますから参加者の皆様方も大いに高次元な雰囲気盛り上げて下さるようお願い致します。秋田支部一同は多数の会員の皆様方とお会いできることを無上の楽しみにし、万感の友情と誠意をもって皆様のご来場をお待ち致しております。

秋田支部代表 伊藤正治



プログラム

司会	田村 勝則
1:00 支部代表挨拶	伊藤 正治
1:05 講演	久保田八郎
	「アダムスキー問題と世界の未来と人間の生き方」
2:45 全員記念撮影/休憩	
3:15 全員自己紹介/質疑応答	
4:30 閉会	



- 日時 平成10年11月22日(日) 午後1:00~4:30
- 会場 秋田パークホテル 新館「寿の間」(新館は西館。県庁方面から来れば道路をへだてて右側の建物。右の図を参照)
- 交通 ①JR秋田駅よりバス土崎・寺内線でNHK前下車。徒歩10分。
②秋田空港よりリムジンバス終点の県庁・市役所前下車。徒歩10分。
- 会費 ￥2,500 (全員記念写真代は送料共¥1,000。希望者のみ)
- 宿舎 秋田パークホテル 朝食付シングル¥7,100 (税込み)
- 夕食 午後5:30~8:00 新館「ゴールデンの間」
- 会費 ￥6,500
- 申込 夕食会とホテル宿泊の申込は10月31日までにハガキで下記へお出し下さい。詳細案内書をお送りします。
〒010-0952 秋田市山王新町15-4 伊藤正治
☎018-862-2831
- 観光 11月下旬の秋田地方は大変寒くなりますので、観光は実施しません。個人で市内を簡単に観光することは可能です。車でご来場の方は、場合によっては降雪や凍結も予想されますので、スタッドレスタイヤを装着されることをおすすめします。

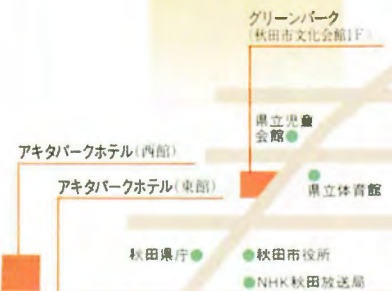
久保田先生のプロフィール

1924年生。鳥根県出身。慶大卒。1954年にアダムスキーの最初の体験記「空飛ぶ円盤は着陸した」を読んで大ショックを受け、文句なしに事実であることを確信して、以来アダムスキーと文通を続ける一方、宇宙哲学で師事し、1981年に師の勸奨と認可により日本GAPを設立。多大の困難を克服しながらGAP活動に専念。新アダムスキー全集全11巻を翻訳出版、その他UFO関係図書を多数出版している(すべて中央アート出版社刊)。日本GAP専門誌「UFO contactee」を発行するかわら、都内では毎月月例セミナーを開催。アダムスキー哲学の解説講義その他を指導。各地の地方支部大会でも指導を続けている。デンマーク・コリン市と米ワシントン市の大会で招待講演を英語で行ない、現在は世界のUFO研究界でUFOと宇宙哲学研究指導者として知られている。

日本GAP本部役員幹事 加藤純一



アキタパークホテル
〒010-0951 秋田市山王4-5-10 ☎(018)862-1515



秋田市山王七丁目3番1号 ☎018-864-5973

河辺郡雄和町椿川字山籠49 ☎018-836-3166-7

Letters

ユーコン広場



東京月例セミナーの素晴らし
さ
神奈川県 穴原美智子

先日(半年ぶりに)東京月例セミナーに出席させて頂きまして、非常に楽しく素晴らしい、さらに明るい雰囲気が増して、先生はじめ役員の方々の苦勞がうかがわれます。息子の会費をとって頂かず恐縮です。彼はたまに出席できるGAPの月例セミナーを心待ちにしています。きつと長いことお教え頂いているアダムスキー氏からの教えが知らぬ間に家族にも影響を与えていることと云います。夫にもそれとなくアドバイスしたミラクルワード等を実行し、順調に仕事をしているようです。感謝しております(編注：夫君は高名なクラシックギタリスト)。

私は翻訳の勉強をはじめて半年になりますが、この経験から久保田先生がどんなに苦勞を重ねてアダムスキー氏の本を日本に広めて下さったか、あらためて先生の力のごきと信念のすごさに感謝と驚きを感じずにはいられません。カルマのない人の訳では真実を知ることが出来なかったでしょうし、久保田先生がいらっしゃったことで、私はみなこの素晴らしい真実に出会えたわけです。あらためて先生の存在の大きさを再確認出来たのは私だけではないと思います。素晴らしい月例セミナーを有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

「意識の声」七月号に感動

新潟県 源川 正

久保田先生、「意識の声」七月号を拝読しました。私はいづぞや先生にお願いしました。「ぜひ先生の過去を生涯記のような形で、我々に対して必然の不可思議ではないということを書いて下さい。平易な語りで」と。そのことが先生の「意識の声」七月号に書かれていましたので感動しています。すなわち人には各々のカルマが存在していると人は先生のような方がそのようになつて苦難の人生を歩んでおいでになつていたとは、普通思わないでしょう。ゆえに今回の「意識の声」は、私のような世の中を斜めにしている者から言ひ様がなく感動しました。とにかく感謝あるのみです。

(編注：「意識の声」というのは久保田会長が毎月個人的に出しているエッセイで、維持会員の方々に贈られている)

素晴らしく高貴な東京セミナー

京都府 角谷智司

先日は六月一日の奈良市における久保田先生との質疑応答会で宇宙的なことに聞くことのできない貴重なお話を有難うございました。加藤さんからのお話によりまずと、先生

は奈良から帰られたその日から早速次のユーコン誌の編集のお仕事をなさっていたとのこと、自分に甘く自分をコントロール出来ない私にとりましては、身の引き締まる思いが致します。

と同時に久保田先生が三七年間、精力を傾けて続けていらつしやいますGAPという団体を、そしてアダムスキーの思想を、私たち若者が絶対に正確に次世代に伝えなければと思ひました。

五月にお邪魔させて頂いた東京月例セミナーでは残念ながら先生にお会いできませんでしたが、加藤さん、会田さん、篠さん、の堂々たる進行、それを支える役員や審明会の方々、常連の会員さんたちの見守る暖かいまなざし。GAPの会員ならば一度は参加してみたい素晴らしく高貴な会について僕は今まで何も知りませんでした。そして久保田先生やその周囲の方々の不断的努力を考えたとき、これはぜひとも自分で出来ることから実践してお手伝いをしなければと思ひました。(以下略)

質疑応答会に心から感謝

和歌山県 高木伴幸

このたび「久保田先生との質疑応答会」にて貴重なお話を披露していただき、誠に有難うございました。ふだんの月例会では決して聞けない事を教えて頂き、また日頃の疑問が解消しました。また初めて直接に大宇宙思念法を指導して頂くという貴重な経験をさせて頂きまして有難うございました。あらためて大宇宙思念法の重要性を痛感しました。

久保田先生には遠路はるばる関西

の奈良市まで来て頂きまして、重ねて有難うございました。また遠くからわざわざお越し頂いた会員の方々に心より感謝致します。先生のご健康と日本GAPの発展を心より祈願しております。

素晴らしくかつた質疑応答会

岐阜県 大谷和枝

先日は奈良市の質疑応答会にお越し下さいまして誠に有難うございました。先生には病後のことと御出席下さるのかしらと不安もありましたが、当日は力強い言葉と明快なお答えに感動致しました。さまざまな方面からの質問に大変興味深く聞かせて頂きました。

私が心に残つたのは、「日常生活での気持ちの切り替え法」というものでした。「上役からガミガミ言われたりした時には、宇宙の創造主が透明で静かな心を持つように、とのメッセージを送ってくれているのだ。相手に対して分裂反応を起こさないこと」

この素晴らしくいお話しは私にはすぐあすからでもこのお答えを生活に生かしてゆこうと思ひました。現在の職場に気楽なパートで仕事について早くも一〇数年という長いものになつてしまひました。そのうちにだんだん気楽ではおれない立場になつて、現在は下から突き上げられ、上からは押さえられて、つぶれそうになりながらもアダムスキー哲学のおかげで生かされています。

今回はイスラエル旅行に行った仲間九名が顔を合わせました。本当に友人ていいものだなあ、一生の宝だと改めて思ひました。このような

企画をして下さった黎明会の方々、関西方面のGAPの有志の方々に大変感謝致しております。

スペースビーブルは先を見ていた

北海道 山崎泰照

私はアダムスキーの本は昔、高文社版の「空飛ぶ円盤とアダムスキー」を最初に買って読んだのですが、その中で当時から気になつていた文があります。それは書簡集の中で、GAP活動された翌年の一九五八年四月二日付訳者宛で、「ところで、宇宙人たちの最近のコンタクトの一つで、あなたが(久保田が)日本で開始した友好運動は、多数の人が気づくより以上に世界に多大の影響を与えるだろうと宇宙人たちは語っていました」とある部分です。

私はいろいろな意味でも思っているのですが、これから現実的な意味でも、少し強くあらわれてくるのかなと思ひます。この当時、GAP活動を承諾されたすぐ後の言葉なので妙に気になつていました。久保田先生の深い信念とその結果の未来をスペースプラザーズは見透していたのでしょうか。今日はこの辺でペンを置きます。普遍なる方の祝福がありますように。

東京月例セミナー会場に不思議な光体が出現

神奈川県 橋本孝則

一つお尋ね致したいことがありましてお手紙しました。今年の六月でしたが私は東京月例セミナーに出席させて頂いたのですが、久保田先生が出席されて「生命の科学」の解説講義が始まつてすぐのことです。久

保田先生のすぐ近くにバツと光る比較的大きな者が見えました。

私は良くある目の錯覚かと思っております。後で加藤純一さんが壇上でフラッシュのような物が光ったとおっしゃいましたので、私はとても驚きました。

これには何の意味があるのかお教え願いたいのです。ただ単に私が同じ物を見たということなのではないでしょうか。おそらくした意味ではないと思いますが、なにとぞよろしくお願い致します。

お答え

久保田八郎

この件について加藤純一幹事に聞いてみましたら、大要次のとおりです。私が登壇して「生命の科学」の解説を初めてからまもなく、右後ろの黒板をバックにして光る物体が出現して、それが三度バツバツと光りながら下方へ移動するのが見えたということです。たぶん、私が全快して再度セミナーに出席したのをスペースビープルが祝福して超小型のスキヤングデイクを飛ばしたのではないかと彼は言っていました。証明は不可能ですからこれは憶測の段階にすぎませんが、そうだとすれば大変有難いことです。今後も倍旧の努力を傾注して頑張ります。

質疑応答会に感謝

岐阜県 牧 雅子

このたびは奈良での質疑応答会に出席させていただき、誠に有難うございました。久保田先生と黎明会の方々に一言感謝の気持ちを伝えたくてペンをとりました。

質疑応答会には初めて出席させて頂いたのですが、会場内の穏やかで

落ち着いた雰囲気にとっても驚きました。スタッフの方々もとても親切で、そしてまた皆さんは自然体なので、とても好感がもてました。

奈良駅から会場へ向かう途中で、前方に久保田先生とスタッフの方が見えたのですが、なぜか先生の姿がひときり目立ったというか、パワーのようなものが感じられました。私はこれがオーラというものかなあと考えたのですが、どうでしょうか。(中略) また機会がありましたらぜひ参加させていただきたいと思ひます。

◀福山城をバックにUF0観測会に集合した福山支部会員の方々。前列中央が栗田雅則代表。



福山支部、観測会を実施

広島県 栗田雅則

先日UF0観測会を福山で実施しましたが、その結果をご報告致します。当日は天気が若干悪く、曇空の状態ですがスタートしました。参加人数は六名。一同で確認できるUF0は出現しませんでした。私個人は不思議な丸い風船みたいな物を目撃しました。(中略) 奈良の質疑応答会には必ず参加致します。今から先生にお会いできるのを楽しみにしております。よろしくお願ひ致します。

不動の信念に感嘆

兵庫県 藤岡千春

厳冬をようやく脱したかに見えるこの頃でございます。平素、日本GAPを主宰御清昌の段、慶賀の至りと存じ上げます。

本日事務的なことをお尋ねするつもりでお電話致しましたところ、直接久保田会長とお話することとなり、狼狽、いささか礼を失する対応を致しまして冷汗し、御悔容下さいますようお願い申し上げます。昭和三十一年頃、G・アダムスキーの「空飛ぶ円盤実見記」を読んだ時の驚きと同時に、人間的な希望が無限に広がるが如くに思われ、引き続き「空飛ぶ円盤同乗記」を読みはじめて久保田八郎様の御名を記憶致しました次第でございます。

以来四〇有余年、貴名には親しみつつ来ましたが、最近になりまして不動の信念によって築かれた偉業に極めて大なるを痛感して居ります次第です。しかしながら同年代とは申せ安逸に暮らしつつ、次々と興味本

位に打ちすぎでおりまして、未だにUF0の一つも見えず、テレビに遠く、宇宙哲学の門口に逡巡しておりますのでございます。

貴誌を拝見して居る限り、特に若

新刊紹介

「癒される人生は必ずある」 一四〇〇円

秋山眞人・江戸総共著 ごま書房

秋山氏は誰も知っていない超能力者でコンタクティでもある有名な。国際気能法研究所を主宰し、人間の未知能力や潜在能力の科学的な研究・開発につとめる。独自のトレーニングによって多数の人を指導している。著書は数十冊に及び、久保田会長とは多年の親友でもある。

江戸総氏は北海道札幌市で「ポストン歯科クリニック」を開設する歯科医師で、日本GAPの熱意ある会員でもある。西洋医学と東洋医学の融合をライフワークとし、歯科の臨床と研究に取り組み成果をあげている。本格的なヒーリングケアセンターを札幌市に開設している。

本書は肉体の病気の癒しばかりでなく心が癒しまで言及し、難病を治す方法や超能力開発等に関して蘊蓄をかためた極意が述べられており、両者の期するところは、科学一辺倒の西洋医学だけでなく、気というもののよる波動的な次元に注目してこれに応用し、画期的な結果をもたらす方法を述べた点にある。精神世界探求の類書の多いこの頃だが、本書は間違いなく読者に起死回生の覚醒感を与えるだろう。

求めるものすべて あなたのの中に存在する

癒される人生は必ずある

癒しの大地 北海道からのヒーリング革命



哲学者 秋山眞人・江戸総
MAKOTO AKIYAMA MINORU EDO
歯科医師



ジョージ・アダムスキー＝著
久保田八郎＝訳

George
Adamski

全面改訂・改訳
全11巻／各四六判

新アダムスキー全集



① 第2惑星からの地球訪問者

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1922円＋税）／四六判並製 ●世界的に著名なUFO研究者、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見、自ら円盤や母船に乗り他の惑星の文明の実態を明らかにした本全集の中心たる書。

② 超能力開発法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●人間に内在する宇宙的能力の開発法を説く。四官をコントロールして肉体内部の宇宙意識からのメッセージを感じ、テレパシー、遠隔透視などを学ぶ。

③ 21世紀／生命の科学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●地球外生命体との接触によって開発されたアダムスキーの超能力開発プログラムの全貌。進化した異星人から地球人に伝えられた12のレクチャーを公開！

④ UFO問答100

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●1985年アダムスキーは世界中から送られてくる質問を分類し質疑応答集をまとめた。UFO問題の疑問を解き、混乱したUFO研究界に解答と示唆を与える書

⑤ 金星・土星探訪記

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体2330円＋税）／四六判並製 ●アダムスキーが母船に乘せられ、高度な進化をとげた金星・土星を訪れる驚異の体験記録。金星人として生まれ変わった亡き妻との再開。

⑥ UFOの謎

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1922円＋税）／四六判並製 ●円盤の推進理論や聖書とUFOとの関連など、UFOと異星人問題の真相を解明する書。後半は著者の世界講演旅行記で各国GAP網の活動状況を克明に描写。

⑦ 21世紀の宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1000円＋税）／四六判並製 ●地球人が宇宙的な成長をとげるために、心体内部に宿る宇宙意識との一体化を説いた書。既存の宗教・哲学では理解しえなかった意識と万物との関係を解く！

⑧ UFO・人間・宇宙

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体2330円＋税）／四六判並製 ●日本GAP機関誌に掲載されたアダムスキーのUFOと宇宙哲学に関する論文や講演録を編纂。特に他界する直前の最後の講演が圧巻！

⑨ UFOの真相

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1922円＋税）／四六判並製 ●アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説、講演録などを収録。アダムスキーの宇宙の実像と、人間味豊かな庶民性を持つ素顔を多角的にとらえる。

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー

久保田八郎著 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●アダムスキーの理論と哲学を要約、国際的アダムスキー研究者・久保田八郎が初めて書き下ろした意欲作！アダムスキー入門書。

⑪ 肉体を超えて 大宇宙と一体化する方法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体2800円＋税）／四六判並製 ●アダムスキー高弟のアリス・ボマロイ女史が、アダムスキーの膨大な講演録を収集。久保田八郎氏が翻訳した大著。宇宙哲学の真髄を究めた最高名著。

別巻・UFO宇宙からの完全な証拠

ダニエル・ロス著 久保田八郎訳 定価（本体2718円＋税）／四六判並製 ●アメリカ気鋭のUFO研究者、ダニエル・ロスが全力で展開したUFO問題の真相！アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した書。

* 新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと
本体価格の10%引き＋送料がサービスとなります

CAP
CHUO ART PUBLISHING CO., LTD.

中央アート出版社

〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL 03-3561-7017 郵便振替：00180-5-66324

UFO事件と 愛の異星人 交信

久保田八郎著

定価(本体2400円+税)送料310円
四六判並製・352頁

世界のUFO事件を研究調査してきた著者が、ルールドの奇蹟やファティマの名高い聖母空艇事件やメキシコのマヤの遺跡その他の謎の事件等に現地調査のメスを入れて、別な惑星から来た宇宙船に起因することを検証し、さらに異星人と交信して愛と救いのメッセージを与えられている日本人青年の感動の実話を加えた心あたたまる希有のノンフィクション。



UFOと 異星人の 真相

久保田八郎著

定価(本体1602円+税)送料310円
四六判並製・288頁

UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。



UFOと 宇宙哲学の 行方

(ゆくえ) 久保田八郎著

定価(本体1602円+税)送料310円
四六判並製・288頁

本書はわが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が「UFOcontactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部ではアダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



UFO・ 遭遇と 真実

—日本編— 久保田八郎著

定価(本体1500円+税)送料310円
四六判並製・264頁

日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。



※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13

TEL 03-3561-7017 郵便振替: 00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No. 13 日本GAP

B5版/12頁/カラー写真掲載/コート紙使用/¥1,000 送料¥160

日本GAPは国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回発行して世界のUFO研究団体や個人研究家と交流を続けています。本誌にはアダムスキー問題を中心にUFOと宇宙哲学記事を主体に掲載し、アダムスキーが世界のGAPリーダーに送った質疑応答集も連載しています。No. 13には日本語版142号に掲載された「金星人イエスの実像と出現の意義」の英訳、その他のカラー写真や記事が掲載されており、米人校閲の流麗な英文による本誌は英語学習に最適です。日本GAPへハガキでご注文下されば代金後払いでお送りします。現品に同封の振替用紙で着後にご送金下さればOKです。

From The Editor 編集集後記 SSS

●本号では久しぶりにZ氏による火星の実態に関する記事を掲載しました。地下に大都市を建設！超絶した科学レベルを思わせました。しかもNASAがこの事実を知っていたとは！この世界の奥は底無しです。世の中を知ることは重要さと困難とを感じます。

●「異星人の壮大なスペース・プログラム」は筆者が参考文獻の精読と研究の限りを尽くした素晴らしい論説で、その視点は科学界のレベルをはるかに超えています。このような記事を発表出来るのは本誌が誇るもので、その意味で本誌は高度な存在価値を有するといえるでしょう。

●世紀末が接近するにつれて怪しげな予言類が跳梁しますが、本誌は悲観的な言説を排除して明るい展望のもとに未来世紀を期待しています。それは地球外文明との接触を予測しているからで、遠からず実現するでしょう。

●本号では「ホワイトサンズUFO搭乗事件」「謎の男ウィリアムソン」は休載しました。次号より再度連載を続けます。ご了承下さい。ついでながら編者久保田は健在です。ご安心ください。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 冬季号
UFO contactee 143号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP

〒104東京都中央区本町一丁目12-15
電話 03-3651-0958

振替 00140-2-35912

一九九八年一月二十五日発行

定価九四〇円(本体九〇〇円・送料四〇円)

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※来年1月のみは第2日曜日の10日に変更。 来々2月は11日(祭日)に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3階第2研修室。 ☎03-3434-8211 JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958	会 場 費 ¥1000 セ ミ ナー 受 講 料 ¥1500 計 ¥2500	1:00→1:40 会員の講演。 1:45→3:15 久保田会長の 講義「生命の科学」 3:25→5:00 超能力開発練習/近況 報告/ビデオ映写/質疑。 ※日本GAP会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新アダムス キー全集、GAPグッズ等を販売。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711 JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※11月のみは第1日曜日の1日に変更。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141(内) JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥500	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛 電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
北海道支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:00 ※本年11月のみは第5日曜日(30日)に臨時変更。	札幌市中央区北2条西7丁目「かでの2・7」(北大付属植物園前、北海道警察本部横) JR札幌駅より徒歩7分、地下鉄札幌駅あるいは大通駅より徒歩7分。☎011-231-4111 (道庁代表)にかでの2・7に接続を依頼すると会場へ直通。 連絡先=林寺正俊 ☎011-763-7711	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4火曜日 午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数1-6-5 早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-835-3991	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※11月のみは第3日曜日の15日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市民文化会館」 ☎045-681-6551 JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5995-6038	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2 ひと好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時に変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第2日曜日 午後1:30→4:30	広島県福山市霞町1丁目10番1号「福山市民会館」3F第3会議室 ☎0847-21-2151 JR福山駅から南に徒歩10分。 連絡先=森田(なつめだ)雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上
埼玉支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	埼玉県浦和市高砂3-1-4「埼玉会館」 ☎048-829-2471 JR京浜東北線「浦和駅」西口より県庁通りを徒歩5分。 連絡先=会田裕子 ☎0492-81-4267	¥800	同上
関西支部	毎月第4日曜日 午後1:30→5:00	大阪府堺市長曾根町183-5「南大阪地域地場産業振興センター」 ☎0722-55-0111 地下鉄御堂筋線「なかもず」②出口より徒歩5分。南海高野線「中百舌鳥」北口より徒歩5分。堺駅南口より南海バスなかもず停留所。連絡先=築瀬和孝 ☎06-967-7651	¥1000	同上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーがカリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード〈超能力開発用〉

テレビシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのアユーク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2〜5個)¥190



本誌綴込み用バインダー

このバインダー1個に本誌8冊(2年分)を簡単に綴込み可能。美麗背文字入り。背中に年号を書き込めば取り出しに便利です。

¥1,000 送料は1個〜5個 一律¥800



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が見え隠れ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集

訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでもお届け致します。

申込先

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は関係ありません。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 郵便振替=00140-2-35912 電話=03-3651-0958



日本GAP能力開発カセットテープ

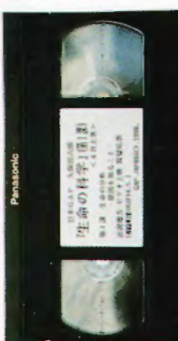
●「生命の科学」能力開発テープ¥1500
送料1本¥160 計¥1660

日本GAP東京本部開催月例セミナーで久保田会長が98年4月から毎月行なう「生命の科学」解説講義と質疑応答を録音した1時間半カセットテープ。みずから「生命の科学」を実践して驚異的な体力と気力を持つ大指導者の雄大な宇宙的哲学と生き方に関する大講演をお聴き下さい。心が変われば人間が変わり運命も好転します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約5日間を要します。

申込先

日本GAP



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000

〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本GAP総会 全2巻各¥3000

〈内容〉毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000

〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語) 全1巻 ¥3000

〈内容〉1995年9月8日、久保田会長が英語で長時間講演しためずらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語訳本文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥390、2本以上3本まで¥700。

申込先

ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号を、明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払いは不可) ¥162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103

伊東芳和 振替 00140-8-13811 電話 03-3351-9526

何とオーダーメイド!

秋山真人先生推奨



あなただけの波動器を作ります!!

■OVOマインドエンジンとは何か?

10年以上にわたる研究によりエソープ・ルトン博士は、いままでの波動学とは別の視点から「波動形態理論」を完成させ、外部電源を必要としない強力な波動コントローラーを生み出しました。電源を必要としないから、クリーンでリーズナブル。また、装置本体は透明高級アクリルと稀少鉱石の美しい組み合わせで、ユーザー一人一人の波動に合わせて作成するという、オーダーメイドです。特殊なシートの中にあなたの波動を転写しプリント基盤(核波動共鳴図形回路)を作成し、アクリル球体の中に封入。さらにあなたの指紋から波動座標を割り出し、それと親和性の高い波動浄化調整済の稀少鉱物とカップリングします。シンプルで美しく個性的・・・これが OVOマインドエンジンです。

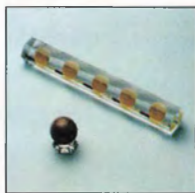
■OVOマインドエンジン・直径37ミリ
ガラスプレート(9,800円 送料・消費税込)

ミニピラミッドの連続体を刻んだガラスと中核波動形態基盤を、錫を基本とした特殊合金でパッケージしました。あなたの心身の波動、および、あなたが見たり触れたりしたものの波動を高めます。(ガラスプレートについては稀少鉱石はつきません。)



■OVOマインドエンジン・全長最大200ミリ
ヒーリング・コンディショナー(53,500円 送料・消費税込)

スティックタイプの強力型でヒーリングを行う人の心身の波動を守護するものです。他からの質の良くない波動を完全にブロックする(悪質波動と共鳴する回路の遮断)のために作成されました。イギリスにある100年以上も前に建てられたゴーストハウス(幽霊の出る家)に、このコンディショナーを置いたところ、その日から幽霊が出なくなったという現象も報告されており、活用法はあなたのアイデア次第です。



OVOマインドエンジンにできること!

波動の良否のチェック・波動の変調浄化・邪気、波動の消去・マイナス波動のプラス転換・波動の強化増幅まで自由にでき、必要な時間はそれぞれ3分もあれば充分です。OVOマインドエンジンは、いわば良質波動のレンズのようなもので、あなたの心身をシステムの一部として使用します。

注文方法

ハガキの裏面に住所、氏名、生年月日、年齢、職業、TEL、商品名、個数を必ず自筆で記入してください。印鑑を押していただいた後、ハガキに手、または足の指紋(どの指でも可)を朱肉かスタンプインキ(色は問いません)で押してから発送してください。当社口座に入金が確認され次第、作成にかかりますので、商品到着までに3~4週間かかることもあります。入金の際、下記の口座までお振り込み、または、現金書留、郵便為替で送金ください。

●郵便局：口座名義 オフィス江戸幕府
記号10120 番号36766381

●銀行：口座名義 オフィス江戸幕府
第一勧業銀行 成増支店 普通口座 1682151

●現金書留●郵便為替
〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F
株式会社オフィス江戸幕府
UFOコンタクター OVO マインドエンジン3係

■OVOマインドエンジン・直径30ミリ石球共
ルミナ波動レンズ(19,800円 送料・消費税込)

40種類以上あるといわれる風水龍穴地の形を分析しさらに独自の技法で組み合わせた12種類の図形回路を作成。12種の基盤の内、2種類をあなたの波動に合わせて選び、エンゼルヘアークウォーツ、レインボークォーツ、レッドジャスパーなどの30ミリ球とカップリングしてあなたの身体が発する中核波動を転写・調整してお届けします。稀少鉱石球もあなたの波動にあった石を選びます。



■OVOマインドエンジン
フルパワーキット(127,000円 送料・消費税込)

太陽の波動を転写した80ミリ大型波動レンズ球と、スフィンクス(エジプト)の波動と月の波動を転写した60ミリ中型波動レンズ球、さらに定型波動レンズと同じく稀少鉱石球、ヒーリング・コンディショナーなどが、すべてセットになったお得なキットです。波動コントロールは勿論のこと。願望の具現化、霊的問題の解決、人間関係の円滑化、能力開発など様々な分野で活用でき、組み合わせて作動させることによってマル秘の活用法があります。



●その他・波動製品を作るためのプロフェッショナルキットやヒーリングのプロのための特注キットなど制作に応じますのでご相談ください。

■オフィス江戸幕府は、マインドケアに関するあらゆる歴史、文化を研究し、広布するための法人として設立されました。宗教、思想団体とは一切関係なく、メディアへの協力、コンサルティング、セミナー企画、カウンセリング、グッズの開発などを行っています。また、社内にマインド・アンティーク(いやしを与えるアンティーク)の博物館(日本初)があり、アンティークをリーズナブルな価格で展示、販売しています。(要電話予約制)

株式会社オフィス江戸幕府

〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F

TEL 03-3957-4999

FAX 03-3957-4940 TEL・FAX 24時間受付



●超稀少水晶、レコードキーパー・クリスタル、珪晶、レッドファントムクォーツ等、稀少鉱石を特別頒布します。詳しくはお問い合わせ下さい。